

第三篇

水力學 (Hydraulics)

第一章 總 論

111. 流動體 流動體トハ其微分子間ニ凝聚力ナク且ツ内部摩擦ナキモノナリ。故ニ微弱ナル力ヲ加フルモ直ニ微分子ノ相互ノ位置ヲ變シ又内部摩擦ナキ故ニ分子間ニ働ク力ノ方向ハ常ニ其接觸面ニ垂直ナリ、然ルニ完全ナル流動體ハ實際存在スルモノニアラズ。空氣、瓦斯、酒精、水ノ如キハ完全流動體ニアラザルモ高度ノ流動性ヲ有シ凝聚力モ内部摩擦モ極微細ナレバ完全流動體トシテ取扱フモ實際上ニ於テ不都合ナシ。然レトモ油、ぐりすりん、糖蜜等ハ流動性高カラズシテ完全流動體トシテ取扱フ能ハズ。

流動體ヲ分チテ氣體及液體ノ二種トス、液體ヲ支配スル原理原則ヲ研究スル力學ノ一分科ヲ水力學ト謂ヒ、靜止セル液體ニ就テ研究スルモノヲ靜水力學、流動セル液體ニ就テ研究スルモノヲ動水力學ト謂フ。本篇ニ於テハ實際上最關係深キ水ニ就テ其原

理原則ヲ論究セントス。

112. 水ノ物理的性質. 重量 一定容積ノ水ノ重量ハ其溫度及純粹ノ程度ニヨリテ異ナリ、華氏 39.3 度ニ於テ最モ重シ、此溫度ヨリ増シテモ減シテモ輕クナル、又純粹ナル水ハ不純ノモノヨリ輕ロシ、淡水ノ海水ヨリ輕キハ此一例ナリ、實際工事ノ設計ヲナス場合ニ於テハ

淡水一立方呎ノ重量=62.5 听

海水一立方呎ノ重量=64 听

トシテ不都合ナシ、尤モ水力發動機、又ハ唧筒ノ効率檢定ヲナス場合ノ如ク水ノ重量ヲ精密ニ調査スル必要アルトキハ水ノ溫度及不純物ノ有無ヲ檢シテ水ノ重量ヲ定メザルベカラズ。

壓縮性 茲ニ華氏 32 度ノ水アリ、之ニ一氣壓(一氣壓トハ每平方吋ニ付 14.7 听ノ壓力ナリ)ノ外壓力ヲ加フル毎ニ水ガ壓縮セララル容積ハ僅ニ其原容積ノ十萬分ノ五ナリ。例令ハ海面ニ於テ一立方呎ノ海水ノ重量ハ 64 听ナルガ五百呎ノ深サニ於ケル海水ハ壓縮セラレテ其密度ヲ増シ一立方呎ノ重量ハ 64.05 听トナリ僅ニ 0.05 听ヲ増スニ過ギズ。故ニ實際工事ニ於テハ水ハ壓縮セラレザルモノト見做シテ差支ナシ。

彈性係數 前述ノ如ク水ハ多少壓縮セラル、モ
 ノニシテ其外壓力ヲ取去ルトキハ水ハ其彈性ニ因
 リテ再ビ原容積ニ復スベシ。水ヲ壓縮スル際單位
 面積上ノ壓力ト單位容積ノ變化トノ比ヲ彈性係數
 (Modulus of Elasticity) ト謂フ。而シテ之ハ容積ニ關ス
 ルモノナレバ之ヲ積彈性係數 (Bulk Modulus) トモ謂
 フ。

E = 彈性係數

p = 單位面積ニ於ケル壓力

V = 水ノ原容積

ΔV = 壓セラレタル容積

$$E = \frac{p}{\frac{\Delta V}{V}}$$

若シ p ガ一氣壓即チ 14.7 呎每平方吋ノトキハ

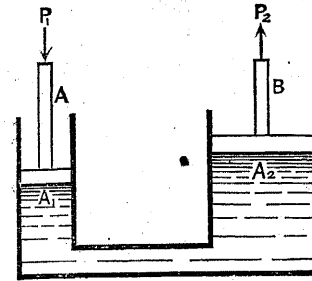
$$\frac{\Delta V}{V} = 0.00005$$

故ニ $E = \frac{14.7}{0.00005} = 294,000$ 呎/平方吋

此値ハ 1000 呎每平方吋以下ノ壓力ニ對シテハ壓力
 ノ大小ニ關セス一定不變ナリ。

壓力ノ傳播 密閉セラレタル器中ノ液體ハ其一
 局部ニ加ヘラレタル壓力ヲ其力度ヲ變セスシテ總

第 227 圖



テノ方向ニ傳播ス之レ液
 體ノ特性ナリ。第 227 圖
 ニ於テ A, B ナル二個ノ
 唧子ヲ有スル器中ニ水ヲ
 充タシ A 唧子ニ P_1 ナル壓
 力ヲ加フルトキ A 唧子ノ
 面積ヲ A_1 トスレバ其面ニ

於ケル壓力度 p ハ

$$p = \frac{P_1}{A_1}, \text{ 即チ } P_1 = p \cdot A_1.$$

而シテ此壓力度 p ハ液體ノ特性トシテ總テノ方向
 ニ傳播セラレ B 唧子ノ面 A_2 ノ上ニモ加ハルベシ。
 故ニ此 B 唧子ニ於ケル全壓力ヲ P_2 トスレバ

$$P_2 = p \cdot A_2.$$

$$\frac{P_2}{P_1} = \frac{p \cdot A_2}{p \cdot A_1}.$$

故ニ

$$P_2 = P_1 \frac{A_2}{A_1} \dots \dots \dots (128)$$

B 唧子ノ面積ヲ A 唧子ノ面積ニ比シテ大キクスル
 程 P_2 ヲ P_1 ヲリ大キクスルヲ得即チ小ナル力ニテ
 大ナル壓力ヲ生ゼシム。水壓機ハ此原則ヲ應用シ
 タルモノナリ。

113. 單位 此篇ニ用フル單位ハ距離ヲ測ルニ呎

ヲ以テシ。力ヲ量ル單位ヲ所トシ、時間ノ單位トシテ秒ヲ用フ。

水ノ壓力ヲ示スニ所毎平方呎ヲ以テシ其容積ヲ示スニ立方呎ヲ用フ併ナガラ習慣上水ノ壓力ノ單位トシテ所毎平方吋ヲ用キ又容積ノ單位トシテ「ガロン」ヲ用フルコトモ多シト知ルベシ。「ガロン」(Gallon)ニハ英「ガロン」(Imperial Gallon)ト米「ガロン」(U. S. Gallon)トノ二種アリ。

1 立方呎 = 7.48 米「ガロン」

1 米「ガロン」 = 0.833 英「ガロン」

動水ノ原理ヲ研究スルニハ重力ノ加速度ヲ知ルコト必要ナリ此加速度ヲ示スニ呎毎秒毎秒ヲ以テス。重力ノ加速度ハ地球ノ緯度及ビ海面上ノ高度ニヨリテ異ナルト雖普通ノ場合ニハ

重力ノ加速度 $g = 32.2$ 呎毎秒毎秒トシテ差支ナシ。

第 二 章 水 壓

114. 水頭ト水壓 (Head and Pressure) 水頭ト水壓トノ關係ヲ論スルニ先タチ壓力度ニ就テ説明セザルベカラズ。壓力度トハ單位面積ニ働ケル壓力ナ

リ。 (第五節ノ三)

p = 壓力度

dA = 水壓ヲ受ケタル面積 A ノ細微部分

dP = 細微面積 dA 上ノ水壓

トスレバ
$$p = \frac{dP}{dA} \dots\dots\dots (129)$$

即チ
$$dP = p \cdot dA$$

全面積 A = 於ケル全水壓 P ハ此等ノ小部分 = 於ケル水壓ノ總和ナリ、若シ壓力度 p ガ全面積ノ上ニ均等ナリトスレバ

$$P = p \int dA = p \cdot A.$$

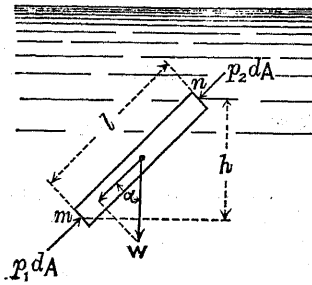
故ニ
$$p = \frac{P}{A} \dots\dots\dots (130)$$

(130) 式ニ於テ若シ p ガ均等力度ナラザル場合ニハ p ハ平均ノ力度ヲ示スモノト知ルベシ。

今靜止セル水ノ一部分即チ $m n$ ナル柱狀體ヲ想像スレバ (第 228 圖ヲ見ヨ) 此柱狀體ハ靜止狀態ニアルヲ以テ之ニ働ケル外力ハ總テ平衡ヲ保タザルベカラズ。然ルニ此等ノ外力ヲ軸ノ方向ト之ニ直角ナル方向トニ分解スレバ各ノ方向ニ於ケル分力ノ代數和ハ零ナルベキナリ。故ニ今軸ノ方向ニ於ケル外力ノ平衡ヲ考フルニ

dA = 水柱ノ横斷面積

第 228 圖



l = 水柱ノ長
 $p_1 = m$ 點 = 於ケル水ノ壓
 力度
 $p_2 = n$ 點 = 於ケル水ノ壓
 力度
 p_a = 水面ノ單位面積 = 於
 ケル氣壓

W = 水柱ノ重量
 w = 水ノ單位容積ノ重量
 α = 水柱軸カ鉛直線トナス角
 h = m, n 二點ノ高低ノ差

然レバ m 點 = 於テ水柱 = 加ハル水壓ハ $p_1 dA$, n 點 =
 ケル水壓ハ $p_2 dA$ = シテ其方向ハ相反ス. 又水柱ノ
 重量 W ハ $w l dA$ ナリ. 此重量 W ノ水柱ノ軸ノ方向ニ
 於ケル分力ハ $W \cos \alpha$ = シテ其方向ハ m 點 = 於ケル
 水壓ノ方向ト反對ナリ. 此等ノ外力ノ代數和ハ零
 ナラザルベカラズ故ニ

$$p_1 dA - p_2 dA - w l dA \cos \alpha = 0$$

即チ $p_1 - p_2 = w h$(131)

然ルニ水面ニハ氣壓加ハルヲ以テ第一章第 112 節
 ニヨリ(131)式ニ於ケル p_1 及 p_2 ノ中ニハ氣壓ヲ含ム.
 故ニ若シ n 點カ水面ニアル場合ナレバ $p_2 = p_a$ トナ

ル故ニ(131)式ハ次ノ如クナルベシ.

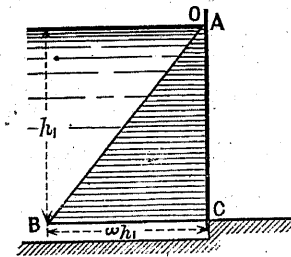
$$p_1 = w h + p_a \dots\dots\dots(132)$$

然ルニ p_1 ノ中ニモ p_a ヲ含メルヲ以テ水ニヨリテ
 ノミ生ズル壓力度ヲ p トスレバ $p_1 = p + p_a$ トナル從
 テ

$$p = w h, \text{ 即チ } h = \frac{p}{w} \dots\dots\dots(133)$$

上式ニ於テ h ハ水中ノ或一點 m ヨリ水面マデノ
 鉛直距離ニシテ通常之ヲ水頭(Head)ト謂フ. 此水頭
 h ノ爲メニ p ナル水壓ヲ生ズル故ニ之ヲ壓水頭
 (Pressure Head)ト謂フ.

第 229 圖



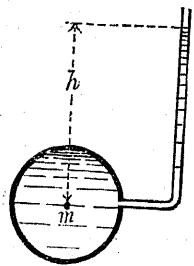
又上式ニ於テ w ハ常數ナル
 故ニ水面ニ於テ $h=0$ ナル
 ヲ以テ壓力度ハ零ニシテ其
 水頭ニ正比例シテ其壓力度
 ヲ増スモノニシテ其壓力度
 ノ配布ハ第 229 圖ノ如ク三

角形 ABC ニテ表ハスヲ得ベシ.

通常一氣壓トハ每平方吋 = 14.7 斤ノ壓力度ニシ
 テ水頭 34 呎ノ水ノ壓力度ニ等シ. 氣壓ニ限ラズ蒸
 汽ノ壓力其他ノ荷重ノ爲メ水面ニ外壓力加ハル場
 合ニハ外壓力ノ力度ヲ p_0 ニテ示セバ(132)式ニヨリ

$$p' = w \cdot h + p_0 \dots \dots \dots (134)$$

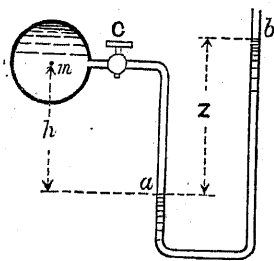
第 230 圖



今第 230 圖ニ於ケル如ク管内ノ水中 m 點ニ於ケル水壓ヲ知ラントスルニハ管壁ニ小孔ヲ穿チ之ニ小管ヲ立テ管内ノ水ヲ之ニ通シ此小管内ニ昇リタル水面ト m 點トノ鉛直距離即チ水頭 h ヲ測レハ (133) 式

$p = wh$ ニヨリテ m 點ノ水壓ヲ知ルヲ得ベシ。然ルニ水壓大ナレバ長キ小管ヲ要シ實用上不便ナルヲ

第 231 圖



以テ第 231 圖ニ於ケル如ク水銀ヲ充タシタル U 字形管ヲ管壁ニ挿入シテ管内ノ水ヲシテ水銀面ニ働カシムレハ a ナル水銀面ハ降リ b ナル水銀面ハ昇ルベシ。此 a, b ナル二ノ水銀面ノ落差ニテ

測リ知リテ m 點ノ水壓 p_m ヲ見出スヲ得ベシ。

w = 水ノ單位容積ノ重量

w' = 水銀ノ單位容積ノ重量

a ナル水銀面ニ於ケル水壓ハ Z ノ高サヲ有スル水銀柱ノ重サニ等シ。

$$p_m + w \cdot h = w' \cdot z$$

$$p_m = w' \cdot z - w \cdot h$$

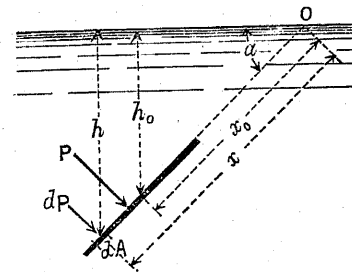
然ルニ $\frac{w'}{w} = 13.59$

故ニ $p_m = w(13.59z - h)$

上式ニヨリ z ト h トヲ測知スレバ m 點ニ於ケル水壓 p_m ヲ見出スヲ得ベシ。

115. 水中ノ面上ニ於ケル水壓 第 232 圖ニ於ケ

第 232 圖



ル如ク水中ノ面上ニ細微ナル面 dA ヲ想像シ此 dA ナル面上ノ壓力度ヲ p トスレバ此 dA ナル面上ニ於ケル總水壓 dP ハ $dP = p \cdot dA = w \cdot h \cdot dA$ 。

全面積 A ノ上ニ於ケル總水壓ハ此細微面積上ノ水壓ノ總和ナリ、此總水壓ヲ P トスレバ

$$P = \int w \cdot h \cdot dA = \int w \cdot x \cdot \sin \alpha \cdot dA$$

$$= w \cdot \sin \alpha \int x \cdot dA$$

上式ニ於テ $x dA$ ハ細微面積 dA ノ O 軸ニ對スル面率ナリ、今 \bar{x} ヲ全面積 A ノ中心 G ヲリ O 軸マデノ距離トスレバ

$$\int x \cdot dA = \bar{x} \cdot A$$

故 =

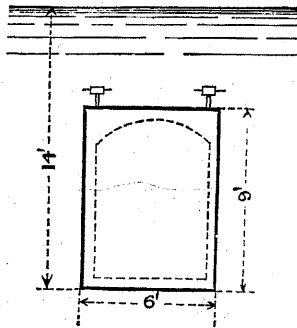
$$P = w \cdot \sin \alpha \cdot A \cdot h_0$$

$$P = A \cdot w \cdot h_0 \dots \dots \dots (135)$$

上式 = 於テ h_0 ハ面ノ中心ノ水頭ナリ、

定理 水中ノ面上ニ於ケル總水壓ハ全面積ト水ノ單位容積ノ重量ト及面ノ中心ノ水頭トノ相乗積ナリ

第 233 圖



例題 茲ニ幅六呎、高サ九呎ノまねき扉アリ満潮時ノ水面ハ扉ノ闕木以上十四呎ノ高サニアリ、此場合ニ扉面上ニ於ケル總水壓幾何ナルヤ

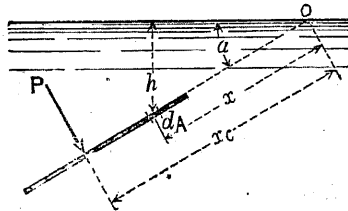
w = 海水ノ單位容積ノ重量 64 呎
 h_0 = 扉ノ中心ノ水頭 9.5 呎
 A = 扉ノ面積 54 平方呎
 (135) 式ニヨリテ總水壓ヲ算出スルヲ得ベシ。

$$P = A \cdot w \cdot h_0$$

$$= 54 \times 64 \times 9.5 = 32,832 \text{ 呎}$$

116. 水壓ノ中心 第 234 圖ニ於ケル如ク水中ニ

第 234 圖



アル面中ノ細微ナル面積 dA ノ上ニ加ハル水壓ヲ dP トスレバ

$$dP = w \cdot h \cdot dA$$

此水壓ノ O 軸ニ對スル

力率ハ

$$dP \cdot x = w \cdot h \cdot dA \cdot x$$

全面積 A ニ於ケル總水壓即チ此等ノ細微面積上ノ水壓ノ合力ヲ P トシ、 P ノ働點 O' ヨリ O 軸マデノ距離ヲ x_0 トスレバ

$$P \cdot x_0 = \int dP \cdot x$$

$$x_0 \int w \cdot h \cdot dA = \int w \cdot h \cdot x \cdot dA$$

然ルニ $h = x \cdot \sin \alpha$ ナル故ニ

$$w \cdot \sin \alpha \cdot x_0 \int x \cdot dA = w \cdot \sin \alpha \int x^2 \cdot dA$$

故ニ

$$x_0 = \frac{\int x^2 dA}{\int x dA} = \frac{I}{A \bar{x}} \dots \dots \dots (136)$$

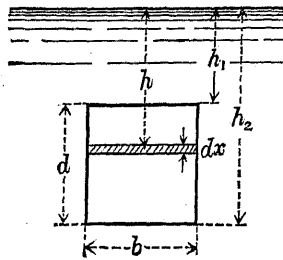
(136) 式ニ於テ $\int x^2 dA$ ハ全面積 A ノ O 點ヲ通シ紙面ニ垂直ナル軸ニ對スル慣性能率ニシテ $\int x dA$ ハ面積 A ノ O 軸ニ對スル面率ナリ。

注意 水中ノ面カ水面ト或傾斜ヲナストキハ此面ニ於ケル水壓ノ中心ハ面ノ中心ヨリ常ニ下ニアルモノニシテ若シ面ガ水平ノ位置ニアルトキハ水壓ノ中心ト面ノ中心トハ一致スルモノナリ。

例題 1. 長サ d 、幅 b ノ面ガ水中ニ鉛直ノ位置ニアルトキ其水壓ノ中心ハ水面ヨリ幾何ノ深サニアルヤ

先ツ面ノ中ニ於テ細微ナル細長面ヲ取り其面積ヲ dA トスレバ

第 235 圖



$$dA = b \cdot dx$$

此細微面積カ集マリテ幅 b 、長サ d ナル全面積ヲナスモノナレバ (136) 式

$$x_c = \frac{\int x^2 \cdot dA}{\int x \cdot dA}$$

ノ中 dA ノ代リ $b \cdot dx$ ナ入レテ之ヲ h_1 ヨリ h_2 ノ限界ノ間ニ積分スレバ

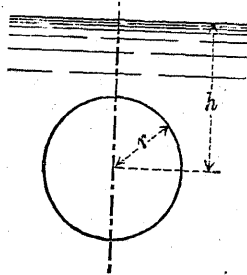
$$x_c = \frac{\int_{h_1}^{h_2} b \cdot x^2 \cdot dx}{\int_{h_1}^{h_2} b \cdot x \cdot dx} = \frac{2}{3} \cdot \frac{h_2^3 - h_1^3}{h_2^2 - h_1^2}$$

若シ此面ノ上邊ガ水面ト一致スル場合ニハ上式ニ於テ $h_1 = 0$ トナル故ニ

$$x_c = \frac{2}{3} h_2 = \frac{2}{3} d$$

即チ水壓ノ中心ハ面ノ上邊ヨリ面ノ長サノ三分ノ二ノ所ニアリ。

第 236 圖



例題 2. 半徑 r ノ圓板ガ水中ニ鉛直ノ位置ニアルトキ此圓板ニ於ケル水壓中心ハ水面ヨリ幾何ノ深サニアリヤ。(136) 式ニヨリ

$$x_c = \frac{I}{A \cdot \bar{x}}$$

然ルニ (46) 式ニヨリテ

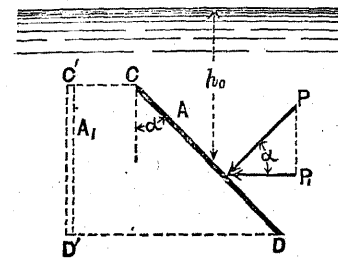
$$x_c = \frac{I_G + A \cdot \bar{x}^2}{A \cdot \bar{x}}$$

$$(58) \text{ 式ニヨリテ } x_c = \frac{\frac{\pi r^4}{4} + \pi r^2 h^2}{\pi r^2 h} = h + \frac{r^2}{4h}$$

117. 水壓ノ分力 (1) 平面ニ働ク水壓ノ分力 水

中ノ平面 CD ニ於ケル (第 237 圖) 水壓 P ヲ見出ス方

第 237 圖



法ハ第 115 節ニ於テ之ヲ説明セリ。今此 P ノ働線ト α 角ヲナス方向ニ於ケル P ノ分力ヲ求メントス。

$$P = A \cdot w \cdot h_0$$

$$P_1 = P \cdot \cos \alpha = w \cdot h_0 \cdot A \cdot \cos \alpha$$

上式ニ於テ $A \cos \alpha$ ハ面 CD ヲ P_1 ノ方向ト直角ヲナセル面上ニ投射シタルモノニ等シ之ヲ A_1 トスレバ

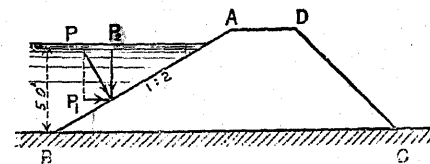
$$A \cos \alpha = A_1$$

故ニ

$$P_1 = w \cdot h_0 \cdot A_1 \dots \dots \dots (137)$$

水中ニアル平面上ニ働ケル水壓ノ或方向ニ於ケル分力ハ與ヘラレタル平面ノ中心ニ於ケル壓力度ト分力ノ方向ト直角ナル面上ニ與ヘラレタル面ヲ投射シタル面積トノ相乗積ナリ。

第 238 圖



例題 茲ニ一ツノ堰堤アリ其水ニ面シタル法ヲ二割トシ水深ヲ五十呎トスレハ此法ノ面上ニ加ハル水壓ノ水平分力及鉛直分力ハ各幾

何ナリト

先ツ水平分力 P_1 ナ見出サン。(137) 式

$$P_1 = w \cdot h_0 \cdot A_1$$

ノ中ニテ

$$w = 62.5 \text{ 呎}$$

$$h_0 = 25 \text{ 呎}$$

$$A_1 = 50 \text{ 平方呎}$$

$$P_1 = 62.5 \times 25 \times 50 = 78,125 \text{ 呎}$$

次ニ鉛直分力 P_2 ナ見出スニハ水平分力ノ場合ト同シク (137) 式ニヨリ

$$w = 62.5 \text{ 呎}$$

$$h_0 = 25 \text{ 呎}$$

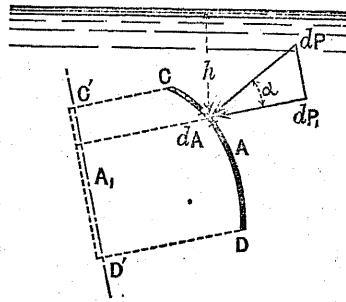
$$A_1 = 100 \text{ 平方呎}$$

$$P_2 = 62.5 \times 25 \times 100 = 156,250 \text{ 呎}$$

但シ堰堤ノ長サハ單位長一呎ヲ取リタルモノト考フベシ。

(2) 曲面ニ働ク水壓ノ分力 第 239 圖ニ於ケルガ

第 239 圖



如ク水中ノ曲面ノ一部ニ細微ナル面積 dA ヲ取リ此面上ニ於ケル水壓ヲ dP トスレバ

$$dP = w \cdot h \cdot dA.$$

dP ナル水壓ノ方向ガ或一定線トナス角ヲ α ト

スレハ此定線ノ方向ニ於ケル分力 dP_1 ハ次ノ如シ

$$dP_1 = dP \cdot \cos \alpha = w \cdot h \cdot dA \cdot \cos \alpha.$$

全曲面ニ於ケル水壓ノ此定線ニ沿ヒタル分力ハ即

チ dP_1 ノ總和ニシテ之ヲ P_1 トスレバ

$$P_1 = w \int h \cdot \cos \alpha \cdot dA \dots \dots \dots (138)$$

之ハ一般公式ニシテ次ノ如キ場合ニハ簡單ニ積分スルコトヲ得。

若シ水頭 h ガ甚大ニシテ曲面ノ何レノ部分ニ於テモ水頭均一ナリト見做シテ差支ナキ場合ナレバ

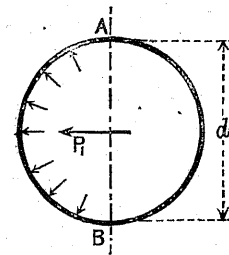
$$P_1 = w \cdot h \cdot \int \cos \alpha \cdot dA.$$

$\int \cos \alpha \cdot dA$ ハ曲面 A ヲ定線ニ直角ナル面上ニ投影シタル面積 $C'D'$ 即チ A_1 ナルガ故ニ

$$P_1 = w \cdot h \cdot A_1$$

茲ニ第 240 圖ノ如ク直徑 d オル鐵管アリテ水頭

第 240 圖



ハ直徑ニ比シテ甚大ナリトス。

然ラバ管内ノ水壓力度ハ總テノ方向ニ於テ均一ナリト見做

シテ差支ナシ。今 AB 線ヨリ

左半分ニ於ケル管ノ内面ニ働

ク水壓ノ AB ニ直角ナル方向

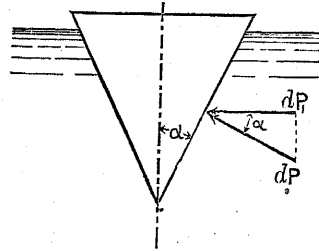
ニ於ケル分力 P_1 ハ若シ鐵管ヲ單位ノ長サノモノト

スレバ上式ニ於テ $A_1 = d$ ナル故ニ

$$P_1 = w \cdot h \cdot d = p \cdot d.$$

第 241 圖ノ如ク若シ曲面ガ圓錐形ノ表面ノ如キ場合ナレバ α ハ常數ニシテ (138) 式ニヨリテ

第 241 圖



$$P_1 = w \cdot \cos\alpha \int h \cdot dA$$

$$\int h dA = h_0 \cdot A$$

故 =

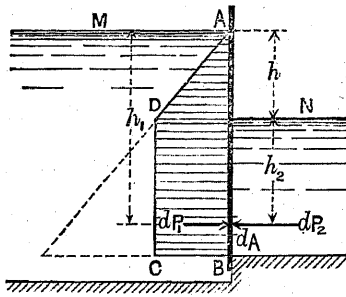
$$P_1 = w \cdot h_0 \cdot A \cdot \cos\alpha$$

$$= w \cdot h_0 \cdot A_1$$

118. 一平面ノ兩側ニ

於ケル水壓 一ノ平面ノ兩側ニテ水位ガ異ナル場合ニ兩側ニ於ケル水壓ノ合力ヲ見出すニハ此

第 242 圖



平面中ニ dA ナル細微面ヲ取り此面上ニ於ケル左方ノ水壓ヲ dP₁ トシ右方ノ水壓ヲ dP₂ トスレバ

$$dP_1 = w \cdot h_1 \cdot dA$$

$$dP_2 = w \cdot h_2 \cdot dA$$

此二力ノ合力ヲ dR トスレバ

$$dR = dP_1 - dP_2 = w(h_1 - h_2)dA = w \cdot h \cdot dA \dots \dots (139)$$

上式ニ於テ h ハ兩側ニ於ケル水位ノ落差ナリ。

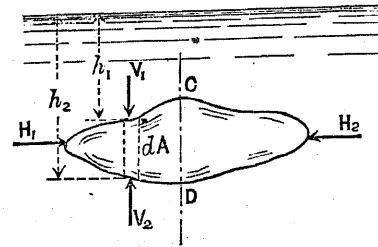
此面ノ兩側ニ於ケル水壓ノ合力ハ兩水面ノ落差 h = 比例シ其兩側ノ水頭 h₁ 及 h₂ ノ大小ニハ關係ナシ。即チ水壓ノ力度ハ M ト N トノ二水面ノ間ハ其水頭 = 比例シテ増シ夫ヨリ以下ハ水壓ハ一定不變

ナリ。故ニ第 242 圖ニ示セル如ク壓力度ノ配布ハ ABCD ナル梯形ニテ表ハスヲ得。

第三章 浮 體

119. 浮力及浮力ノ中心 (Buoyancy and Center of Buoyancy) 第 243 圖ノ如ク物體ガ水中ニ浸サレタルトキ之ニ加ハル水ノ浮力ヲ見出サントス。此物體ヲ

第 243 圖



CD ナル面ニテ縦斷シ此斷面ヨリ右ノ部分ニ加ハル總水壓ノ水平分力ヲ H₂ トシ左ノ部分ニ加ハル分力ヲ H₁ トスレバ第 117

節ニヨリ H₁ ハ CD ナル斷面上ニ於ケル總水壓ニ等シク, H₂ モ亦 CD 面上ニ於ケル總水壓ト等シ故ニ此二力ハ等シクシテ其方向相反セルニ由リ相殺シテ物體ノ位置ニハ變動ヲ與ヘズ。

又此物體中ニ細微ナル斷面 dA ヲ有スル鉛直柱狀體(第 243 圖中點線ヲ以テ示ス)ヲ取り其上下ノ端ニ加ハル水壓ノ鉛直分力ヲ各 V₁ 及 V₂ ニテ示セバ

$$V_1 = w \cdot h_1 \cdot dA$$

$$V_2 = w \cdot h_2 \cdot dA.$$

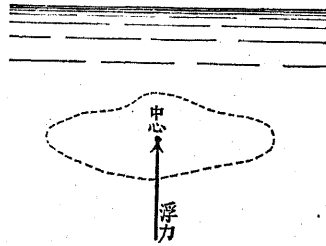
h_2 は h_1 より大ナルニヨリ V_2 は V_1 より大ナリ。故ニ V_1 及 V_2 ノ合力ハ上方ニ向フ之ヲ dR ヲ以テ示セバ

$$dR = V_2 - V_1 = w(h_2 - h_1)dA \dots \dots \dots (140)$$

上式ニ於テ $w(h_2 - h_1)dA$ ハ此柱狀體ト同形ニシテ且同容積ノ水ノ重量ニ等シ。然ルニ全物體ハ此等ノ柱狀體ノ集合セルモノト見做シ得ルモノナルガ故ニ

物體ニ働ク水壓ノ合力ハ上向ニシテ其物體ノ容積ニ等シキ水即チ物體カ排除シタル水ノ重量ト相等シ此合力ヲ稱シテ浮力ト謂フ。

第 244 圖

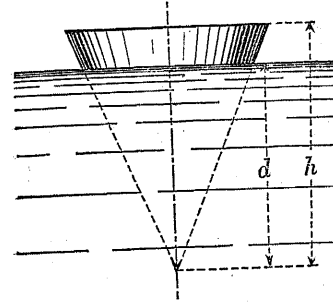


次ニ浮力ノ働點ヲ見出サシニ物體ニ働ク浮力ハ其物體ト同形同積ノ水塊ノ重量ニ等シク唯方向相反スルモノナレバ浮力ノ働點ハ此水塊ノ重心ト一致スベキナリ。此點ヲ稱シテ浮力ノ中心ト謂フ。若シ水中ニ浸サレタル物體ガ齊等質ナレバ其重心ト浮力ノ中心トハ一致スベシ。

120. 浮體ノ吃水 浮體ノ重量ハ浮體ノ爲メニ排

除サレタル水ノ重量ト相等シキ故ニ容易ニ浮體ノ吃水ヲ見出スヲ得ベシ。然ルニ浮體ノ形狀ガ不規則ナルトキハ其高サト體積ノ關係ガ不明ナルヲ以テ其吃水ヲ見出スコト困難ナレドモ圓錐形圓筒形等ノ如キモノニシテ其高サト體積ノ關係ガ明ナル形ナレバ直ニ其吃水ヲ見

第 245 圖



出スヲ得ベシ。例令バ第 245 圖ノ如ク圓錐形ガ頂點ヲ下ニシテ水面ニ浮ビシトキ其吃水 d ヲ見出サシニ

V = 圓錐體ノ容積

w' = 圓錐體ノ單位容積ノ重量

v' = 浸水部分ノ容積

然ルトキハ

$$\frac{v'}{V} = \frac{d^3}{h^3} \text{ 即チ } v' = \frac{d^3}{h^3} V.$$

圓錐體ノ重量 = $w'V$.

排除サレタル水ノ重量 = $w \frac{d^3}{h^3} V$.

此二ツノ重量ハ相等シキ故ニ

$$w'V = w \frac{d^3}{h^3} V \text{ 即チ } d = h \sqrt[3]{\frac{w'}{w}}$$

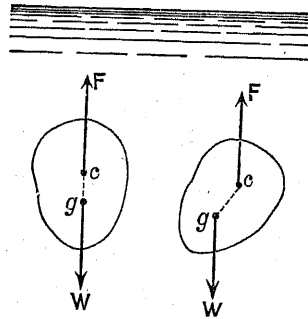
圓錐體ノ比重ヲ s トスレバ $s = \frac{w'}{w}$.

故ニ $d = h\sqrt[3]{s}$.

d ハ求ムル浮體ノ吃水ナリ.

121. 水中ニアル物體ノ安定.

第 246 圖



(1) 物體ノ重サガ之ニ働ク

浮力ヨリ大ナレバ物體

ハ沈ム.

(2) 物體ノ重サガ之ニ働ク

浮力ヨリ小ナレバ物體

ハ浮ブ.

(3) 物體ノ重サガ之ニ働ク

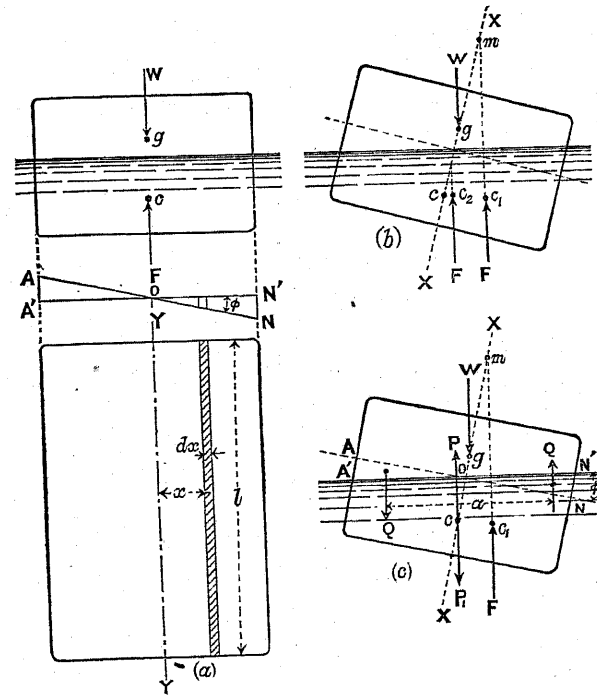
浮力ト等シケレバ物體ハ浮バズ沈マズ. 何レノ位置ニテモ静止スルモノナリ. 然レドモ此物體ハ一部分タリトモ決シテ水面上ニ露出スルコトナシ.

第 246 圖ハ (3) ノ場合ヲ示スモノニシテ F ヲ浮力, W ヲ物體ノ重量, c ヲ浮力ノ中心, g ヲ物體ノ重心トスレバ c ト g トガ同一鉛直線上ニ來リテ c ガ g ノ上ニアルトキハ此物體ハ安定ノ平衡ニアリ. 何トナレバ其物體ヲ傾ケテモ物體ハ (F, W) ナル偶力ノ作用ニヨリテ原位置ニ復スルヲ以テナリ. 若シ c ガ g ノ下ニ來レバ此物體ハ不安定ノ平衡ニアリテ少シク傾ケバ直ニ轉倒ス. 若シ c ト g トガ一致

スレバ物體ハ中立ノ平衡ニアリ.

122. 浮體ノ安定 浮體ノ安定ハ水中ニアル物體ノ安定ト其趣ヲ異ニス. 今函船 (Pontoon) ノ場合ニ就テ之ヲ論セン. 第 247 圖ニ於ケル如ク浮力ノ中心

第 247 圖



c カ函船ノ重心 g ヨリ下ニアル故ニ一見不安定ノ如ク見ユルモ必ズシモ然ラズ. 例令バ函船カ圖ノ如ク右ニ傾ケル場合ニ浮力中心ガ c_1 ニ移リタリトスレバ浮力ト重力トハ偶力ノ作用ヲナシテ函船ヲ原

ノ鉛直ノ位置ニ直サントスル傾向アルヲ以テ此場合ニハ安定ナリ。然レドモ若シ函船カ傾ケルトキ浮力ノ中心ガ c_1 = 移ラズシテ c_2 = 移リタリトスレバ偶力ハ前ト反對ノ働ヲナシテ函船ハ轉覆スル傾向アルベシ。故ニ此函船ガ安定ナルト否トハ傾斜位置ニ於ケル浮力ノ働線ト函船ノ中心軸 XX トノ交點 m ガ g ヨリ上ニアルカ下ニアルカニヨリテ定マル。此交點 m ヲ稱シテ傾心 (metacenter) ト謂フ。凡テ浮體ノ平衡ハ傾心カ浮體ノ重心ヨリ高キトキハ安全ニシテ傾心ガ重心ヨリ低キトキハ不安定ナリ。

今函船ガ鉛直ノ位置ヨリ極微ナル傾斜 ϕ ヲナセル場合ヲ考フレバ之ヲ鉛直位置ニ復センメントスルカハ偶力 (F, W) = シテ $F \cdot \overline{mg} \sin \phi$ ナリ。今 C 點ニ方向相反シ其大サ F = 等シキ鉛直ナル二力 P ト P_1 トヲ加フレバ即チ偶力 (F, W) ヲ (F, P_1) 及 (W, P) トノ二ツノ偶力ニテ置換フレバ

$$P = P_1 = F = W.$$

$$F \cdot \overline{mg} \cdot \sin \phi = F \cdot \overline{mc} \sin \phi - F \cdot \overline{gc} \sin \phi \dots\dots\dots (a)$$

若シ此函船ガ傾クトキ其水面モ亦タ同程度ニ傾キタリト假定スレバ浮力ノ中心 c ハ移動セズ。從テ偶力 (F, P_1) ハ存在セザルユヘ函船ハ偶力 (W, P) ノ爲メニ益々傾斜セントスベシ。然ルニ實際ハ XX

軸ノ右方ニ於テ楔形 NON' ノ部分ハ水中ニ沈ミ從テ其浮力ヲ増加シ、左方ハ楔形 AOA' ノ部分ガ水上ニ出デ從テ其浮力ヲ減ズ。而シテ其増減シタル浮力ヲ Q ニテ示セバ此偶力 (Q, Q) ハ函船ヲ原位置ニ復セントスベシ。此偶力 (Q, Q) ガ偶力 (F, P_1) = 相當スルモノナリ。即チ Q ト Q トノ間ノ距離ヲ a トスレバ

$$F \cdot \overline{mc} \sin \phi = Q \cdot a \dots\dots\dots (b)$$

故ニ $F \cdot \overline{mg} \cdot \sin \phi = Q \cdot a - F \cdot \overline{gc} \sin \phi \dots\dots\dots (c)$

又 (b) 式ニヨリ $\overline{mc} = \frac{Q \cdot a}{F \cdot \sin \phi} \dots\dots\dots (d)$

今函船ノ水線断面中ニ任意ノ細長面 $l \times dx$ ヲ取リ、YY 軸ヨリ此細長面マデノ距離ヲ x 、此細長面ノ面積ヲ dA ニテ示セバ此細長面ヲ底トシテ ON' ト ON トノ二面ノ間ニ挾マレタル角柱ノ高サハ ϕx ニシテ其體積ハ $\phi \cdot x \cdot dA$ ナリ。而シテ之ニ相當スル浮力ハ $w \cdot \phi \cdot x \cdot dA$ ニシテ此浮力ノ YY 軸ニ對スル力率ハ $w \cdot \phi \cdot x^2 \cdot dA$ ナリ。依テ楔形 NON' ノ體積ニ相當スル浮力ノ偶力ノ力率ハ次ノ如シ。

$$Q \cdot a = w \cdot \phi \cdot \int x^2 dA = w \cdot \phi \cdot I_0 \dots\dots\dots (e)$$

I_0 ハ水線断面積ノ YY 軸ニ對スル慣性能率ナリ。然ルニ (d) 式ニヨリ

$$\frac{1}{mc} = \frac{w \cdot \phi \cdot I_0}{F \cdot \sin \phi} \dots \dots \dots (f)$$

上式ニ於テ ϕ ハ極微ナル故ニ $\phi = \sin \phi$ ト見做スコトヲ得.

又函船ノ排水容積ヲ V ニテ表ハセバ

$$F = V \cdot w.$$

故ニ
$$\frac{1}{mc} = \frac{w \cdot \phi \cdot I_0}{V \cdot w \cdot \phi} = \frac{I_0}{V} \dots \dots \dots (141)$$

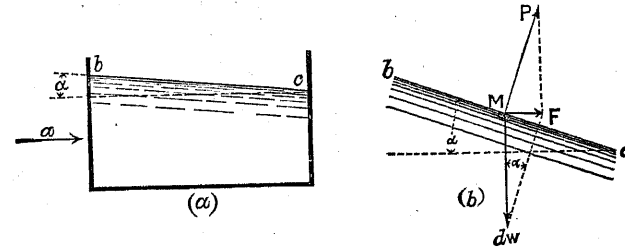
上式ニテ $\frac{1}{mc}$ ノ値ヲ知レバ傾心ノ位置ヲ見出スコトヲ得ベシ.

第四章 運動ガ器中ノ水ニ及ボス影響

123. 容器ヲ水平ニ動カス場合 若シ容器ヲ水平ニ a ナル加速度ヲ以テ動カセバ其動キ始ニ於テハ水面動搖スルモ遂ニ一定ノ水面 bc ノ位置ヲ保ツニ至ルベシ.(第248圖). 今此水面 bc ガ水平トナス角 α ノ値ヲ見出サントス.

水面 bc ニ於ケル一微分子 M ヲ取リテ考フレバ此微分子ガ水平ノ方向ニ加速度 a ヲ以テ動キツ、アルヲ以テ其運動ノ方向ニ或力 F ガ働カザルベカラズ. 此微分子ノ質量ヲ dM ニテ示セバ此力 F ノ値ハ

第248圖



次ノ式ヲ以テ表ハスヲ得.

$$F = dM \cdot a.$$

又此微分子ノ重量ヲ dW トスレバ此重量 dW ト或他ノ力 P トノ合力ガ F ニ等シカラザルベカラズ. 而シテ P ノ方向ハ水面ト直角ナラザルベカラズ. 若シ其方向ガ水面ト直角ナラザレバ水ノ微分子間ニハ摩擦ナキ故ニ其力ノ水面ニ並行ナル分力ニヨリテ此微分子ハ水面上ニ沿フテ移動セザルベカラズ. 然ルニ此微分子ハ加速度 a ヲ以テ動キツ、アルモ相隣レル微分子ノ相互ノ位置ハ變ゼザル故 P ノ方向ハ水面ニ直角ナラザルベカラズ. 依テ第248圖ニ於テ

$$F = dW \cdot \tan \alpha.$$

又

$$F = dM \cdot a = \frac{dW}{g} \cdot a.$$

故ニ

$$dW \cdot \tan \alpha = \frac{dW}{g} \cdot a.$$

即チ

$$\tan\alpha = \frac{a}{g} \dots\dots\dots (142)$$

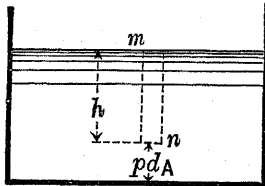
若シ此器ヲ同ジ加速度ヲ以テ反對ノ方向ニ動カス場合ハ水面モ亦反對ノ方向ニ α ノ傾斜ヲナスベシ。

若シ減速度ヲ以テ動カス場合ハ加速度ヲ以テ動カス場合ト反對ノ結果ヲ生ズベシ。

若シ等速度ヲ以テ動カス場合ハ $a=0$ ナレバ $\tan\alpha=0$ 即チ容器中ノ水面ハ水平ナリ。

124. 容器ヲ鉛直ニ動カス場合 第249圖ノ容器

第249圖



ヲ上方へ a ナル加速度ヲ以テ動カストキ其水中ニ細微斷面 dA ヲ有スル水柱 $m n$ ヲ假想スレバ此水柱ノ底面ニ加ハル壓力ハ水頭 h ニ對ス

ル水壓ト加速度 a ノ影響ニヨル壓力トノ和ナルベシ之ヲ $p.dA$ トセバ此壓力ト水柱ノ重量 $w.h.dA$ トノ合力ガ此水柱ニ a ナル加速度ヲ與フルカナリ其力ヲ F ニテ表ハセバ

$$F = p.dA. - w.h.dA.$$

又重量 $w.h.dA$.ヲ有スル水柱ニ加速度 a ヲ與フルカ

$$F = \frac{w.h.dA}{g} a$$

故ニ

$$p.dA. - w.h.dA = \frac{w.h.dA}{g} a$$

即チ

$$p = wh + \frac{w.h.a}{g} = wh \left(\frac{g+a}{g} \right) \dots\dots\dots (143)$$

若シ容器ノ加速度 a ガ重力ノ加速度 g ト等シケレバ(143)式ハ次ノ如クナルベシ。

$$p = 2.w.h.$$

即チ容器ガ重力ノ加速度ト同ジ加速度ヲ以テ昇ルトキハ容器中ノ水壓ハ静止セル器中ノ水壓ノ二倍ナリ。

若シ又容器カ a ナル加速度ヲ以テ下方ニ動ク場合ハ

$$p = w.h \left(\frac{g-a}{g} \right) \dots\dots\dots (144)$$

若シ容器ガ重力ノ加速度ニ等シキ加速度ヲ以テ自由ニ落下スル場合ナレバ

$$p = w.h \left(\frac{g-g}{g} \right) = 0$$

即チ器中ノ水壓ハ0トナルベシ。

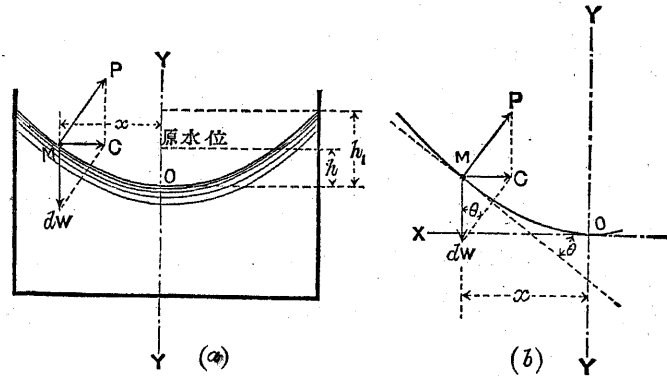
若シ容器ガ等速度ヲ以テ上方又ハ下方ニ動クナレバ

$$p = w.h \left(\frac{g \pm 0}{g} \right) = w.h.$$

即チ容器中ノ水壓ハ靜止セル器中ノ水壓ト等シカルベシ。

125. 容器ヲ廻轉セシムル場合 今容器ガ縱軸 YY ノ周圍ニ廻轉スル場合ヲ取リテ考フルニ YY 軸ヨ

第 250 圖



リ ω ノ距離ニアル微分子 M ニ働ケル重量 dW ト此點ニテ水面ニ直角ナル方向ニ働ケル力 P トノ合力 C ガ水平ニ働キテ此合力 C ト微分子ニ加ハル遠心力トガ互ニ平衡ヲ保チテ此微分子ハ靜止ノ状態ニアリテ其原位置ニ止マルベシ。而シテ此微分子ノ質量ヲ dM ニテ示セバ之ニ働ク遠心力ハ次ノ如シ。

$$C = \frac{dM \cdot v^2}{\omega}$$

上式ニ於テ v ハ微分子ノ線速度ニシテ其微分子ノ角速度ヲ α トスレバ

$$v = \alpha \cdot x.$$

故ニ
$$C = \frac{dM \cdot \alpha^2 \cdot x^2}{\omega} = \frac{dW}{g} \alpha^2 \cdot x.$$

第 250 圖ニ於テ
$$\tan \theta = \frac{C}{dW} = \frac{\frac{dW}{g} \cdot \alpha^2 \cdot x}{dW} = \frac{\alpha^2 x}{g}$$

θ ハ M 點ニ於ケル切線ガ OX 軸トナス角ニシテ

$$\tan \theta = \frac{dy}{dx}.$$

故ニ
$$\frac{dy}{dx} = \frac{\alpha^2 x}{g}$$

之ヲ積分スレバ
$$y = \frac{\alpha^2 x^2}{2g} \dots \dots \dots (145)$$

上式ハ拋物線ヲ表ハス。而シテ器中ノ水面ハ此拋物線ガ YY 軸ノ周圍ニ廻轉シテ生ジタル面即チ拋物線面ナリ。而シテ拋物線體ノ容積ハ之ニ外切セル圓筒形ノ容積ノ二分ノ一ナルヲ以テ器中ノ原水位ハ此拋物線體ノ高サノ二分ノ一ノ所ニアリ。故ニ第 250 (a) 圖ニ於テ靜止セル器中ノ原水位ト廻轉セル器中ノ最高水位トノ落差ハ其最底水位ト原水位トノ落差ニ等シ。即チ $h = \frac{1}{2} h_1$ ナリ。

以上ハ靜止シタル水ニ關シタル研究ニシテ所謂靜水力学ノ部ニ屬セリ。動水力学即チ流動セル水ニ關シテハ以下各章ニ於テ之ヲ詳論スベシ。

第 五 章 定 流

126. 定流及流線 (Steady Flow and Stream Line) 流水中ノ任意ノ一點ニ於ケル流速及方向ガ常ニ一定不變ナレバ之ヲ定流ト謂フ。

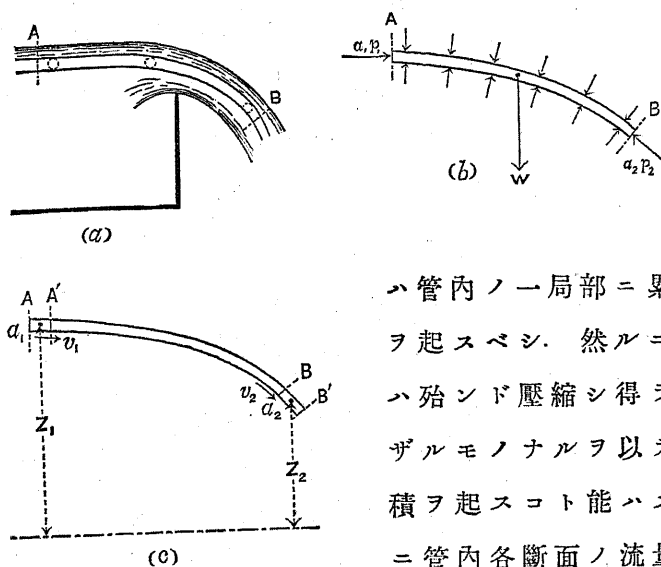
水ガ水路又ハ管内ヲ流動スル際ニ其流水中ノ一點ニ於ケル流速及ビ其ノ方向ガ時々刻々變ジ從テ流量ガ常ニ増減スルトキハ之ヲ不定流ト謂フ。以下論スル所ハ皆定流ニ關スルモノト知ルベシ。

流水中ノ一微分子ガ通過スル所ノ路線ヲ流線ト謂フ。定流ニ於テ流線ハ一定不變ニシテ互ニ相妨ゲズ而シテ流線ノ各點ニ引キタル切線ガ其點ニ於ケル微分子ノ流動ノ方向ヲ示スモノナリ。

127. ベルぬいり (Bernouilli) 氏ノ定理 西曆 1738 年ニだにゑるべるぬいり (Daniel Bernouilli) 氏ガ水ノ流動ニ關スル定理ヲ説ケリ。此定理ガ動水力學ノ基礎トナルモノナリ。

今第 251 (a) 圖ニ於テ流水中ニ於テ水ガ流線ニテ圍マレタル假想管 AB 内ヲ流ル、ト假定スレバ此管内ヲ流ル、水ガ一定時間ニ或斷面ヲ通過スル水量ハ一定ノモノナラザルベカラズ。然ラザレバ水

第 251 圖



ハ管内ノ一局部ニ累積ヲ起スベシ。然ルニ水ハ殆ンド壓縮シ得ラレザルモノナルヲ以テ累積ヲ起スコト能ハズ故ニ管内各斷面ノ流量ハ

一定ニシテ管内各點ノ斷面積ヲ a_1, a_2, a_3, \dots トシ之ニ相當スル流速ヲ v_1, v_2, v_3, \dots トスレバ

$$a_1 v_1 = a_2 v_2 = a_3 v_3 = Q.$$

即チ管内ノ各斷面ノ流量 Q ハ一定不變ナリ。

今假想管内ノ流水ノ一部 AB ヲ取リ。A 及 B ニ於ケル斷面積ヲ夫々 a_1 及 a_2 トスレバ (第 251 (b) 圖) 此 AB ナル水體ニ働ク外力ハ a_1 ニ加ハル水壓 $a_1 p_1$, a_2 ニ加ハル水壓 $a_2 p_2$, 此水體ニ働ク重力 W 及流線ニ直角ナル方向ニ働ク水壓ナリ。然ルニ流線ニ直角ナル水壓ハ互ニ相平衡シ水流ニ影響ヲ及ボスモノ

ニアラザレバ之ヲ考フルノ必要ナシ。今 $a_1 p_1, a_2 p_2$ 及 W ナル三力ガ極短時間 dt ノ間働キテ AB ナル水體ガ $A'B'$ ナル位置ニ進ミタリトスレバ A ハ A' ニ B ハ B' ニ進ミ其進行ノ距離ハ各

$$AA' = v_1 dt, \quad BB' = v_2 dt.$$

ニシテ v_1 及 v_2 ハ各其速度ナリ。而シテ此 dt 時間ニ此三力ノ爲シタル働ハ次ノ如シ

$$a_1 p_1 \text{ ナル水壓ガ爲シタル働} = +a_1 p_1 v_1 dt = p_1 Q dt.$$

$$a_2 p_2 \text{ ナル水壓ガ爲シタル働} = -a_2 p_2 v_2 dt = -p_2 Q dt.$$

$$\text{重力ガ爲シタル働} = w a_1 v_1 dt (Z_1 - Z_2) = w Q dt (Z_1 - Z_2).$$

即チ AB ナル水體ガ $A'B'$ マデ移動スルトキ重力ニヨリテ爲サレタル働ハ $A'B$ ナル部分ハ不動ト見做シ得ルニヨリ(第251(c)圖) AA' ナル部分ガ BB' マデ即チ $(Z_1 - Z_2)$ ノ間ヲ下ルトキニ爲サレタル働ニ等シカルベシ。依テ最後ノ式ハ AB ナル水體ガ $A'B'$ ナル位置マデ移動スルトキ重力ニヨリテナサル働ヲ表ハスベシ。

又 AB ナル水體ガ $A'B'$ ノ位置ニ進ム間ニ起ル動勢ノ變化ヲ考ヘン。今此ノ水體ヲ $a, b, c, d, \dots, l, m, n$ ノ小ナル部分ニ分チ a ナル部分ガ進ミテ b ノ位置ニ移リ b ナル部分ガ c ノ位置ニ進ミ順次ニ其次ノ部分ノ位置ヲ取ルモノト假定ス。然ルトキハ a

ガ有スル動勢ヲ k_a トシ a ガ b ノ位置ニ進ミテ有ス

第252圖



ル動勢ヲ k_b トスレバ

a ガ b マデ進ミタル

後ノ動勢ノ變化ハ

$(k_b - k_a)$ ニシテ b ガ c

ニ進ミタル後ノ動勢

ノ變化ハ $(k_c - k_b)$ ナリ故ニ此等ノ動勢ノ全體ノ變化ヲ K トスレバ

$$K = (k_b - k_a) + (k_c - k_b) + (k_d - k_c) + \dots + (k_m - k_l) + (k_n - k_m).$$

$$K = k_n - k_a$$

即チ動勢ノ全變化ハ n ガ有スル動勢ト a ガ有スル動勢トノ差ナリ之ニ由テ

$$K = \frac{w Q dt}{2g} (v_2^2 - v_1^2)$$

然ルニ水體 AB ヲ $A'B'$ マデ動カスニ爲サレタル働ハ AB ガ $A'B'$ マデ進ム際ノ動勢ノ變化ニ等シ之ヲ式ニ示セバ

$$p_1 Q dt - p_2 Q dt + w Q dt (Z_1 - Z_2) = \frac{w Q dt}{2g} (v_2^2 - v_1^2)$$

$$\text{即チ} \quad \frac{v_1^2}{2g} + \frac{p_1}{w} + Z_1 = \frac{v_2^2}{2g} + \frac{p_2}{w} + Z_2 \dots \dots \dots (146)$$

$$\text{一般ニ} \quad \frac{v^2}{2g} + \frac{p}{w} + Z = \text{常數} \dots \dots \dots (147)$$

上式 = 於テ $\frac{v^2}{2g}$ = 流速水頭 (Velocity Head).

$\frac{p}{w}$ = 壓水頭 (Pressure Head).

Z = 高度水頭 (Elevation Head).

定理 水流ガ定流ニシテ且ツ摩擦其他ノ原因ニヨリテ水頭ニ何等ノ損失ナキモノト假定スレバ流線ノ各點ニ於ケル流速水頭、壓水頭及高度水頭ノ和ハ一定不變ナリ。

然ルニ考ヘツ、アル假想管内ノ水流ニ於テモ其周邊ニ沿フテ多少ノ摩擦アリ且水ノ微分子間ノ内部摩擦アルヲ以テ之ニ打勝ツ爲ニハ多少ノ働ヲナサザルベカラズ而シテ摩擦ハ水ノ流ノ方向ニ反對ニ働ク故ニ之ガ爲メニ爲サル、働ハ負號ナリ。今極短時間 dt ノ間ニ於ケル流量ヲ $w \cdot Q \cdot dt$ トシ此重サノ水ガ摩擦ニ打勝チテ流ル、故ニ摩擦ニ起因スル損失水頭ヲ h' トスレバ摩擦ガ流水ニ逆ツテ爲シタル働ハ $-w \cdot Q \cdot dt \cdot h'$ ナリ。故ニ摩擦ヲ考ニ入ルレバ (146) 式ハ次ノ如クナルベシ。

$$p_1 \cdot Q \cdot dt - p_2 \cdot Q \cdot dt + w \cdot Q \cdot dt (Z_1 - Z_2) - w \cdot Q \cdot dt \cdot h'$$

$$= \frac{w \cdot Q \cdot dt}{2g} (v_2^2 - v_1^2)$$

即チ $\frac{v_1^2}{2g} + \frac{p_1}{w} + Z_1 = \frac{v_2^2}{2g} + \frac{p_2}{w} + Z_2 + h' \dots \dots \dots (148)$

(148) 式ヨリ h' ヲ見出スニハ

$$h' = \left(\frac{v_1^2}{2g} + \frac{p_1}{w} + Z_1 \right) - \left(\frac{v_2^2}{2g} + \frac{p_2}{w} + Z_2 \right) \dots \dots \dots (149)$$

(148) 及 (149) 式ニ於ケル h' ハ考ヘツ、アル假想管内ノ水流ニ就テハ唯摩擦ニ基因スル損失水頭ヲ表ハスモノナレドモ實際ノ水流ニ於テハ其他ノ原因ニヨリテ亦水頭ノ損失アルヲ免レズ。故ニ實際ノ水流ニ適用スル場合ニ於テハ h' ハ總テノ原因ニ基ク損失水頭ヲ取ルベキナリ。故ニ實際ノ水流ニ關シテハ前述ノ定理ハ次ノ如クナルベシ。

定理 定流ノ或一點ニ於ケル流速水頭、壓水頭、及高度水頭ノ和ハ下流ニ於ケル他ノ一點ノ三水頭ノ和ニ此二點間ノ損失水頭ヲ加ヘタルモノニ等シ。

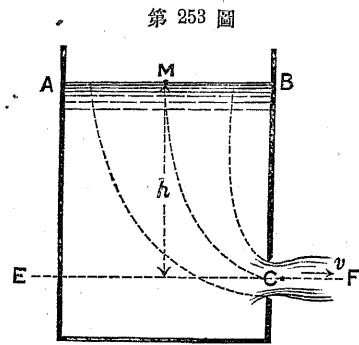
損失水頭ノ起ル原因ハ次ノ如シ。

- (1) 水ノ微分子間ノ内部摩擦。
- (2) 水ト之ヲ圍ム物質トノ間ノ摩擦。
- (3) 水路ノ断面ノ急劇ナル變化。
- (4) 水流ノ方向ノ轉換。

(2) = 起因スル損失最大ナルニヨリ他ノ原因ヨリ起ル損失ハ省略スルコトアリ。

第六章 孔口ヨリ水ノ流出

128. 理論流速ト實際流速 第253圖ノ如ク器中ノ水ガCナル孔口(Orifice)ヨリ流出スル場合ニ於テ



第253圖

ABナル水面ハ變化ナキモノト假定ス。從テ孔口ノ中心ニ於ケル水頭hハ不變ナリトス。尙hハ孔口ニ比シテ比較的大ニシテ孔口ニ於ケル各部分ノ水頭ノ差ハ

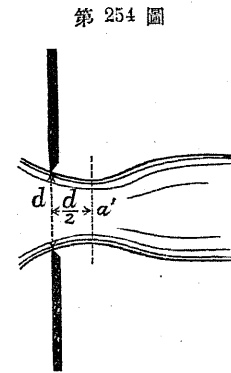
觀過シテ差支ナキモノトス。若シ器ノ水平斷面積ガ孔口ノ斷面積ニ比シテ格別大ナルトキハ水面ABニ於ケル水分子Mノ速度ヲ0ト假定シテ差支ナシ。然ルニベるぬいり氏ノ定理ニヨリテEFヲ基線トシテM點ニ於ケル流速水頭、壓水頭及ビ高度水頭ノ和ハC點ニ於ケル水ノ流速水頭、壓水頭及ビ高度水頭ノ和ニ等シキ故ニ

$$0 + \frac{p_a}{w} + h = \frac{v^2}{2g} + \frac{p_a}{w} + 0$$

上式ニ於テ p_a ハ氣壓ニシテ v ハ孔口ニ於ケル流速ナル故ニ上式ハ

$$v = \sqrt{2gh} \text{ 即チ } h = \frac{v^2}{2g} \dots\dots\dots(150)$$

(150)式ニテ算出スル流速ハ理論流速ニシテ實際流速ハ此理論流速ヨリ小ナリ。實際流速ト理論流速トノ比ヲ流速係數(Coefficient of Velocity)ト謂フ。又水ガ孔口ヨリ流出スル際ニハ第254圖ノ如ク流出水



第254圖

ノ斷面ハ一度縮小シテ再ビ擴ガルモノニテ其最モ縮小セル部分ハ孔口ノ縁ヨリ孔口ノ直徑ノ約二分ノ一ニ等シキ距離ニ起ルモノニシテ其縮小斷面積ト孔口ノ斷面積トノ比ヲ縮流係數(Coefficient of Contraction)ト謂フ。此等ノ係數ノ値ハ孔口ノ構造如何ニヨ

リテ異ナルモノニシテ通常圓形ニシテ圖ニ示ス如ク銳キ縁ヲ有スルモノヲ用ユ此ノ如キ孔口ヲ標準孔口ト稱ス實驗ノ結果ニヨルニ標準孔口ニ於テハ此等ノ係數ハ次ノ如シ。

$$\text{縮流係數 } C_c = \frac{a'}{a} = 0.62$$

上式ニ於テ a' = 縮流斷面積
 a = 孔口ノ面積

即チ縮流斷面積ハ孔口ノ面積ノ六割二分ナリ。

流速係數 $C_v=0.98$

故 = 實際流速 $= C_v \sqrt{2gh} \dots (151)$

孔口ノ場合ニ於テハ實際流速ハ縮流斷面ニ於ケル實際流速ト知ルベシ。

今實際流量ヲ Q , 實際流速ヲ v' トスレバ

$$Q = a' \cdot v' = a \cdot C_c \cdot C_v \sqrt{2gh} \dots (a)$$

實際流量ト理論流量トノ比ヲ流量係數 (Coefficient of Discharge) ト謂フ。 C ニテ之ヲ示セバ

$$Q = C \cdot a \sqrt{2gh} \dots (152)$$

上式ニテ $a \sqrt{2gh}$ ハ理論流量ヲ表ハスモノニシテ此式ト (a) 式トヲ比較スレバ (a) 式中ノ $C_c \times C_v$ ガ (152) 式中ノ流量係數 C = 相當スルモノナリ。故ニ

$$C = C_c \times C_v = 0.62 \times 0.98 = 0.61$$

即チ實際流量ハ理論流量ノ六割一分ニシテ流量係數ハ縮流係數ト流速係數トノ相乘積ニ等シ。

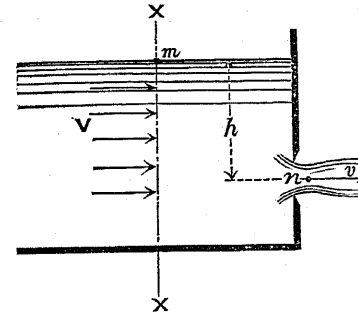
注意 本節ニ於ケル公式ハ孔口ニ於ケル水頭ガ其孔口ノ高サノ二倍以下ナレバ 0.3% 内外ノ誤差ヲ生ズルモノナリ。之レ孔口ノ各部分ニ於ケル水頭ノ差ヲ觀過スルニヨリテ生ズルモノナリ。

129. 接近流速 (Velocity of Approach) 容器ノ斷面積ガ孔口ノ面積ニ比シテ餘リ大ナラザルトキハ水ガ孔口ニ接近スル際ニ已ニ或流速ヲ生ズ之ヲ接近流

速ト稱ス。

今第 255 圖ニ於テ接近流速ヲ u ニテ示シ m, n ノ

第 255 圖



二點ニべるぬいり氏ノ定理ヲ適用スレバ

$$\begin{aligned} \frac{u^2}{2g} + \frac{p_a}{w} + h \\ = \frac{v^2}{2g} + \frac{p_a}{w} + 0. \end{aligned}$$

即チ

$$v = \sqrt{2gh + u^2} \dots (153)$$

上式ニ於テ v ハ理論流速ヲ示ス。若シ容器ノ斷面 XX ノ面積ヲ A ヲ以テ示セバ

$$A \cdot u = C \cdot a \cdot v \quad \text{即チ} \quad u = \frac{C \cdot a \cdot v}{A}$$

上式ニ於テ C = 流量係數

a = 孔口ノ面積。

v = 孔口ヲ流出スル水ノ理論流速

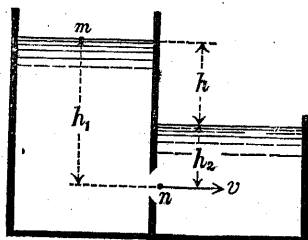
u ノ値ヲ (153) 式中ニ入ルレバ

$$v = \sqrt{\frac{2gh}{1 - \left(\frac{a \cdot C}{A}\right)^2}}$$

實際流速ヲ v' トスレバ
$$v' = C_v \sqrt{\frac{2gh}{1 - \left(\frac{a \cdot C}{A}\right)^2}}$$

依テ實際流量 $Q = C_c \cdot a \cdot C_v \sqrt{\frac{2g \cdot h}{1 - \left(\frac{a \cdot C_c}{A}\right)^2}}$
 $= a \sqrt{\frac{2g \cdot h}{\left(\frac{1}{C}\right)^2 - \left(\frac{a}{A}\right)^2}} \dots \dots \dots (154)$

第 256 圖



130. 水中ニ没シタル孔

口 第 256 圖ニ於ケル如ク孔口ガ水中ニ没シタル場合ニ於テモ m, n ノ二點ニ對シテベルヌイリ氏ノ定理ヲ適用スルコトヲ得

ベシ即チ

$$0 + \frac{p_a}{w} + h_1 = \frac{v^2}{2g} + \frac{p_a}{w} + h_2 + 0$$

上式ヨリ $v^2 = 2g(h_1 - h_2) = 2g \cdot h.$

即チ $v = \sqrt{2g \cdot h}.$

上式ニ於テ v ハ理論流速ニシテ實際流量ハ次ノ式ニヨリテ示スヲ得ベシ.

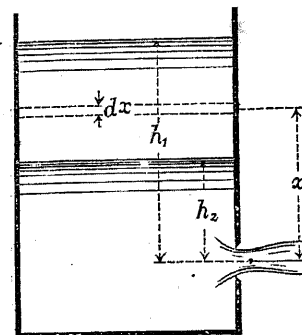
實際流量, $Q = C_a \sqrt{2gh}$

上式中ノ C ハ流量係數ニシテ第 128 節ノ孔口ヨリ水ガ自由ニ流出スル場合ノ流量係數ト大差ナシ.

131. 變化スル水頭ノ下ニアル水ノ流出 容器中ノ水ヲ孔口ヨリ流出セシムレバ器中ノ水位ハ次第

ニ落下スベシ. 今第 257 圖ニ於テ水位ガ水頭 h_1 ヨリ h_2 マテ落下スルニ要スル時間ヲ算出セントス. 器中ノ水ガ或水頭 x ヲ保テル際一瞬間 dt ノ間ニ細微ナル水頭 dx ヲ落下シタリトスレバ其 dt 時間ニ孔口ヨリ流出セル水量ハ次ノ式ニテ表ハスヲ得ベシ.

第 257 圖



$$dQ = C \cdot a \sqrt{2g \cdot x} \cdot dt.$$

細微水頭 dx ヲ落下シタル爲メニ減ゼシ器中ノ水量モ同シク $dQ = dx \cdot A.$

$$dQ = dx \cdot A.$$

上式ニテ A ハ容器ノ水平

斷面積ヲ示ス.

故ニ $dx \cdot A = C \cdot a \sqrt{2g \cdot x} \cdot dt.$

即チ $dt = \frac{A \cdot dx}{C \cdot a \cdot \sqrt{2g \cdot x}}$

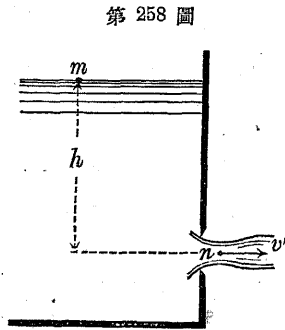
之ヲ積分シ其限界ヲ h_1 ヨリ h_2 マテトスレバ

$$t = \frac{A}{C \cdot a \sqrt{2g}} \int_{h_2}^{h_1} x^{-\frac{1}{2}} \cdot dx$$

即チ $t = \frac{2A}{C \cdot a \sqrt{2g}} (h_1^{\frac{1}{2}} - h_2^{\frac{1}{2}}) \dots \dots \dots (155)$

132. 孔口ニ於ケル損失水頭 孔口ヨリノ實際流量ガ理論流量ヨリ減ズルハ孔口ヲ流レ出ルニ當リ

損失水頭アルヲ以テナリ。今此損失水頭ヲ見出サントス。



然ルニ

$$v' = C_v \sqrt{2gh}$$

故ニ

$$\frac{v'^2}{2g} = C_v^2 h$$

從テ損失水頭 $h' = h - C_v^2 h = (1 - C_v^2)h$(156)

然ルニ標準孔口ニ於テ $C_v = 0.98$ ナルヲ以テ

即チ $h' = (1 - 0.98^2)h = 0.04h$(156a)

即チ標準孔口ノ爲メ起ル損失水頭ハ全水頭 h ノ百分ノ四ナリ。

又(156)式ハ又實際流速ノ項ニテ表ハスヲ得、即チ

$$h = \frac{1}{C_v^2} \frac{v'^2}{2g} \quad C_v^2 h = \frac{v'^2}{2g}$$

故ニ損失水頭 $h' = h - C_v^2 h = \frac{1}{C_v^2} \frac{v'^2}{2g} - \frac{v'^2}{2g}$

$$= \left(\frac{1}{C_v^2} - 1 \right) \frac{v'^2}{2g} \dots\dots\dots(157)$$

第 258 圖ニ於テ m ヲ水面ノ一點、 n ヲ縮流断面中ノ一點トシ、 v' ヲ縮流断面ノ實際流速トシ、(149)式ヲ適用スレバ損失水頭 h' ハ次ノ如シ。

$$h' = \left(0 + \frac{p_a}{w} + h \right) - \left(\frac{v'^2}{2g} + \frac{p_a}{w} + 0 \right) = h - \frac{v'^2}{2g}$$

$h' = h - \frac{v'^2}{2g}$
 $h' = h - C_v^2 h$
 $h' = (1 - C_v^2)h$

依テ標準孔口ニ於ケル損失水頭ハ

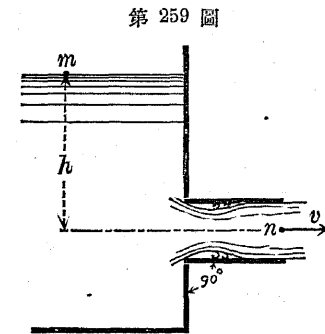
$$h' = \left(\frac{1}{0.98^2} - 1 \right) \frac{v'^2}{2g} = 0.041 \frac{v'^2}{2g} \dots\dots\dots(157a)$$

即チ孔口ニ於テ失ハル水頭ハ僅ニ實際流速ノ流速水頭ノ千分ノ四十一ナリ。

(156)及(157)式ハ獨リ孔口ノミナラズ總テノ量水設備ノ場合ニ適用スルコトヲ得ベシ。

第七章 短管ヨリ水ノ流出

133. 標準短管 孔口ニ短管 (Short Tube) ヲ附スルトキハ其ヨリ流出スル水ノ實際流速ハ摩擦渦卷等



ノ爲メニ孔口ヨリ流出スルトキノ流速ヨリ減スルモ縮流ガ其出口ニ起ラサル故ニ反ツテ其流量ハ増加スルモノナリ。

第 259 圖ニ於ケルガ如キ短管ニシテ其長サガ直

徑ノ二倍乃至二倍半ナルモノヲ標準短管ト謂フ。

短管ヨリ流出スル水ノ流速ハ孔口ノ場合ト同ジク理論流速ハべるぬいり氏ノ定理ニヨリテ次ノ式

ヲ以テ表ハスヲ得。今出口ノ流速ヲ v トスレバ

$$v = \sqrt{2gh}$$

然ルニ此場合ニ於テモ實際ノ流速及流量ハ理論上ノモノヨリ減スルナリ。

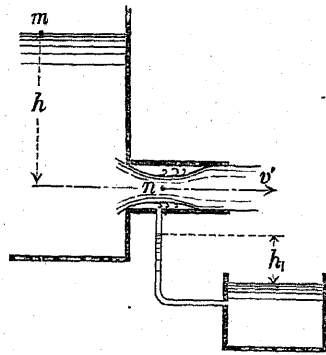
わいずば、は (Weisbach) 氏ノ實驗ニヨレバ流速係數 $C_v = 0.82$ ナリ。此場合ニ於テハ出口ニ縮流ナキヲ以テ流量係數 C モ亦 0.82 ナルコト明カナリ。

故ニ實際流速、 $v' = C_v \sqrt{2gh} = 0.82 \sqrt{2gh}$(158)

從テ實際流量、 $Q = a.v' = 0.82a\sqrt{2gh}$

134. 噴射唧筒 (Jet Pump) ノ原理 第260圖ニ於ケ

第260圖



ル如ク水ガ標準短管ヨリ流出スル際ニ水ハ管ヲ充タシテ流出スルト雖其入口ヨリ其直徑ノ二分ノ一距リタル所即チ n 點ニ於テ縮流ヲ起スベキ傾向アリ此傾向アル爲メニ其局部ニ真空ヲ作ラントス。

故ニ n 點ノ下方ニ於テ小孔ヲ穿テ之ヨリ小管ヲ以テ水ヲ充セル小器ト連結スレバ水ハ此小管中ヲ昇リテ小容器ノ水面上 h_1 ノ高ニ昇ルベシ。今此水柱ノ高サ h_1 ト n 點ノ水頭 h トノ關係ヲ求メントス。

今 m, n ノ二點ニ對シテべるぬいり氏ノ定理ヲ適用スレハ (148) 式ヨリ

$$0 + \frac{p_a}{w} + h = \frac{v_n^2}{2g} + \frac{p_n}{w} + 0 + \text{損失水頭}$$

即チ
$$\frac{p_n}{w} = \frac{p_a}{w} + h - \frac{v_n^2}{2g} - \text{損失水頭} \dots\dots\dots (a)$$

上式ニ於テ $v_n = n$ 點ニ於ケル流速。

$p_n = n$ 點ニ於ケル水壓。

h_1 ハ n 點ニ於ケル水壓ト一氣壓トノ差ニ相當スル水頭ナリ。若シ流速水頭 $\frac{v_n^2}{2g}$ 及損失水頭ヲ h ノ項ニテ表ハスヲ得レバ上式ニヨリテ $\frac{p_n}{w}$ ヲ知リ h_1 ト h トノ關係ヲ知ルコトヲ得。第128節ニ述ベシ如ク標準孔口ノ場合ノ縮流係數ハ 0.62 ナルモ標準短管ノ中 n 點ニ起ラントスル縮流係數ハ標準孔口ノ場合ヨリ大ナルコトハ想像シ得ラルベシ。故ニ今之ヲ 0.64 ト假定スレバ

$$v_n \times 0.64a = v'a.$$

上式ニ於テ a = 標準短管ノ斷面積。

v' = 標準短管ノ出口ノ實際流速。

$$v_n = 1.56v' = 1.56 \times 0.82 \sqrt{2gh} = 1.28 \sqrt{2gh}$$

即チ
$$\frac{v_n^2}{2g} = 1.64h \dots\dots\dots (159)$$

次ニ損失水頭ハ標準孔口ノ場合ト同様ニ見出ス

コトヲ得ルモノトスレバ(157_a)式ニ於テ $\frac{v^2}{2g}$ ノ代リ
 =(159)式ノ $\frac{v_n^2}{2g}$ 即チ 1.64h ヲ代入スレバ可ナリ

損失水頭=0.041×1.64h=0.07h.....(160)

$\frac{v_n^2}{2g}$ 及 損失水頭ノ値ヲ (a)式ニ代入スレバ $\frac{p_n}{w}=34$
 尺ナルヲ以テ

$$\frac{p_n}{w}=34+h-1.64h-0.07h$$

$$=34-0.71h \dots\dots\dots(161)$$

上式ニヨリ n 點ノ水壓ハ一氣壓ヨリ小ナルコト明
 ラカニシテ 0.71h ハ即チ水柱ノ高サ h_1 ヲ示スモノ
 ナリ。即チ

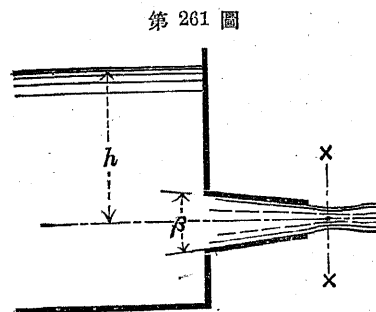
$$h_1=0.71h.$$

然ルニ實驗ニヨレバ $h_1=0.74h$ ニシテ縮流係數ヲ 0.64
 ト假定シタル結果ト實驗ノ結果ト大差ナキヲ知ル
 故ニ一般ニ h ト h_1 トノ關係ヲ示スニ下式ヲ多用
 フ。

$$h_1=\frac{3}{4}h \dots\dots\dots(162)$$

若シ小管ノ長サヲ h_1 ヨリ短カクスレハ小容器中
 ノ水ハ標準短管ノ中ニ吸ヒ上ケラルベシ。是レ即
 チ噴射唧筒ノ原理ナリ。

135. 漸縮短管 第 261 圖ニ於ケル如ク水ガ漸縮
 短管ヨリ流出スル際ニ其出口 XX ノ斷面ニ於テ縮



第 261 圖
 流ガ起ルモ其縮流ノ度
 ハ甚僅少ナリ。而シテ
 此縮流ノ度ハ漸縮角
 (Angle of Convergence)βガ
 大ナル程大ナルモノナリ。
 實驗ニヨルニ此漸縮
 短管ヨリ流出スル所ノ
 流量ノ最大ナル場合ハβガ 13°24' ノ時ニシテ即チ
 此時ハ

流速係數 $C_v=0.962$

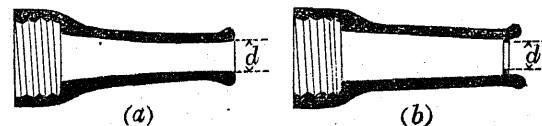
縮流係數 $C_c=0.983$

流量係數 $C=0.946$

消火用唧筒ノ蛇管ノ先端ニ附スル水嘴(Nozzle)及
 「ペルトン」水車ニ用フル水嘴ハ即チ一種ノ漸縮短管
 ナリ。

消火用ノ水嘴ニハ平滑水嘴(Smooth Nozzle)ト突縁
 水嘴(Ring Nozzle)ノ二種アリ。

第 262 圖



第 262 圖ニテ (a) ハ平滑水嘴ニシテ内面平滑ナリ

(b)ハ突縁水嘴ニシテ出口ノ内面ニ突縁輪アリ。此等ノ水嘴ハ蛇管ノ端ニ附セラレタル遊管(Play Pipe)ノ先ニ附スルモノナレバ接近流速大ナル故ニ此水嘴ヨリ流出スル所ノ實際流速ハ第129節ノ(154)式ニヨリ

$$v' = C_v \sqrt{\frac{2gh}{1 - \left(\frac{a \cdot C}{A}\right)^2}}$$

$$\text{實際流量 } Q = a \sqrt{\frac{2gh}{\left(\frac{1}{C}\right)^2 - \left(\frac{a}{A}\right)^2}}$$

上式ニ於テ a = 水嘴ノ出口ノ斷面積.

A = 蛇管ノ斷面積.

今水嘴ノ直徑ヲ d トシ蛇管ノ直徑ヲ D トスレバ

$$\frac{a}{A} = \frac{d^2}{D^2}$$

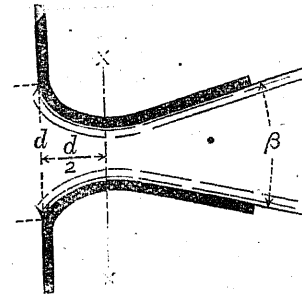
故ニ
$$v' = C_v \sqrt{\frac{2gh}{1 - C^2 \left(\frac{d}{D}\right)^4}} \dots \dots \dots (163)$$

$$Q = a \sqrt{\frac{2gh}{\left(\frac{1}{C}\right)^2 - \left(\frac{d}{D}\right)^4}} \dots \dots \dots (164)$$

136. 漸開短管 短管ヨリ流出スル流量ヲ多カラシメ且ツ水頭ノ損失ヲ少ナカラシメンニハ漸開短管ヲ以テ最良ナルモノトス.

標準短管ニ於テ水頭ノ損失ハ一旦縮流ヲ受ケタル水ガ再ビ短管中ニテ急ニ

第 263 圖



擴カル際ニ起ルモノニシテ若シ一旦縮小シタルモノヲ漸次ニ擴カラシムレバ水頭ノ損失ハ僅少ナリ。故ニ第263圖ノ如ク漸開短管ノ形ヲ水カ縮小シテ再ビ次第ニ

擴ガル様ニナル形狀ニスレバ流量ヲ大ニシ損失水頭ヲ少ナクスルヲ得ベシ.

實驗ニヨルニ漸開角(Angle of Flare) β ヲ $5^\circ 9'$ トスレハ其流量最大ニシテ漸開短管ノ最小斷面 XXト等シキ斷面積ヲ有スル標準孔口ノ流量ノ二倍半ニシテ又之ト等シキ標準短管ノ流量ノ二倍ナリ.

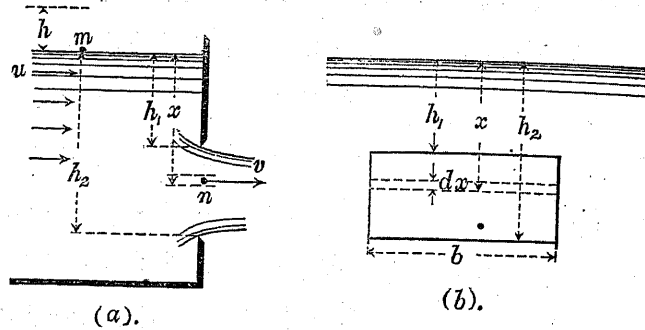
若シモ漸開角ガ過大ナラバ水ハ流出スル際短管中ニ充滿シテ流ル、コト能ハズ.

第 八 章 缺 口 (Notch or Weir)

ヲ越ユル水流

137. 矩形缺口 第264圖ノ如ク矩形ノ大ナル孔口ヨリ水カ流出スルトキ此孔口ノ斷面ノ中ニ任意

第 264 圖



細微細長面積 $b \cdot dx$ を想像シテ此細微面積ノ水頭ヲ x トシ此所ノ流速ヲ v トスレバ此細微面積ヲ通過スル流量ハ次ノ式ニヨリテ表ハサル

$$dQ = b \cdot dx \cdot v.$$

此孔口ヲ通過スル全流量ハ次ノ如シ

$$Q = b \int_{h_1}^{h_2} v \cdot dx \dots\dots\dots (a)$$

今 m, n ノ二點ニベるベルヌイ氏ノ定理ヲ適用スレバ u ハ接近流速ヲ表ハスヲ以テ

$$\frac{u^2}{2g} + \frac{p_a}{w} + x = \frac{v^2}{2g} + \frac{p_a}{w} + 0$$

接近流速 u = 相當スル流速水頭ヲ h ニテ示セバ

$$\frac{u^2}{2g} = h$$

故ニ

$$h + x = \frac{v^2}{2g}$$

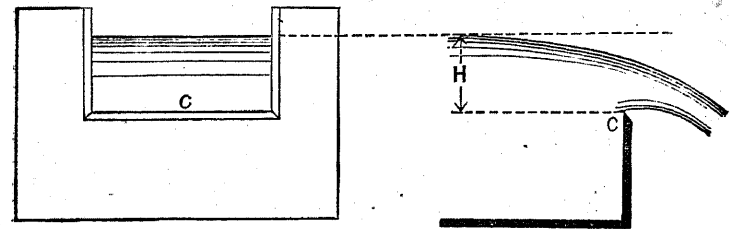
即チ $v = \sqrt{2g(x+h)^{\frac{1}{2}}}$ 【(153) 式参照】

v ノ値ヲ (a) 式中ニ代入スレバ

$$Q' = b \sqrt{2g} \int_{h_1}^{h_2} (x+h)^{\frac{1}{2}} dx \\ = \frac{2}{3} b \sqrt{2g} \left[(h_2+h)^{\frac{3}{2}} - (h_1+h)^{\frac{3}{2}} \right].$$

若シ $h_1 = 0$ ナル場合ハ孔口ノ上邊ガ水面ト一致シテ上邊ナギニ等シキ故ニ孔口ハ變シテ矩形缺口即チ矩形堰トナルベシ而シテ h_2 ハ缺口ノ頂 (Crest) ノ水面以下ノ深サニシテ即チ頂ノ水頭ナリ今之ヲ H ニテ示セバ上式ハ次ノ如クナルベシ。

第 265 圖



$$Q' = \frac{2}{3} b \sqrt{2g} \left[(H+h)^{\frac{3}{2}} - h^{\frac{3}{2}} \right] \dots\dots\dots (165)$$

此ニ注意スベキハ頂ノ水頭 H ハ頂ノ上ノ水深ニアラズシテ圖ニ示ス如ク落下セザル水面ヨリ頂マデノ鉛直距離ナリトス。

若シ接近流速ナキトキハ $h = 0$ トナリテ

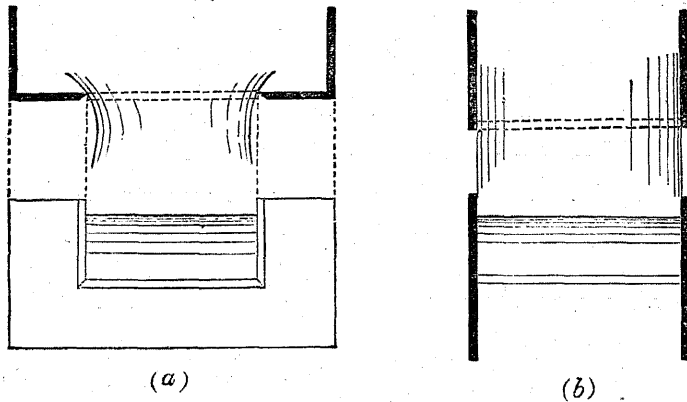
$$Q' = \frac{2}{3} b \sqrt{2gH^{\frac{3}{2}}} \dots \dots \dots (166)$$

(165)式ト(166)式トニ於テ Q' ハ理論流量ニシテ實際流量ハ實驗ニヨリテ缺口ノ流量係數ヲ見出シテ初メテ之ヲ知ルヲ得ベシ。

此矩形缺口ハ流量大ナラザル水路ノ流量測定ニ多ク用ヒラル、モノナリ。

138. 缺口ノ兩端ニ於ケル縮流 (End Contraction at Notch) 容器ノ斷面積ガ缺口ニ比シテ特別ニ大ナル

第 266 圖



トキハ缺口ノ兩端ニ於テ流水ノ縮流ヲ起スベシ、之ヲ端縮流 (End Contraction)ト稱ス。若シ容器又ハ水路ノ幅ガ缺口ノ幅ト等シキトキハ第 266. b) 圖ノ如ク其兩端ニ縮流ヲ生ゼス、此等ノ縮流ノ有無ニヨリテ

缺口ノ流量係數モ變ズルモノナリ。而シテ何レノ場合ニ於テモ缺口ノ底邊ニハ必ズ縮流ヲ生ズル如キ構造ヲ設ケザルベカラズ。

又缺口ノ底邊即チ堰ノ頂ノ形狀ニヨリテ流量係數異ナルモノナレバ、其場合ニ就テ實驗ヲナシ流量係數ヲ定メザレバ流量ヲ算出スルコト能ハズ。故ニ流量測定ニ使用スル缺口ハ其兩端及底邊ヲ共ニ銳縁トナセリ。此ノ如ク其縁ノ形ヲ一定スレバ流量係數モ亦一定スベシ。

139. ふらんしす (Francis)氏ノ公式 缺口或ハ堰ヲ越エテ流下スル實際流量ヲ算出スル公式中最多ク用ヒラル、ハふらんしす氏ノ公式ナリ。同氏ハ長サ10呎、頂ノ水頭0.6呎乃至1.6呎ノ缺口ニ就テ實驗ヲナシ次ノ公式ヲ得タリ。

$$Q = 0.622 \times \frac{2}{3} \left(b - \frac{nH}{10} \right) \sqrt{2g} \left[(H+h)^{\frac{3}{2}} - h^{\frac{3}{2}} \right] \dots \dots (167)$$

及
$$Q = 0.622 \times \frac{2}{3} \left(b - \frac{nH}{10} \right) \sqrt{2g} H^{\frac{3}{2}} \dots \dots (168)$$

(167)式ハ接近流速アル場合ニシテ(168)式ハ接近流速ナキ場合ナリ。堰ノ長サハ b ナレトモ其兩端ニ縮流アルニヨリ其有效長サハ尙短クナルベシ。即チ $b - \frac{nH}{10}$ トナル式中ノ n ハ端縮流ノ數ヲ表ハスモ

ノナリ。例令ハ第266圖ノ(a)ノ場合ニハ端縮流ノ數ハ二ツニシテ $n=2$ 、(b)ノ場合ニ於テハ端縮流ナシ。即チ $n=0$ ナリ依テ(167)式ト(168)式トハ次ノ如クナルベシ。

(a)ノ場合

$$Q = 3.33 \left(b - \frac{2H}{10} \right) \left[(H+h)^{\frac{3}{2}} - h^{\frac{3}{2}} \right] \dots\dots\dots(169)$$

$$Q = 3.33 \left(b - \frac{2H}{10} \right) H^{\frac{3}{2}} \dots\dots\dots(170)$$

(b)ノ場合

$$Q = 3.33b \left[(H+h)^{\frac{3}{2}} - h^{\frac{3}{2}} \right] \dots\dots\dots(171)$$

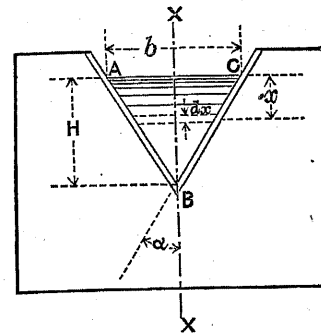
$$Q = 3.33bH^{\frac{3}{2}} \dots\dots\dots(172)$$

(169)式ハ端縮流ノ數2ニシテ接近流速アル場合ニ適用セラレ(170)式ハ端縮流ノ數2ニシテ接近流速ナキ場合、(171)式ハ端縮流ナクシテ接近流速ノミアル場合、(172)式ハ端縮流ニ接近流速モナキ場合ニ夫々適用セラル、モノナリ。

140. 三角形ノ缺口 三角形ノ缺口ヨリ流出スル水流ノ断面ノ形状ハ水頭 H ノ如何ニ關セズ常ニ相似形ナル故ニ此缺口ヨリ流出スル水量ノ流量係數ハ一定不變ナリ。

第267圖ニ於テ幅 dx 、長サ $\frac{b}{H}(H-x)$ ナル細微細長

第267圖



面アリテ其面積ヲ dA ヲ以テ表ハセバ

$$dA = \frac{b}{H}(H-x)dx.$$

此細微面積 dA ヨリ流出スル所ノ細微流量ヲ dQ ヲ以テ示セバ

$$dQ' = \frac{b}{H}(H-x)dx \cdot v.$$

v ハ其細微面積ヲ流ル、水ノ理論流速ナルヲ以テ

$$v = \sqrt{2gx}$$

故ニ $dQ' = \frac{b}{H}(H-x)dx \sqrt{2gx}$

$$= \frac{b}{H} \sqrt{2g} (Hx^{\frac{3}{2}} - x^{\frac{5}{2}}) dx.$$

之ヲ積分シテ其限界ヲ0ヨリ H マデトスレバ

$$Q' = \frac{4}{15} b \sqrt{2g} H^{\frac{5}{2}} \dots\dots\dots(173)$$

三角形ノ各邊 AB 又ハ BC ト鉛直線 XX トナセル角カ相等シクシテ其角ヲ α ヲ以テ示セバ

$$b = 2H \tan \alpha.$$

(173)式ハ次ノ如クナル

$$Q' = \frac{8}{15} \tan \alpha \sqrt{2g} H^{\frac{5}{2}}$$

若シ $\alpha = 45^\circ$ トスレバ

$$Q' = \frac{8}{15} \sqrt{2g} H^{\frac{5}{2}}$$

此式ニ於テ Q' ハ理論流量ニシテ實際流量ヲ Q ニテ表ハセバ

$$Q = C \frac{8}{15} \sqrt{2g} H^{\frac{5}{2}}$$

實驗ニヨレバ三角形缺口ノ頂角90度ナルトキハ流量係數 $C = 0.592$ ニシテ上式ハ次ノ如シ。

$$Q = 2.53H^{\frac{5}{2}} \dots \dots \dots (174)$$

矩形缺口及三角形缺口ハ流量大ナラザル水路ノ流量ノ測定ニ用ヒラレ、三角形缺口ハ殊ニ流量ノ少ナキ場合ニ便利ナリトス。

141. 流量測定ニ關スル注意 流量測定ニハ普通矩形缺口ヲ用フルモノナルガ流量測定ヲナスニ當リテ注意スベキ事項ハ次ノ如シ。

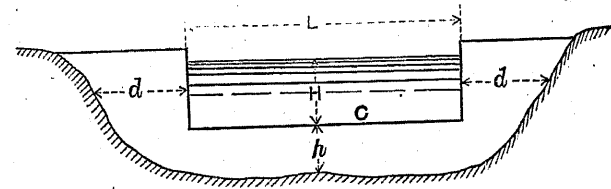
(1) 缺口ノ底邊 C ハ水平ニシテ銳ク其長サハ底邊ノ水頭ノ三倍以上即チ $L > 3H$ ナラザルベカラズ。(第268圖)

(2) 缺口ノ堰板ノ上流面 CD ハ鉛直ナラザルベカラズ(第269圖)。

(3) 底邊 C ハ水路ノ底ヨリ充分高クシテ底邊ニ於ケル縮流ヲ充分ニ起サシムベシ。即チ底邊ノ高サハ水頭 H ノ三倍以上即チ $h > 3H$ ナラザルベカラズ。

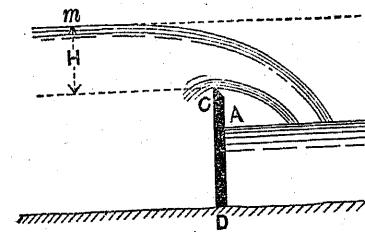
(4) 端縮流ヲ充分ナラシムル爲メニ缺口ノ兩端ト水路ノ側邊トノ間隔ハ又水頭 H ノ三倍以上即チ

第268圖



$d > 3H$ ナラザルベカラズ。(第268圖)。

第269圖



ルヲ免レズ。(第269圖)。

(5) 落流ノ下即チ A ノ部分ニハ充分ニ空氣ガ流通スル様ニスベシ然ラザレバ此部分ニ眞空ヲ生ズル傾向ヲ起シ從テ流量ニ變化ヲ生ズ

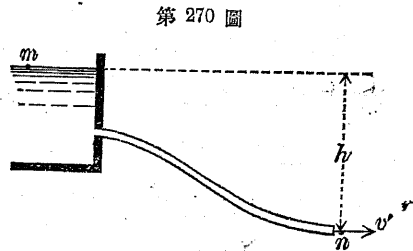
(6) 底邊ノ水頭 H ハ底邊ト流下ノ影響ヲ受ケザル水面トノ高低差ヲ表ハスモノニシテ鈎尺 (Hook Gauge) ヲ以テ精密ニ之ヲ測ルベシ。水路ノ岸ニ近ク量水井 (Gauge Pit) ヲ穿チテ水路ノ水ヲ井中ニ導キ井内ノ水位ト底邊トノ高低差ヲ測ルコトアリ。又接近流速ナキ場合ニ於テハ缺口ノ上流ニテ流下ノ影響ヲ受ケザル水面アル所ニ量水尺ヲ立テ其量水

尺ノ零點ヲ缺口ノ底邊ト同シ高サトシテ直ニ水頭
Hヲ見出スコトアリ。

實際ノ場合ニ於テ時トシテハ前述ノ如キ標準缺
口ヲ用ヒズシテ在來ノ堰ヲ利用シテ流量ヲ測ルコ
トアリ、然レドモ此場合ニ於テハ堰ノ頂ノ幅、形狀其
他種々ノ原因ニヨリテ流量係數ニ大ナル變化アル
ヲ免レザレバ精密ナル結果ヲ得ルコトヲ期スベカ
ラス。

第九章 管内ノ水流

142. 管内ニ於ケル損失水頭 水ガ管内ヲ流ル、
最モ簡單ナル場合ハ第 270 圖ニ示ス如ク水ガ容器
ヨリ管内ニ流入シテ他ノ一端ヨリ流出スル場合ナ
リ。若シ水カ管内ヲ流ル、際ニ何等ノ障害ヲ受ケ
ザルモノトスレバ m ト n ノ二點ニべるぬいり氏ノ



第 270 圖

定理ヲ適用シテ次
ノ式ヲ得ベシ。

$$0 + \frac{p_a}{w} + h = \frac{v^2}{2g} + \frac{p_a}{w} + 0.$$

然ルニ實際ハ水ガ

管内ヲ流ル、際ニ種々ノ障害ヲ受ケ之ガ爲メニ水
頭ノ損失アリ。今此損失水頭ヲ h' ニテ示セバ

$$0 + \frac{p_a}{w} + h = \frac{v^2}{2g} + \frac{p_a}{w} + 0 + h'.$$

即チ

$$h = \frac{v^2}{2g} + h' \dots \dots \dots (175)$$

此損失水頭ノ起ル重ナル原因ハ次ノ如シ。

(1) 水ガ管口ニ流入スル際ニ縮流アル爲メニ起
ル損失水頭。

(2) 水ガ管内ヲ流ル、際其相互ノ微分子間ノ内
部摩擦ニ起因スル損失水頭。

(3) 水ガ管内ヲ流ル、際管ノ内面ト水トノ摩擦
ニ起因スル損失水頭。

(2) ト (3) トノ水頭ノ損失ハ互ニ錯綜シテ別々ニ論
究スルコト能ハズ。故ニ此損失ヲ合セ稱シテ水頭
ノ摩擦損失ト謂フ。尙管ノ場合ニ於テハ通常(3)ノ
損失甚大ナルヲ以テ實際摩擦ニ基ク損失ハ殆ンド
(3)ノミナリトスルモ可ナルベシ。

以上三原因ノ外流水ノ方向ヲ變シ又ハ管ノ内徑
ヲ急ニ變化スル場合ニモ亦水頭ノ損失アリ。又阻
水弁等ノ爲メニ流ヲ妨ゲル際ニ水頭ノ損失ヲ起ス
今一々此等ノ損失水頭ニ就テ論究セン。

143. 管ノ入口ニ於ケル損失水頭 管ノ入口ニ於

テ管ノ内徑ノ二倍乃至三倍ノ長サノ部分ヲ取リテ之ヲ標準短管ト假定ス。然ルニ標準短管ノ損失水頭ハ(157)式ニヨリテ v ヲ實際流速トスレバ

$$\text{損失水頭} = \left(\frac{1}{C_v^2} - 1 \right) \frac{v^2}{2g}$$

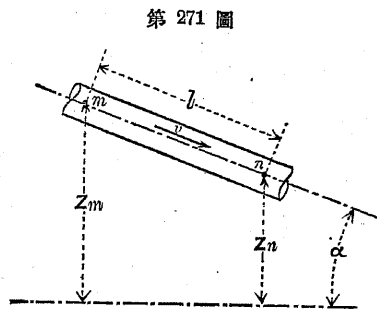
實驗ニヨレバ標準短管ニ於テ $C_v = 0.82$ ナル故ニ

$$\text{損失水頭} = \left(\frac{1}{0.82^2} - 1 \right) \frac{v^2}{2g} = 0.5 \frac{v^2}{2g} \dots\dots\dots(176)$$

上式ハ管ノ入口ノ標準短管ト假定サレタル部分ニ起ル損失水頭ヲ表ハス。

144. 管内ノ摩擦ヨリ起ル損失水頭 第271圖ニ示ス如ク管内ノ流水中ノ流線ノ上ニ m, n ノ二點ヲ取り之ニベるぬいりノ定理ヲ適用スレバ

$$\frac{v_m^2}{2g} + \frac{p_m}{w} + Z_m = \frac{v_n^2}{2g} + \frac{p_n}{w} + Z_n + \text{損失水頭}$$



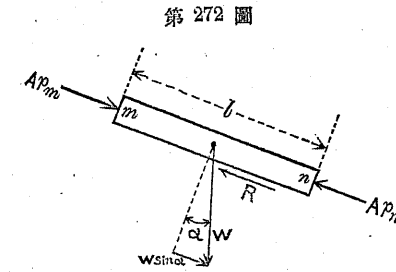
ケル流速モ亦均等ナリ即チ

上式中ノ損失水頭トハ水カ m ヨリ n マデ流ル、間ニ摩擦ニヨリテ起ル損失水頭ナリ。此場合ニ於テ管ノ内徑ハ均等ナルヲ以テ管内ノ各點ニ於

$$v_m = v_n$$

$$\text{故ニ 損失水頭} = \left(\frac{p_m}{w} + Z_m \right) - \left(\frac{p_n}{w} + Z_n \right) \dots\dots\dots(177)$$

今 m 及 n ニ於ケル二ツノ断面ニ挾マレタル長サ l ノ水柱ヲ取リテ考フレバ此水柱ニハ四ノ外力ガ働ケリ。第272圖ニ示スガ如ク水柱ノ断面積ヲ A トスレバ m ノ断面ニ於ケル水壓 $A p_m$ 、 n ノ断面ニ於ケル水壓 $A p_n$ 、水柱ノ重量 $W = A \cdot w \cdot l$ 及ビ管ノ内面ニ於ケル摩擦 R ハ即チ四外力ニシテ此等ノ外力ニ働カレテモ此水柱ハ加速度モ減速度モ有セズ常ニ均等



速度ヲ以テ流動シテ運動ニ何等ノ變化モ與ヘズ。故ニ此等ノ四力ハ互ニ平衡ヲ保ツコト明カナリ。從ツテ此等ノ外力ノ流水

ノ方向ニ於ケル分力ノ代數和ハ0ナラザルベカラズ。即チ

$$A p_m + A \cdot w \cdot l \cdot \sin \alpha - R - A p_n = 0$$

$$\text{即チ} \quad \frac{p_m}{w} + l \cdot \sin \alpha - \frac{p_n}{w} = \frac{R}{A \cdot w}$$

$$\text{第271圖ニヨリテ} \quad l \cdot \sin \alpha = Z_m - Z_n$$

$$\text{故} = \left(\frac{p_m}{w} + Z_m\right) - \left(\frac{p_n}{w} + Z_n\right) = \frac{R}{A \cdot w}$$

$$(177) \text{式} = \text{ヨリ 損失水頭} = \frac{R}{A \cdot w}$$

若シ管ノ内面ノ單位面積ニ於ケル摩擦ヲ F トシ又管ノ内徑ヲ d トスレバ

$$R = \pi \cdot d \cdot l \cdot F$$

然ルニ $A = \frac{\pi \cdot d^2}{4}$

$$\text{故} = \text{損失水頭} = \frac{4\pi \cdot d \cdot l \cdot F}{w \pi d^2} = \frac{4 \cdot l \cdot F}{w \cdot d} \dots (178)$$

實驗ニヨルニ F ノ値ハ流速ノ如何ニヨリテ異ナルモノナリ。而シテ實際使用スル管内ノ流速ニハ制限アルモノニシテ水道鐵管ニ於テハ普通 5 呎毎秒ヲ以テ適度トス。乍然尙ホ詳細ニ研究スレバ其制限ハ鐵管ノ直徑ニヨリテ異ナルモノニシテ次表ニ示スガ如シ。

管徑(吋)	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	27	30	33	36
流速呎/秒	2.5	2.8	3.0	3.3	3.5	3.9	4.2	4.5	4.7	5.0	5.3	5.8	6.2	6.6	7.0

上述ノ如キ流速ニ對シテハ摩擦 F ハ流速ノ自乗ニ正比例スルモノトシテ大差ナシ。即チ

$$F = c_1 v^2$$

$$\text{損失水頭} = \frac{4c_1}{w} \cdot \frac{l}{d} \cdot v^2$$

今 $\frac{4c_1}{w}$ ヲ f_1 ニテ表ハセバ

$$\text{損失水頭} = f_1 \frac{l}{d} v^2 \dots (179)$$

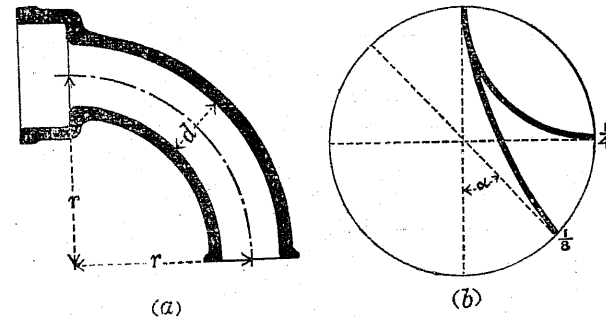
上式ニ於テ f_1 ノ性質ヲ研究スレバ f_1 ハ不命數ニアラズ若シ $f_1 = \frac{f}{2g}$ トスレバ f ハ不命數トナリテ實驗ニテ f ヲ見出ス時ニ都合ヨロシ即チ

$$\text{損失水頭} = f \cdot \frac{l}{d} \cdot \frac{v^2}{2g} \dots (180)$$

上式ニ於テ f ハ摩擦係數 (Friction Factor) ト稱シ第四表ニ示ス如ク管ノ内徑ト流速ノ如何ニヨリテ其値ヲ變ズルモノナリ。

145. 曲管ノ爲メニ起ル損失水頭 曲管ノ爲メニ起ル損失水頭ヲ見出スニわいずば (Weisbach) 氏ガ

第 273 圖



多クノ實驗ヲ行ヘリ其結果トシテ其損失水頭ト流速水頭トノ間ニ次ノ如キ關係アルコトヲ見出セリ

表 第四 鐵管ノ摩擦係數

管徑 (呎)	管內ノ流速 (呎 毎秒)																	
	1			2			3			4			6			10		
	c	s.f	f	c	s.f	f	c	s.f	f	c	s.f	f	c	s.f	f	c	s.f	f
0.05	.047041037034031029
0.10	.038032030028026024
0.25	.028	.041	.064	.026	.037	.056	.026	.034	.053	.025	.033	.050	.024	.031	.048	.022	.029	.044
0.50	.026	.035	.049	.025	.032	.045	.025	.031	.044	.023	.028	.040	.021	.027	.039	.020	.025	.035
0.75	.025	.031	.039	.025	.030	.038	.024	.029	.036	.022	.027	.033	.021	.025	.032	.019	.023	.029
1.00	.024	.029	.036	.024	.029	.035	.023	.027	.033	.022	.026	.032	.020	.024	.029	.018	.021	.026
1.25	.024	.028	.034	.023	.028	.032	.022	.026	.031	.021	.025	.030	.019	.022	.027	.017	.020	.025
1.50	.023	.027	.033	.022	.026	.030	.021	.025	.029	.020	.024	.028	.018	.021	.025	.016	.019	.022
1.75	.022	.026	.031	.021	.025	.029	.020	.024	.028	.018	.022	.025	.017	.021	.024	.016	.019	.020
2.00	.021	.025	.030	.020	.024	.028	.019	.023	.027	.017	.021	.024	.016	.019	.023	.015	.018	.021
2.50	.020	.023	.027	.019	.022	.025	.018	.021	.024	.016	.019	.021	.015	.018	.020	.014	.017	.019
3.00	.019	.022	.025	.018	.021	.024	.017	.020	.023	.015	.018	.020	.014	.017	.019	.013	.015	.018
3.50	.018	.021	.023	.017	.020	.022	.016	.019	.021	.014	.017	.018	.013	.015	.017	.012	.014	.015
4.00	.017	.019	.022	.016	.018	.020	.015	.017	.019	.013	.015	.016	.012	.014	.015	.011	.012	.014

表 中
 c.....内面平滑ナル鐵管
 s. f.....内面稍粗ナル鐵管
 f.....内面甚粗ナル鐵管

即チ

$$\text{損失水頭} = c \frac{v^2}{2g} \dots \dots \dots (181)$$

上式中ノ c ノ値ハ曲管ノ内徑及曲度半徑ニヨリテ異ナルモノニシテ次表ニ示スガ如シ。

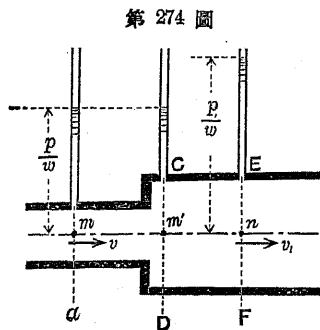
$\frac{d}{r}$	0.2	0.4	0.6	0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.8	2.0
c	0.131	0.138	0.158	0.206	0.294	0.440	0.661	0.977	1.40	1.98

第 273 (a) 圖ニ示ス如ク表中 d ハ曲管ノ直徑ニシテ r ハ其曲度半徑ヲ表ハス。

普通水道用鐵管ノ曲度ニハ一定ノ規定アリテ第 273 (b) 圖ニ於ケル如ク其偏倚角 α ガ 360° ノ四分ノ一即チ 90° ナルトキハ之ヲ $\frac{1}{4}$ 曲管ト謂ヒ、45° ナルトキハ之ヲ $\frac{1}{8}$ 曲管ト稱シ順次此ノ如ク $\frac{1}{16}$ 曲管、 $\frac{1}{32}$ 曲管等アリ。

名 稱	偏倚角 α
$\frac{1}{4}$ 曲管	90°
$\frac{1}{8}$ 曲管	45°
$\frac{1}{16}$ 曲管	22.50°
$\frac{1}{32}$ 曲管	11.25°

146. 管ノ直徑ノ急劇ナル變化ニヨリテ起ル損失水頭 (1) 直徑ヲ急ニ増大スル場合 第274圖ニ於テ



第274圖

m, m' 及 n ノ三點ハ同高度ニアルモノトシ、 m 點ニ於ケル管ノ斷面積ヲ A トシ、其斷面ニ於ケル流速ヲ v トス。又 n 點ニ於ケル管ノ斷面積ヲ A_1 トシ其斷面ニ於ケル流速ヲ v_1 トスレバ

此管ノ任意ノ斷面ニ於ケル流量ハ一定不變ノモノナレバ

$$Av = A_1v_1$$

又 m ト n トノ二點ニベるベルヌーイ氏ノ定理ヲ適用スレバ

$$\frac{v^2}{2g} + \frac{p}{w} + 0 = \frac{v_1^2}{2g} + \frac{p_1}{w} + 0 + \text{損失水頭}$$

$$\text{上式ヨリ 損失水頭} = \frac{v^2}{2g} - \frac{v_1^2}{2g} - \left(\frac{p_1}{w} - \frac{p}{w}\right) \dots \dots \dots (182)$$

水ハ管徑小ナル部分ヨリ大ナル部分ニ流レ込ミタル瞬間ニハ尙其流速ヲ保チ從テ其水壓モ亦未ダ變化セズ。故ニ圖中 m' ニ於ケル流速ハ尙 v ニシテ其點ノ水壓モ尙 p ナルベシ。依テ CD ノ斷面ニ於ケル總水壓ハ pA_1 ニシテ EF ナル斷面ニ於ケル總水壓ハ

p_1A_1 ナリ。然ルニ p_1 ハ p ヨリ大ナル故ニ A_1p_1 ハ A_1p ヨリ大ナリ。 CD ノ斷面ヲ通過スル流量 W ハ $(A_1p_1 - A_1p)$ ナル力ニ逆フテ動クラ以テ m' 點ニテ水ガ初ニ有スル所ノ流速 v ハ次第ニ減ジテ n 點ニ於テ v_1 トナルベシ。或物體ニ働ク力ノ量ハ夫ガ爲メニ起ル物體ノ動量即チ質量ト速度トノ乘積ノ變化ヲ以テ表ハスコトヲ得。即チ

$$A_1p_1 - A_1p = \frac{W}{g}(v - v_1)$$

$W = a_1v_1w$ ナル故ニ

$$A_1p_1 - A_1p = \frac{A_1v_1w}{g}(v - v_1)$$

$$\frac{A_1p_1}{A_1w} - \frac{A_1p}{A_1w} = \frac{A_1v_1w}{g \cdot A_1w}(v - v_1)$$

$$\frac{p_1}{w} - \frac{p}{w} = \frac{v_1}{g}(v - v_1) \dots \dots \dots (183)$$

(182) 式ト (183) 式ニヨリ

$$\text{損失水頭} = \frac{v^2}{2g} - \frac{v_1^2}{2g} - \frac{v_1}{g}(v - v_1)$$

$$= \frac{(v - v_1)^2}{2g} \dots \dots \dots (184)$$

又 $Av = A_1v_1$ 即チ $v = \frac{A_1v_1}{A}$ ナル故ニ (184) 式ニヨリ

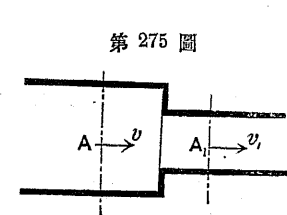
$$\text{損失水頭} = \frac{\left(\frac{A_1v_1}{A} - v_1\right)^2}{2g} = \left(\frac{A_1}{A} - 1\right)^2 \frac{v_1^2}{2g} \dots \dots \dots (185)$$

(2) 直徑ヲ急ニ小サクナル場合 水ガ内徑大ナル管ヨリ急ニ小ナル内徑ノ管内ニ流入スル際ニモ亦タ水頭ノ損失ハ次ノ如ク表ハスヲ得。

$$\text{損失水頭} = k \frac{v^2}{2g} \dots \dots \dots (186)$$

kノ値ハ斷面 A₁ ト Aノ比ニヨリテ變化スルモノニシテ實驗ノ結果ニヨレバ

$\frac{A_1}{A}$.10	.20	.30	.40	.50	.60	.70	.80	.90	1.0
k	.362	.338	.308	.267	.221	.164	.105	.053	.015	0



第 275 圖

又管内ノ流水ガ阻水弁ニヨリテ妨ゲラル、際ニ急ニ其斷面積ガ減少セラル、故ニ又水頭ノ損失ヲ起スベシ。弁ノ形ニハ種々アリ第276圖

ニ示ス三種ハ最普通ナルモノナリ。各種ニ就テ實驗シタル kノ値ハ次表ノ如シ

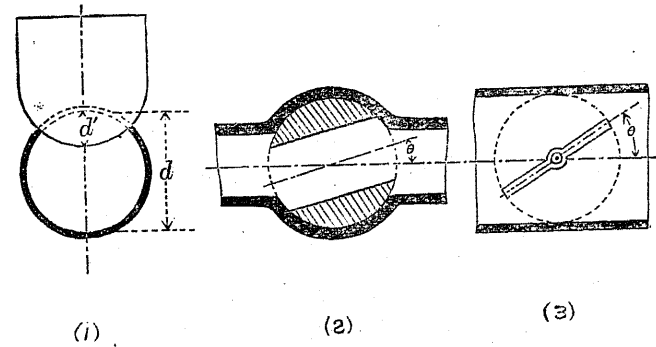
第(1)種ノ弁ヲ用フル場合

$\frac{d'}{d}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{3}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{5}{8}$	$\frac{3}{4}$	$\frac{7}{8}$
k	.07	.26	.81	2.1	5.5	17	98

第(2)種ノ弁ヲ用フル場合

θ	10°	20°	30°	40°	50°	55°	60°	65°
k	.29	1.6	5.5	17	53	106	206	486

第 276 圖



第(3)種ノ弁ヲ用フル場合

θ	5°	10°	20°	30°	40°	50°	60°	65°	70°
k	.24	.52	1.5	3.9	11	33	118	256	750

147. 管内ノ流速及流量 前數節ニ於テ論ゼシ損失水頭ヲ列記スレバ次ノ如シ

$$\text{管ノ入口ニ於ケル損失水頭} = 0.5 \frac{v^2}{2g}$$

$$\text{管内ノ摩擦ヨリ起ル損失水頭} = f \frac{l}{d} \frac{v^2}{2g}$$

$$\text{曲管ノ爲メニ起ル損失水頭} = c \frac{v^2}{2g}$$

$$\begin{aligned} \text{管徑ノ急ナル擴大ニヨル損失水頭} &= \frac{(v-v_1)^2}{2g} \\ &= \left(\frac{A_1}{A}-1\right)^2 \frac{v_1^2}{2g} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{管徑ノ急ナル縮小及竽ニヨリテ起ル損失水頭} \\ &= k \frac{v^2}{2g} \end{aligned}$$

(175)式ニ於テ此等ノ値ヲ h' ニ代入スレバ

$$\begin{aligned} h = \frac{v^2}{2g} + 0.5 \frac{v^2}{2g} + f \frac{l}{d} \frac{v^2}{2g} + c \frac{v^2}{2g} + \left(\frac{A_1}{A}-1\right)^2 \frac{v_1^2}{2g} \\ + k \frac{v^2}{2g} \dots\dots\dots(187) \end{aligned}$$

若シ管ガ直管ニシテ内徑均等ナレハ (187)式ハ次ノ如クナル

$$h = \frac{v^2}{2g} + 0.5 \frac{v^2}{2g} + f \frac{l}{d} \frac{v^2}{2g} = \left(1.5 + f \frac{l}{d}\right) \frac{v^2}{2g} \dots\dots\dots(188)$$

若シ管ノ長ガ $4000d$ ヨリ長クナレバ $f \frac{l}{d}$ ノ値ハ 1.5 ニ對シテ甚大ナルニハ 1.5 ナル項ヲ省略スルモ其誤差ハ百分ノ一以下ナル故ニ之ヲ省略スレバ

(188)式ハ次ノ如クナル

$$h = f \frac{l}{d} \frac{v^2}{2g} \dots\dots\dots(189)$$

此式ハ長管ノ場合ニ適用スルモノニシテ總水頭 h ハ悉ク摩擦ノ爲ニ損失セラレタルモノト見做スヲ得ベシ

(188)式ニヨリ

$$v = \sqrt{\frac{2gh}{1.5 + f \frac{l}{d}}} \dots\dots\dots(190)$$

今管内ノ流量ヲ Q ニテ示シ管ノ斷面積ヲ A トス

$$\text{レバ} \quad Q = A \cdot v.$$

$$A = \frac{\pi d^2}{4}$$

$$\text{故ニ} \quad Q = \frac{\pi d^2}{4} \sqrt{\frac{2gh}{1.5 + f \frac{l}{d}}} \dots\dots\dots(191)$$

$$\text{上式ヨリ} \quad d = \sqrt[5]{\frac{1.5d + f \frac{l}{d} \left(\frac{4Q}{\pi}\right)^2}{2gh}} \dots\dots\dots(192)$$

長管ノ場合ハ同様ニシテ (189)式ヨリ

$$Q = \frac{\pi d^2}{4} \sqrt{\frac{2gh}{f \frac{l}{d}}} \dots\dots\dots(191_a)$$

$$\text{又} \quad d = \sqrt[5]{\frac{f l}{2gh} \left(\frac{4Q}{\pi}\right)^2} = 0.479 \left(\frac{f l Q^2}{h}\right)^{\frac{1}{5}} \dots\dots\dots(192_a)$$

若シ水頭ト管徑及管長ヲ知レバ (190)式ニヨリテ管内ノ流速ヲ見出し、又 (191)式ニヨリテ管内ノ流量ヲ見出スヲ得ベシ。然ルニ式中ノ f ノ値ハ流速ニヨリテ變ズルモノナレバ初ニ f ノ値ヲ假定シテ流速ヲ算出し此流速ニ對スル f ノ値ヲ第四表ニテ見出し更ニ流速ヲ算出スベシ。此方法ヲ繰返シテ終

ニ f ノ眞値ヲ見出スコトヲ得ベシ。

若シ水頭、管長及流量ヲ知レバ(192)式ニヨリテ管徑ヲ算出スルコトヲ得ベシ。然ルニ(192)式ノ右項ニモ亦 d アルニヨリ初ニ d ヲ假定シテ之ニ對スル f ノ値ヲ第四表ニテ見出シ、d ヲ算出シ、更ニ今見出シタル d ニ對シテ f ノ値ヲ見出シ、此假定シタル d ノ値ト算出シタル d ノ値ト等シキニ至リテ止ム然ルニ此ノ如ク試算ヲ繰返スコトハ甚面倒ナレバ通常概算ノ場合ニハ f=0.02 トシテ計算シテ差支ナシ。

例題 1. ニノ貯水池アリ其二池ノ距離 2000 呎ニシテ水面ノ落差ハ 4 呎ナリ。今此二池ヲ直徑 2 呎ノ鐵管ニテ連結スルトキ管内ノ流速及流量ヲ求メヨ。

(190) 式ニヨリテ f=0.02 ト假定スレバ

v = sqrt(2*gh / (1.5 + f*l/d)) = sqrt(2*32.2*4 / (1.5 + 0.02*2000/2)) = 3.5 呎毎秒

第四表ニヨリ流速 3.5 呎毎秒ニ對スル 2 呎管ノ摩擦係數ハ 0.018 ナリ。再ビ之ヲ(190)式中ニ代入スレバ

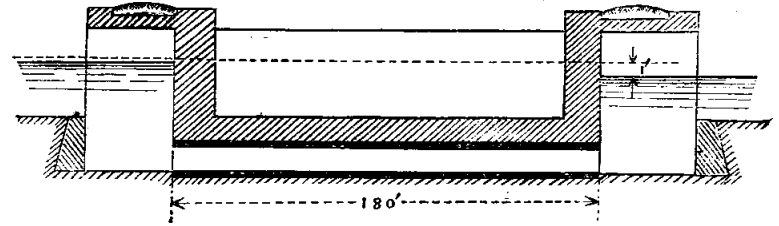
v = sqrt(2*32.2*4 / (1.5 + 0.018*2000/2)) = 3.65 呎毎秒

第四表ニヨリ 3.65 呎毎秒ニ對スル摩擦係數ハ 0.018 = 近似セル故ニ 3.65 呎毎秒ハ求ムル所ノ流速ナリ。

又鐵管ノ斷面積 A = pi/4 * d^2 = 3.14/4 * 2^2 = 3.14 平方呎
故ニ 流量, Q = A*v = 3.14 * 3.65 = 11.46 立方呎毎秒

例題 2. 第 277 圖ノ如ク長サ 180 呎ノ仰彎管アリ其入口ノ水面ト出口ノ水面トノ落差ナ一呎トシテ毎秒 35 立方呎ノ水ヲ通サントス。其管徑ヲ幾何ニスレバ可ナリヤ。

第 277 圖



(192) 式 d = sqrt(5 * (1.5*d + f*l) * (4*Q) / (2*gh * pi)) = 於テ先ツ管徑 d ナ 4 呎ト假定スレバ管内ノ流速ハ

v = Q/A = 35 / (3.14 * 4^2) = 2.8 呎毎秒

第四表ニヨリテ f = .015

故ニ d = sqrt(5 * (1.5 * 4 + .015 * 180) * (4 * 35) / (2 * 32.2 * 1 * 3.14)) = 3.07 呎

然ルトキハ管内ノ流速ハ v = Q/A = 35 / (3.14 * 3.07^2) = 4.7 呎毎秒

第四表ニヨリ f = .0145

故ニ d = sqrt(5 * (1.5 * 3.07 + .0145 * 180) * (4 * 35) / (2 * 32.2 * 1 * 3.14)) = 2.95 呎

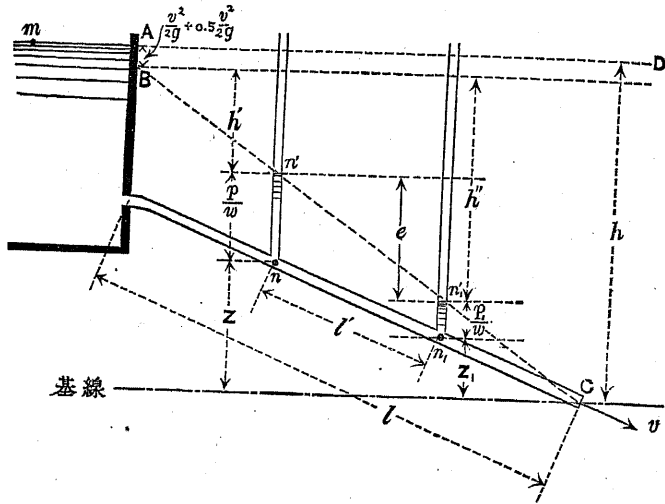
再ビ管内ノ流速ヲ算出スレハ v = Q/A = 35 / (3.14 * 2.95^2) = 5 呎毎秒

第四表ニヨリ f = .0145 ニシテ f ノ値ニ變化ナキ故ニ 2.95 呎ハ求ムル所ノ仰彎管ノ直徑ナリ。

148. 動水傾斜 (Hydraulic Gradient) 第 278 圖ニ示ス

如ク管ノ中途ニ於テ n, n_1 ノ二點ニ水壓計(Piezometer)ヲ立テ流水ノ出口Cヲ閉塞スレバ水ハ容器中ノ水面ト同水位AD線マデ昇ルベシ。然ル後出口Cヲ

第 278 圖



開ケバ管中ノ水ハ直ニ流出シ流速 v ヲ得ベシ之ト同時ニ n, n_1 二點ノ水壓ハ下リテ其壓水頭ハ n ニ於テ $\frac{p}{w}$ トナリ、 n_1 ニ於テハ $\frac{p_1}{w}$ トナルベシ。 p, p_1 ハ n, n_1 二點ニ於ケル水壓ナリ。

今 m, n ノ二點ニベるぬいり氏ノ定理ヲ適用スレバ

$$0 + \frac{p_a}{w} + h = \frac{v^2}{2g} + \left(\frac{p}{w} + \frac{p_a}{w} \right) + Z + \left(h' + 0.5 \frac{v^2}{2g} \right)$$

即チ
$$h = \frac{v^2}{2g} + \frac{p}{w} + Z + \left(h' + 0.5 \frac{v^2}{2g} \right) \dots \dots \dots (a)$$

上式ニ於ケル最後ノ項ハ損失水頭ニシテ h' ハ水ガ器中ヨリ n マテ流レ來ル際ニ起ル摩擦損失、 $0.5 \frac{v^2}{2g}$ ハ管ノ入口ニ於ケル損失水頭ナリ。

同様ニ m, n_1 ノ二點ニベるぬいり氏ノ定理ヲ適用シテ

$$h = \frac{v^2}{2g} + \frac{p_1}{w} + Z_1 + \left(h'' + 0.5 \frac{v^2}{2g} \right) \dots \dots \dots (b)$$

$$(a)(b) \text{ 二式ヨリ } \left(\frac{p}{w} + Z \right) - \left(\frac{p_1}{w} + Z_1 \right) = h'' - h'$$

然ルニ上式ニ於テ $\left(\frac{p}{w} + Z \right)$ 及 $\left(\frac{p_1}{w} + Z_1 \right)$ ハ夫々基線ヨリノ二水壓計中ノ水面 n', n_1' ノ高サヲ表ハス。故ニ此水面ノ高ノ差 e ハ n, n_1 二點間ノ摩擦損失ニ等シキヲ知ル即チ

$$e = f' \frac{l'}{d} \frac{v^2}{2g} \dots \dots \dots (193)$$

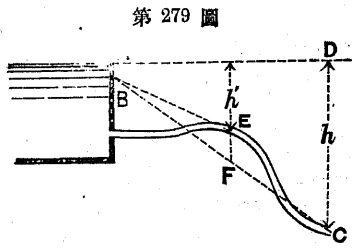
(193) 式ニヨリテ二水壓計中ノ水面ノ高サノ差 e ハ其間ノ管ノ長サニ正比例スルヲ知ル。故ニ此管ニ沿フテ幾多ノ水壓計ヲ立ツレバ其各水面ヲ連結シタルモノハ一ノ直線トナルベキナリ。尤モ此直線ハ容器ノ水面ヨリ少シク下リタルB點ヨリ始マルベシ。而シテ此ABノ高サハ流速水頭ト管ノ入口

ニ於ケル損失水頭トノ和ヲ示スモノナリ。又其線ノ終リハ水ノ流出口ノ水面 C ナルコト明ナリ。此線ノ傾斜ヲ稱シテ動水傾斜ト謂フ。而シテ管ノ各點ノ壓水頭ハ其點ニ於ケル管ト此線トノ間ノ鉛直距離ニテ表ハサル。若シ管ガ甚長ケレバ動水傾斜ハ近似的ニ次式ニテ示スヲ得。

$$s = \frac{h}{l} \dots \dots \dots (194)$$

上式ニテハ AB ノ高サヲ省略シ。管ニ沿ヒタル距離ト水平距離トヲ同一ト見做シタルモノナリ。

管線中ニ上下左右ノ屈曲アル場合ニ於テモ若シ其曲線緩ニシテ之ガ爲メ生ズル損失水頭僅少ナルトキハ動水傾斜ハ均等ナリト見做スヲ得ベシ。故ニ水道用鐵管ノ設計ニ於テハ一般ニ動水傾斜ハ全線均等ナリト假定シ



第 279 圖

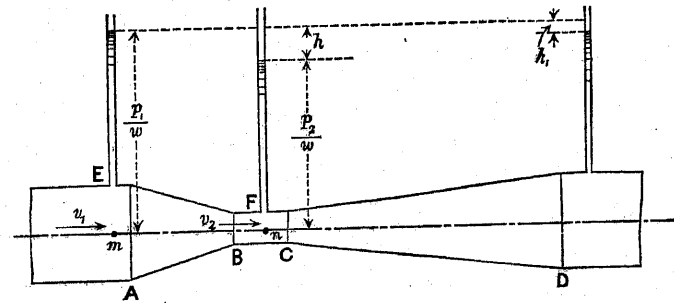
(194) 式ニヨリテ動水傾斜ヲ定ム。

第 279 圖ノ如ク管ガ中途ニテ動水傾斜ノ上ニ出ヅルトキハ其頂點 E ニ於ケル管内ノ水壓ハ一氣壓ヨリ小ナルベシ。乍然 EF ナル高ガ 34 呎ヲ超過セサル間ハ吸彎管(Siphon)ノ作用ニヨリテ其流出

量ニハ影響ナカルベキモ水中ニ混入セル空氣ガ頂點 E ニ集中スレバ吸彎管ノ作用ハ止ミ動水傾斜ハ BE トナリテ其流出量ヲ減ズベシ。前述 EF ガ 34 呎ヲ超ヘザルトノ條件ハ理論的ノモノニシテ實際ハ 20 呎位ニシテ水ノ流ガ不充分ナルコトアリ。故ニ鐵管ヲ布設スル際ハ鐵管ヲ動水傾斜線以上ニ布設セザル様ニ注意スベシ。

149. ベんちゅり水量計 (Venturi Meter) 此水量計ハ最モ簡單ナル器械ニシテ大ナル鐵管内ノ水量ヲ

第 280 圖



計ルニ最モ精密ナルモノナリ。

其構造ハ漸縮管 AB ト漸開管 CD トヲ小ナル短管 BC ニテ連結シタルモノナリ。此管内ニテ m, n ノ二點ヲ取り、二點ノ直上 E 及 F ニ壓力計ヲ立テ m, n ノ二點ノ水壓ヲ計リ、其壓水頭ヲ夫々 $\frac{p_1}{w}$, $\frac{p_2}{w}$ トシ、其流

速ヲ v_1, v_2 トシ鐵管ハ水平ニ置カレタルモノトス
レバ m, n ノ二點ニべるぬいり氏ノ定理ヲ適用ス
レバ

$$\frac{v_1^2}{2g} + \frac{p_1}{w} = \frac{v_2^2}{2g} + \frac{p_2}{w} \dots\dots\dots(a)$$

m, n ノ二點間ニハ摩擦ニ基因スル損失水頭ナキモ
ノト知ルベシ。

今 m 點ヲ含ム斷面積ヲ a_1, n 點ヲ含ム斷面積ヲ
 a_2 トシ之ヲ通過スル流量ヲ Q' トスレバ

$$Q' = a_1 v_1 = a_2 v_2$$

依テ $v_1 = \frac{Q'}{a_1}, v_2 = \frac{Q'}{a_2}$

v_1 及 v_2 ノ値ヲ (a) 式ニ代入スレバ

$$Q' = \frac{a_1 a_2}{\sqrt{a_1^2 - a_2^2}} \sqrt{2g \left(\frac{p_1}{w} - \frac{p_2}{w} \right)} \dots\dots\dots(195)$$

上式ニ於テ $\left(\frac{p_1}{w} - \frac{p_2}{w} \right)$ ヲベンちゅり水頭 (Venturi
Head) ト稱ス。此水頭ヲ計リ知レバ管内ノ流量ヲ計
算スルヲ得ベシ。然ルニ實際ハ此水量計内ヲ水ガ
通過スル際多少ノ摩擦ヲ受クル故ニ上式ニテ算出
シタルモノハ實際ノ流量ニアラズ。故ニ上式ニ流
量係數 C ヲ入レザルベカラズ。

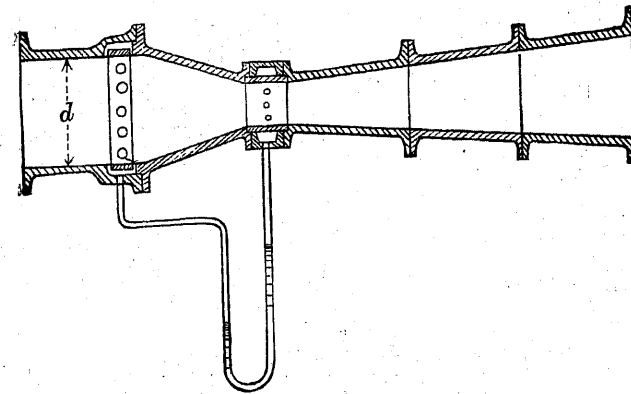
$$Q = C \frac{a_1 a_2}{\sqrt{a_1^2 - a_2^2}} \sqrt{2g \left(\frac{p_1}{w} - \frac{p_2}{w} \right)}$$

C ノ値ハ水量計ノ大小及其内面ノ粗度ニヨリテ變
ズルモノナレバ實驗ニヨリテ定メザルベカラズ。
 C ノ値定マシハ上式ニテ $\left(\frac{p_1}{w} - \frac{p_2}{w} \right)$ ノ外ハ皆常數ナル
ヲ以テ其水量計ニ對シテハ次ノ式ヲ得。

$$Q = k \sqrt{\frac{p_1}{w} - \frac{p_2}{w}} \dots\dots\dots(196)$$

k ハ常數ナルヲ以テ只 $\left(\frac{p_1}{w} - \frac{p_2}{w} \right)$ ヲ計リ知レバ直ニ
其流量ヲ知ルヲ得ベシ。

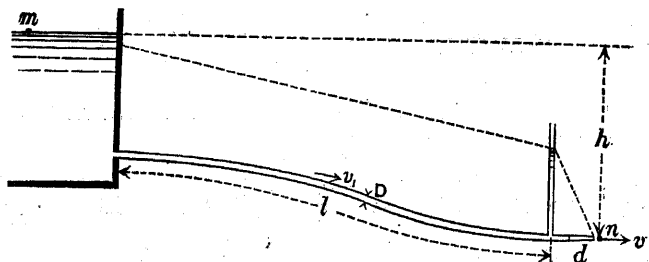
第 281 圖



第 281 圖ハ此水量計ノ縱斷面ニシテ漸縮管ノ長
サハ本管ノ直徑 d ノ二倍乃至二倍半。頸部ノ小短管
ノ直徑ハ $\frac{1}{3}d$ ニシテ漸開管ノ漸開角ハ 5 度ナリ。此
ノ如キ水量計ニ就テハ、せる (Herschel) 氏ガ實驗ヲ
ナシテ定メタル C ノ値ハ 0.97 乃至 0.99 ナリ。

150. 一端ニ水嘴ヲ附セル管 第282圖ニ示スガ如ク長サ l 、直徑 D ナル管ノ一端ニ直徑 d ナル水嘴ヲ

第 282 圖



附シタリトスレバ直徑 D ナル管内ノ流速ハ水嘴ヨリ噴出スル流速ニ比スレバ甚遅緩ニシテ其管内ノ摩擦ニ起因スル損失水頭ハ小ニシテ水嘴ノ所ニテ急ニ流速ヲ増シ壓水頭ハ減ジテ流速水頭ハ急ニ増加スベシ。

今圖ニ於テ m ト n ノ二點ニベるぬいり氏ノ定理ヲ適用スレバ

$$0 + \frac{p_a}{w} + h = \frac{v^2}{2g} + \frac{p_a}{w} + 0 + \text{損失水頭}$$

即チ
$$h = \frac{v^2}{2g} + \text{損失水頭}$$

上式中ノ損失水頭ノ中ニハ入口ニ於ケル損失水頭、管内ノ摩擦ニヨル損失水頭及水嘴ニ於テ内徑ノ急ナル縮小ニヨリテ起ル損失水頭ヲ含ムモノニシテ之ヲ式ニテ示セバ

$$h = \frac{v^2}{2g} + 0.5 \frac{v_1^2}{2g} + f \frac{l}{D} \frac{v_1^2}{2g} + \left(\frac{1}{C^2} - 1 \right) \frac{v^2}{2g} \dots \dots (197)$$

上式ニ於テ v_1 ハ管内ノ流速ニシテ v ハ水嘴ノ射水流速ナリ

又
$$\frac{v_1}{v} = \frac{d^2}{D^2} \text{ 即チ } v_1 = v \frac{d^2}{D^2}$$

若シ管ガ著シク長ケレバ(197)式中ノ右第二項及第四項ノ値ハ第三項ノ値ニ比シテ甚小ナルヲ以テ實際ハ之ヲ省略シテ差支ナシ故ニ

$$v = \left(\frac{2gh}{1 + \frac{f \cdot l \cdot d^4}{D^5}} \right)^{\frac{1}{2}} \dots \dots (198)$$

然ルニ射水ノ動勢ハ次ノ式ニテ之ヲ表ハスヲ得。

M = 單位時間ニ水嘴ヨリ射出スル水ノ質量。

a = 水嘴ノ出口ノ斷面積。

w = 水ノ單位容積ノ重量。

K.E. = 射水ノ動勢。

$$\text{K.E.} = \frac{1}{2} M v^2 = \frac{w a v^3}{2g}$$

上式ニヨリ射水ノ動勢ハ av^3 ノ値ニ正比例シテ増減スルヲ知ルベシ。然ルニ a ヲ増セバ v ハ減ズル故ニ水嘴ノ口徑ヲ如何ニ定ムレバ射水ノ動勢ヲ最大ニスルコトヲ得ベキカラ説明セン。

$$\text{上式} = \text{ヨリ } K.E = \frac{w a v^3}{2g} = \frac{62.5 \pi d^2}{8g} \left(\frac{2gh}{1 + \frac{f l d^4}{D^5}} \right)^{\frac{3}{2}}$$

上式中ニテ $\frac{62.5 \pi}{8g} (2gh)^{\frac{3}{2}}$ ハ常數ナルヲ以テ之ヲ k トスレバ

$$K.E. = \frac{k d^2}{\left(1 + \frac{f l d^4}{D^5} \right)^{\frac{3}{2}}} = k d \left(1 + \frac{f l d^4}{D^5} \right)^{-\frac{3}{2}}$$

上式ヲ d = 就テ微分シ其微分係數ヲ 0 ト置ケバ

$$\frac{d(K.E.)}{dd} = 2k \left(1 + \frac{f l d^4}{D^5} \right)^{-\frac{3}{2}} - \frac{3}{2} k d \left(1 + \frac{f l d^4}{D^5} \right)^{-\frac{5}{2}} \times \frac{4 f l d^3}{D^5} = 0$$

即チ
$$d = \sqrt[4]{\frac{D^5}{2 f l}} \dots \dots \dots (199)$$

管ノ直徑及長サガ與ヘラレタルトキハ (199) 式ニヨリテ射水ノ動勢ヲシテ最大ナラシムル如キ水嘴ノ直徑ヲ見出スヲ得ベシ。

151. 管内ノ流量ト直徑トノ關係 (191) 式ニ於テ管ガ甚長キ場合ハ $f \frac{l}{d}$ ノ値ハ 1.5 = 比シテ著シク大トナル故ニ 1.5 ヲ省略シテ次ノ式ヲ得ベシ。

$$Q = \frac{\pi d^2}{4} \sqrt{\frac{2gh}{f \frac{l}{d}}} = \frac{\pi}{4} \sqrt{\frac{2gh}{f l}} \sqrt{d^5}$$

茲ニ A, B 二個ノ送水管アリテ其管ノ長サ相等シ

ク且ツ同水頭ノ下ニアリテ水ヲ各其一端ヨリ流出セシム。今此二管内ノ摩擦係數ハ大差ナキ故ニ之ヲ相等シキモノト假定スレバ上式ニ於テ $\frac{\pi}{4} \sqrt{\frac{2gh}{f l}}$ ハ二管ニ對シテ等値ナリ之ヲ k ニテ表ハシ d_1, q_1 ヲ A 管ノ直徑及流量トシ d_2, q_2 ヲ B 管ノ直徑及流量トスレバ

$$q_1 = k d_1^{\frac{5}{2}} \quad q_2 = k d_2^{\frac{5}{2}}$$

故ニ
$$q_2 = q_1 \left(\frac{d_2}{d_1} \right)^{\frac{5}{2}} \dots \dots \dots (200)$$

若シ A 管ノ直徑 d_1 ヲ 1 呎トシ B 管ノ直徑 d_2 ヲ 2 呎トスレバ

$$q_2 = q_1 \left(\frac{2}{1} \right)^{\frac{5}{2}} = 5.7 q_1$$

上式ニヨリ直徑 2 呎管内ノ流量ハ 1 呎管ノ流量ノ約六倍ニシテ 1 呎管六本ノ流量ハ 2 呎管一本ノ流量ニ相當セリ、而シテ鐵管ノ厚サハ直徑ヲ増ス割合ニ厚クスル必要ナシ。且ツ 2 呎管一本ノ重量ハ 1 呎管六本ノ重量ニ比スレバ甚小ナリ。故ニ送水管ニハ多クノ小管ヲ用フルヨリモ一本ノ大管ヲ用フル方經濟ナリ。

(200) 式ニテハ管内ノ摩擦係數 f ヲ二管共ニ相等シク假定セシガ詳シク言ヘバ f ハ管ノ直徑ノ大小ニヨリテ變化スルモノナレバ今此等ノ二鐵管ノ摩

摩擦係數ヲ各 f_1, f_2 トスレバ

$$q_2 = q_1 \left(\frac{d_2}{d_1} \right)^{\frac{5}{2}} \left(\frac{f_1}{f_2} \right)^{\frac{1}{2}}$$

第四表 = ヨリ $d_2 = 2', \quad f_2 = 0.019$

$d_1 = 1', \quad f_1 = 0.023$

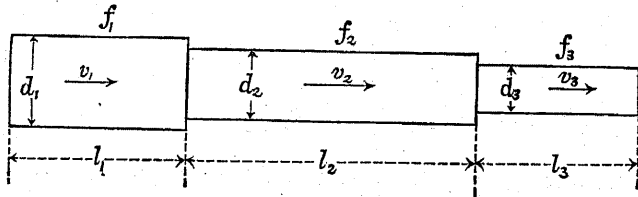
依テ

$$q_2 = q_1 \left(\frac{2}{1} \right)^{\frac{5}{2}} \left(\frac{0.023}{0.019} \right)^{\frac{1}{2}} = 6.2q_1.$$

上式 = ヨリ 尙大管ヲ用ユルノ有効ナルコトヲ知ルベシ.

152. 混成管 (Compound Pipe) 直徑ノ異ナリタル多クノ管ノ連續セルモノヲ混成管ト謂フ. 水力電氣ノ發電所ノ送水管ノ如ク水頭大ニシテ管ノ長サ比較的ニ短キ場合ニ於テハ其下部ニ至ルニ從ヒ水壓次第ニ増加シ管ノ厚サヲ非常ニ厚クスルヲ要スルヲ以テ經濟上ノ考ヨリ次第ニ管徑ヲ小ニシタル混成管ヲ用フ.

第 283 圖



第 283 圖 = 於ケル如ク三ツノ異ナレル管徑及管長ヲ有スル混成管アリ其流量ヲ q トス而シテ管徑

ノ變ズル所ニハ漸縮管ヲ用キテ損失水頭ヲ起サシメザル様ニスレバ水ガ此混成管内ヲ流ル、際受クル所ノ損失水頭 h ハ次ノ如シ.

$$h = f_1 \frac{l_1}{d_1} \frac{v_1^2}{2g} + f_2 \frac{l_2}{d_2} \frac{v_2^2}{2g} + f_3 \frac{l_3}{d_3} \frac{v_3^2}{2g}$$

然ルニ

$$v_1 = \frac{4}{\pi} \frac{Q}{d_1^2}$$

$$v_2 = \frac{4}{\pi} \frac{Q}{d_2^2}$$

$$v_3 = \frac{4}{\pi} \frac{Q}{d_3^2}$$

此等ノ v_1, v_2, v_3 ノ値ヲ上式ニ入ルレバ

$$Q = \frac{\pi}{4} \sqrt{\frac{2gh}{f_1 \frac{l_1}{d_1^5} + f_2 \frac{l_2}{d_2^5} + f_3 \frac{l_3}{d_3^5}}} \dots \dots \dots (201)$$

今此混成管ト等シキ長サヲ有シ同水頭ノ下ニ等シキ流量ヲ有スル均等ノ直徑ヲ有スル管アリトスレバ其直徑 d ハ如何ナルヤヲ見出サンニ

$$Q = \frac{\pi}{4} \sqrt{\frac{2gh}{f \frac{l}{d^5}}}$$

而シテ其流量 Q ト混成管ノ流量トハ等シキモノナルヲ以テ

$$f \frac{l}{d^5} = f_1 \frac{l_1}{d_1^5} + f_2 \frac{l_2}{d_2^5} + f_3 \frac{l_3}{d_3^5}$$

實際ニ於テ管ノ直徑異ナル故ニ其摩擦係數モ亦異ナルモ其差小ナレバ之ヲ相等シキモノト假定スレバ

$$f = f_1 = f_2 = f_3$$

故ニ
$$\frac{l}{d^5} = \frac{l_1}{d_1^5} + \frac{l_2}{d_2^5} + \frac{l_3}{d_3^5} \dots \dots \dots (202)$$

而シテ其管ノ長サ l ハ混成管ノ全長ト等シキ故ニ

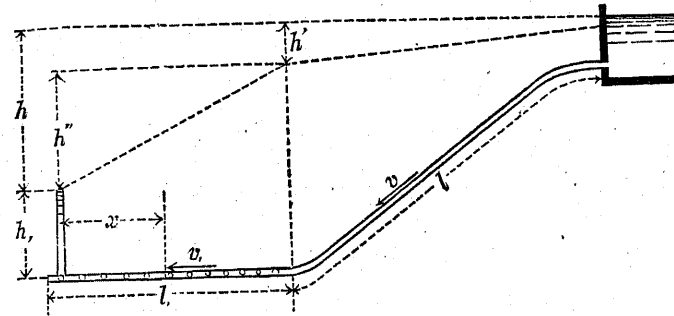
$$l = l_1 + l_2 + l_3 \dots \dots \dots (203)$$

(202) 及 (203) ノ二式ヨリ求ムル所ノ管徑 d ヲ見出スコトヲ得ベシ此ノ如クシテ見出シタル直徑 d ヲ其混成管ノ等價直徑 (Equivalent Diameter) ト謂フ。

混成管ニアリテハ流水ガ大管ヨリ小管ニ向テ流ル、モ小管ヨリ大管ニ向テ流ル、モ其流量ハ相等シカルベキナリ。

153. 水道ノ送水幹管 上水道工事ニ於ケル水源ヨリ市ノ入口ニ至ルマデ幹管ハ途中ニテ水ヲ供給セズ市内ニ入リテ途中至ル所ニテ給水ス第 284 圖ニ於テ l_1 ナル部分ニ於テハ管ノ單位長ニ於テ均等ノ水量ヲ供給スルモノトシ、全線ニ於テ管ノ直徑 d ハ均等ナリト假定ス然ルトキハ l_1 ナル部分ノ管内ノ流速ハ均等ニシテ之ヲ v トス、 l_1 ナル部分ニ入レバ其始點ノ流速ハ v_1 ナルベキモ水ハ途中ニテ給水

第 284 圖



サレ流量次第ニ減ズルヲ以テ流速モ亦次第ニ減ジ終ニ其終點ニ於テハ零トナルベシ。

今此終點ヨリ x ノ距離ニ於ケル流速ヲ v_1 ニテ表ハセバ

$$\frac{v_1}{v} = \frac{x}{l_1} \quad \text{即チ} \quad v_1 = \frac{xv}{l_1}$$

又此點ニ於テ水ガ細微距離 dx ヲ流レテ受クル所ノ損失水頭ヲ dh' トスレバ

$$dh' = f \frac{dx}{d} \frac{v_1^2}{2g} = f \frac{x^2}{dl_1^2} \frac{v^2}{2g} dx$$

今上式ヲ積分シテ其限界ヲ 0 ヲリ l_1 マデトスレバ

$$h' = \frac{v^2 f}{2g dl_1^2} \int_0^{l_1} x^2 dx$$

$$h' = f \frac{l_1}{3d} \frac{v^2}{2g} \dots \dots \dots (204)$$

上式ニヨリ送水管ノ一端ヨリ水ヲ流出セシムル

際ニ起ルベキ損失水頭ハ其途中ヨリ長サニ沿ヒテ均等ニ配水スル場合ニ起ルベキ損失水頭ノ三倍ナルヲ知ル

h' ハ水ガ l_1 ナル部分ヲ流ル、際ニ受クル所ノ損失水頭ニシテ l ナル部分ヲ流ル、際ニ受クル所ノ損失水頭ヲ h' トスレバ

$$h' = f \frac{l}{d} \frac{v^2}{2g}$$

水源ヨリ送水管ノ終端マデノ總損失水頭ヲ h トスレバ

$$h = h' + h'' = f \frac{l}{d} \frac{v^2}{2g} + f \frac{l_1}{3d} \frac{v^2}{2g} = \left(l + \frac{1}{3} l_1 \right) \frac{fv^2}{2gd} \dots (205)$$

又
$$d = \left(l + \frac{l_1}{3} \right) \frac{fv^2}{2gh} \dots (206)$$

然ルニ
$$Q = \frac{\pi d^2}{4} v. \text{ 即チ } v = \frac{4Q}{\pi d^2}$$

v ノ値ヲ (206) 式ニ代入スレバ

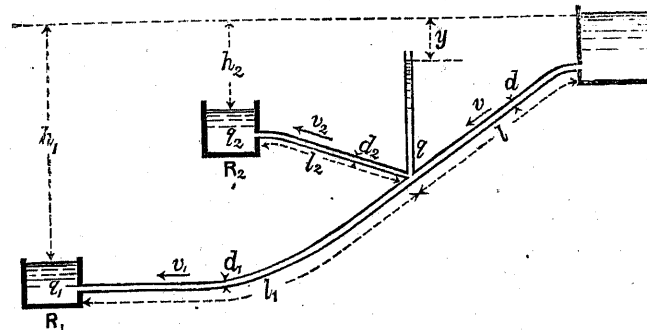
$$d = \left(l + \frac{l_1}{3} \right) \frac{16fQ^2}{2gh \cdot \pi^2 d^4}$$

$$d^5 = \left(l + \frac{l_1}{3} \right) \frac{16fQ^2}{2g\pi^2 h}$$

故ニ
$$d = 0.479 \left(l + \frac{l_1}{3} \right)^{\frac{1}{5}} \left(\frac{fQ^2}{h} \right)^{\frac{1}{5}} \dots (207)$$

154. 分岐セル送水管 (1) 今一ツノ水源ヨリニツノ貯水池 R_1 ト R_2 ニ鐵管ニテ送水スルトキ其鐵管

第 285 圖



ガ途中ニテ分岐スル場合ニ於テ水源ヨリ分岐點マデノ間ニ水流ガ受クル摩擦損失水頭ヲ y トスレバ (189) 式ニヨリ

$$y = f \frac{l}{d} \frac{v^2}{2g}$$

又分岐點ヨリ R_1 マデ流ル、間ニ水流ガ受クル所ノ損失水頭ヲ $h_1 - y$ トスレバ

$$h_1 - y = f_1 \frac{l_1}{d_1} \frac{v_1^2}{2g}$$

同様ニ
$$h_2 - y = f_2 \frac{l_2}{d_2} \frac{v_2^2}{2g}$$

上式ヨリ
$$h_1 = y + f_1 \frac{l_1}{d_1} \frac{v_1^2}{2g} = f \frac{l}{d} \frac{v^2}{2g} + f_1 \frac{l_1}{d_1} \frac{v_1^2}{2g} \dots (208)$$

然ルニ二池ニ流入スル流量 q_1 ト q_2 トノ和ハ水源ヨリ分岐點マデ流出スル流量 Q ト等シカルベシ即チ

$$Q = q_1 + q_2 = \frac{\pi d^2}{4} v$$

之ニ依テ

$$v^2 = \frac{16(q_1 + q_2)^2}{\pi^2 d^4}$$

同様ニ $q_1 = \frac{\pi d_1^2}{4} v_1$ ナルニヨリ $v_1^2 = \frac{16q_1^2}{\pi^2 d_1^4}$

故ニ(208)式中ニ v^2 ト v_1^2 トノ値ヲ代入スレバ

$$h_1 = f \frac{l}{d^5} \frac{16(q_1 + q_2)^2}{\pi^2 d^4} + f_1 \frac{l_1}{d_1^5} \frac{16q_1^2}{\pi^2 d_1^4}$$

$$= \frac{16}{2g\pi^2} \left\{ f \frac{l}{d^5} (q_1 + q_2)^2 + f_1 \frac{l_1}{d_1^5} q_1^2 \right\}$$

$$\text{故ニ} \quad \frac{2g\pi^2}{16} h_1 = f \frac{l}{d^5} (q_1 + q_2)^2 + f_1 \frac{l_1}{d_1^5} q_1^2 \dots \dots \dots (209)$$

R_2 ノ貯水池ニ於テモ同様ニ

$$\frac{2g\pi^2}{16} h_2 = f \frac{l}{d^5} (q_1 + q_2)^2 + f_2 \frac{l_2}{d_2^5} q_2^2 \dots \dots \dots (210)$$

(209)及(210)ノ二式ニ於テ(イ)若シ q_1 ト q_2 ノミカ未知數ニシテ其和 Q ノ値ガ既知ナレバ q_1 ト q_2 ノ値ヲ見出スコトヲ得ベシ。(ロ)若シ d, d_1 及 d_2 ノ三値ガ未知數ナレバ d ヲ假定シテ d_1 ト d_2 ノ値ヲ見出スヲ得ベシ。(ハ)又 y ノ値ヲ假定スレバ $(h_1 - y)$ ト $(h_2 - y)$ トノ値モ定マル故ニ(209)及(210)式ヲ用キズシテ(192a)式ニヨリテ夫々 d, d_1 及 d_2 ノ値ヲ見出スヲ得ベシ。即チ

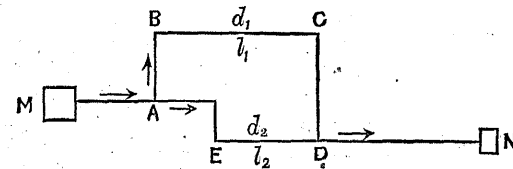
$$d = 0.479 \left(\frac{f l Q^2}{y} \right)^{\frac{1}{5}}$$

$$d_1 = 0.479 \left(\frac{f_1 l_1 q_1^2}{h_1 - y} \right)^{\frac{1}{5}}$$

$$d_2 = 0.479 \left(\frac{f_2 l_2 q_2^2}{h_1 - y} \right)^{\frac{1}{5}}$$

(2) 水源 M ヨリ A マデ一本ノ鐵管ニテ水ヲ引キ之ヨリ分岐シテ ABCD ト AED ノ二管トナリ D ニ於

第 286 圖



テ再ビ相會シテ D ヨリ N マデ一本ノ管ニテ送水スル場合

ニ於テ水ガ M ヨリ N マデ流ル、間ニ受クル摩擦損失水頭ヲ見出サンニ MA ト DN ノ部分ハ一本ノ管ナルヲ以テ損失水頭ハ容易ニ算出シ得ベキモ分岐シタル部分ノ損失水頭ヲ見出スコト困難ナリ。是レ兩管内ノ流量ノ割合ヲ知ルコト困難ナルヲ以テナリ。(191a)式ニヨリ

$$Q^2 = \frac{\pi^2 d^4}{16} \frac{2gh}{f \frac{l}{d}}$$

若シ d ト l トニ變化ナケレバ上式ニ於テ Q ト h トノ外ハ皆常數ナルヲ以テ次ノ如ク記スコトヲ得ベシ。

$$Q^2 = kh \dots\dots\dots (a)$$

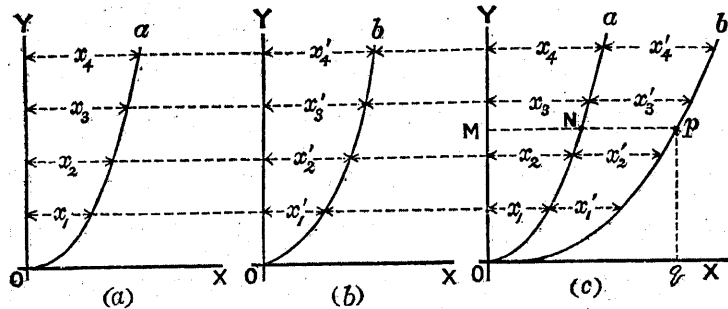
上式ハ拋物線ノ式ニシテ Q ト h トノ關係ヲ表圖ニテ示スコトヲ得ベシ. 故ニ ABCD 間ノ流量ト損失水頭トノ關係ハ

$$Q_1^2 = k_1 h_1 \dots\dots\dots (b)$$

同様ニ AED 中ニ於テハ

$$Q_2^2 = k_2 h_2 \dots\dots\dots (c)$$

第 287 圖



今第 287 圖 OX ノ軸ニ流量ヲ取リ OY ノ軸ニ損失水頭ヲ取レバ (b) 式ノ流量ト損失水頭トノ關係ヲ (a) 圖ノ拋物線 Oa ニテ示シ. (c) 式ノ流量ト損失水頭トノ關係ヲ (b) ノ拋物線 Ob ニテ表ハシ (a) 圖ト (b) 圖トノ拋物線ヲ合成シテ (c) 圖ノ如キ拋物線ヲ作ル. 然ルニ分岐點 A ト會點 D トニ於ケル壓水頭ハ二管ニ共通ナルガ故ニ ABCD ノ損失水頭ト AED 中ノ損失

水頭トハ等シカルベシ即チ h_1 ト h_2 トハ等シカルベシ.

今 (c) 圖ニ於テ OX 線上ニ全流量 Q ヲ取リ Oq ハ或尺度ニテ Q ヲ表ハスモノトス. q ヨリ垂直線 qp ヲ引キ拋物線ト p ニ交ハラシム. p ヨリ OX 線ニ並行ニ pNM ヲ引ケバ MN ハ ABCD 中ノ流量 Q_1 ヲ表ハシ Np ハ AED 中ノ流量 Q_2 ヲ表ハス. 而シテ OM ハ ABCD 中ノ損失水頭ニシテ又同時ニ AED 中ノ損失水頭ナリ.

第十章 水路内ノ水流

155. 水路 水路トハ河川ノ如キ天然水路及運河又ハ用水路ノ如キ人工的水路ヲ意味ス. 此章ニ於テハ總テ開水路内ノ水流ニ就テ論究ス. 乍然暗渠又ハ管内ノ水流タリトモ満水シテ流レザルトキハ又開水路内ノ水流ト同ジク取扱フヲ得ベシ.

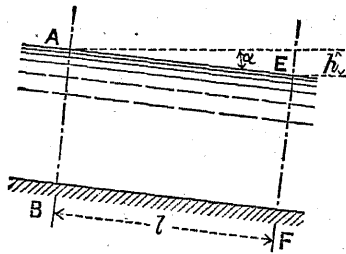
水路内ノ水流ニ就テ論究スルハ人工的水路ト天然水路トニ就テ別々ニ論究スルヲ便トス.

156. 均等断面ノ水路 水ガ水路ヲ流下スルトキ其断面均等ニシテ其水路中任意ノ横断面ヲ通過スル流量ガ一定不變ナルトキハ其流速モ亦均等ナラ

ザルベカラズ.

流速 = 就テ一言スベキコトアリ. 横断面ノ底及兩側ニ於テハ摩擦ノ爲メニ流速減ゼラル、ヲ以テ同一断面ニ於テモ處ニヨリテ流速ニ差異アルヲ免レズ. 故ニ此處ニ流速ト稱スルハ其断面ニ於ケル平均流速ヲ指スモノト知ルベキナリ.

第 288 圖

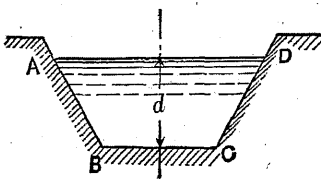


第 288 圖ニ於テ水面 AE ガ水平線トナス角ヲ α トシ、水面上ノ A 點ト E 點トノ落差ヲ h トシ、水面勾配ヲ s ニテ表ハセバ

$$s = \frac{h}{l} = \sin\alpha \dots \dots \dots (211)$$

又第 289 圖ニ示セル如ク ABCD ヲ或一ツノ横断面トスレバ水ニ接觸セル邊 AB+BC+CD ノ總延長ヲ

第 289 圖



稱シテ潤邊 (Wetted Perimeter) ト稱シ、斷面積ヲ潤邊ニテ除シタルモノヲ動水平均深 (Hydraulic Mean Depth) ト謂フ.

A = 横斷面積

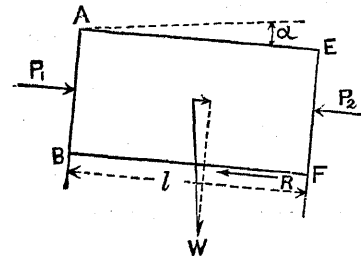
p = 潤邊

r = 動水平均深

然ルトキハ $r = \frac{A}{p}$

今横断面 ABCD, 長サ l ノ水柱ヲ取リテ考フルニ之ニ働ク外力ハ第 290 圖ニ示ス如ク AB 断面ニ働ク水壓 P_1 ト EF 断面ニ働ク水壓 P_2 ト水柱ノ重量 W ト及ビ水路ノ底及ビ兩側ニ於ケル摩擦抵抗 R ニシテ此水柱ガ等速度ヲ以テ流下スル故ニ此等ノ外力ノ水流ノ

第 290 圖



方向ニ於ケル分力ノ代數和ハ零ナラザルベカラズ 即チ

$$P_1 - P_2 + A.l.w.\sin\alpha - R = 0$$

上式ニ於テ P_1 ハ P_2 = 等シキ故ニ

$$R = A.l.w.\sin\alpha.$$

今水路ノ底及兩側ノ單位面積ニ於ケル摩擦抵抗ヲ F ニテ表セハ

$$R = F.p.l.$$

故ニ $F = \frac{R}{p.l} = \frac{A.l.w.\sin\alpha}{p.l} = r.w.s \dots \dots \dots (212)$

實驗ニヨルニ水ト他ノ物體面トノ間ノ摩擦抵抗ハ其水ノ流速ノ自乗ニ正比例ス。即チ次ノ如シ

$$F = cv^2$$

故ニ

$$cv^2 = r.w.s$$

即チ

$$v = \sqrt{\frac{w}{c} r.s}$$

上式ニ於テ $\sqrt{\frac{w}{c}}$ ハ一ノ係數ニシテ水路ノ周邊ヲ成セル物質ト動水平均深等ニ變化ナキ限ハ常數ナリ。之ヲ C トスレバ

$$v = C\sqrt{r.s} \dots\dots\dots(213)$$

上式ニ於ケル C = 就テがんぎれ (Ganguillet) 氏及くって (Kutter) 氏ノ研究シタル結果ニヨレバ

$$C = \frac{41.65 + \frac{0.00281}{s} + \frac{1.811}{n}}{1 + \left(41.65 + \frac{0.00281}{s}\right) \frac{n}{\sqrt{r}}} \dots\dots\dots(214)$$

即チ C ハ水面勾配 s, 動水平均深 r, 及 n ニヨリテ變化スルモノナリ。n ハ水路ノ内面ノ粗度ニヨリテ其値ヲ變スル係數即チ粗度係數 (Coefficient of Roughness) ナリ。

がんぎれ及くって氏ハ實驗ノ結果 n ノ値ヲ次ノ表ノ如クニ定メタリ。

第五表

水路	n
鈔ニテ削リタル板ニテ作ラレタル水路	0.009
膠灰ヲ塗リタル面ヲ有スル水路	0.010
膠灰 1, 砂 3 ノ割合ノ膠泥ヲ塗リタル面ヲ有スル水路	0.011
鈔ニテ削ラレザル粗板ニテ作ラレタル水路	0.012
切石工又ハ煉瓦工ニテ成レル水路	0.013
梓ニ張リタル粗布ニテ成レル水路	0.015
粗石工ニテ成レル水路	0.017
固マリタル砂利地ニ於ケル水路	0.020
石及雜草ヲ有セサル良好ナル状態ノ水路	0.025
多少ノ石雜草ヲ有セル半良好状態ノ水路	0.030
多クノ石及雜草ヲ有スル不良状態ノ水路	0.035

又ばざん (Bazin) 氏ハ實驗ニヨリテ (213) 式中ノ C ノ値ヲ次ノ如ク定メタリ

$$C = \frac{87}{0.552 + \frac{m}{\sqrt{r}}} \dots\dots\dots(215)$$

上式ニ於テ r ハ動水平均深ヲ表ハシ。m ハ水路ノ内面ヲ成セル物體ノ粗度ニヨリテ其値ヲ變スベキ粗度係數ヲ示ス。

(215) 式ハ (214) 式ヨリモ簡單ニシテ其結果ハ大差ナキ故ニ此式ヲ用ラルモノ多シ。ばざん氏ハ實驗ノ結果 m ノ値ヲ次表ノ如ク定メタリ。

第六表

水路	m
膠灰ヲ塗リタル平滑ナル面及鉋ニテ削タル板ヨリ成レル水路	0.06
鉋ニテ削ラレサル粗板, 良好ナル煉瓦工又ハ混凝土工ヨリ成レル水路	0.16
切石工又ハ粗ナル煉瓦工ヨリ成レル水路	0.46
良好ナル状態ノ土ニ於ケル水路	0.85
尋常ノ状態ノ土ニ於ケル水路	1.30
石, 雜草, 其他碎屑多キ不良ナル水路	1.75

極メテ概算ヲナス場合ニ於テハ(213)式ニ於ケルCノ値ヲ第七表ニヨリ見出セハ簡單ニ計算スルヲ得.

第七表

水路ノ内面	C
平滑ナル膠灰又ハ板	125 乃至 150
粗板, 混凝土又ハ煉瓦工	100 乃至 130
粗石工又ハ固メラレタル砂利地	70 乃至 90
良好ノ状態ニアル土	50 乃至 75
不良状態ニアル土	20 乃至 50

157. 水路ノ最有効ナル断面 水路ヲ新設スルニ當リテハ最モ有効ニシテ經濟的ナル断面ヲ撰ハサルベカラズ.

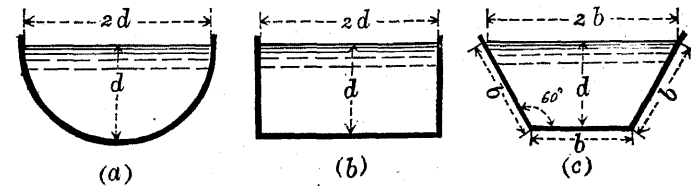
$$v = c\sqrt{r.s} = c\sqrt{s} \frac{A^{\frac{1}{2}}}{p^{\frac{1}{2}}}$$

$$Q = A.v = c\sqrt{s} \frac{A^{\frac{3}{2}}}{p^{\frac{1}{2}}}$$

上式ニヨリテ見ルニ(イ)勾配sカ與ヘラレタル場合ニ一定ノ断面積Aカ最モ大ナル流量Qヲ生ズルニハ潤邊pヲ最小ナラシムルヲ要ス。(ロ)一定ノ勾配ノ下ニ一定ノ流量ヲ得ントスル場合ニハ潤邊pヲ最小ナラシムレバ断面積Aヲ最小ナラシムルヲ得ベク。(ハ)一定ノ面積ノ断面ニヨリテ一定ノ流量ヲ流ス場合ニ於テ潤邊ヲ最小ニスレバ勾配ヲ最モ緩ナルモノトナスヲ得ベシ.

要スルニ一般ニ有効ナル經濟的断面ヲ得ル爲メニハ潤邊ヲ最小ナラシムルヲ要ス.

第291圖



然ルニ同面積ヲ有スル平面形中ニテ周邊ノ長サ最小ナルハ圓ナレバ第291(a)圖ノ如キ半圓形ガ潤邊ノ最小ナルモノタルコト明カナリ.次ニ同面積ヲ

有スル矩形中ニテハ正方形ガ周邊最小ナルモノナレバ此種ノ形ニ於テハ第 291 (b) 圖ノ如キ半正方形ガ潤邊最小ナリ。又同面積ノ梯形中ニテハ第 291 (c) 圖ノ如キ半正六角形ガ潤邊最小ナリトス。以上三ツノ場合ニ於テ孰レモ $r = \frac{d}{2}$ ナリトス。

半圓形ノ水路ハ木又ハ鐵筋混凝土ニテ作レル筧等ニハ用フルコトアルモ地中ニ掘鑿セル水路ニハ施工面倒ナル故ニ多ク用キラレズ。半正方形ハ木又ハ鐵筋混凝土ノ筧又ハ岩石中ニ掘鑿セル水路ニ多ク用キラル、半正六角形ハ地中ニ掘鑿セラレタル水路ノ形トシテハ適當ナルモノナレドモ水路ノ兩側ノ法ハ之ヲ地質ニヨリテ定メザルベカラズ。故ニ半正六角形トナス能ハザルコト多シ。此場合ニ於テ最有効斷面ヲ定ムルニハ次ノ如クスベシ。

水路ノ側面ノ法ヲ 1:n トシ與ヘラレタル斷面積ヲ A トシ底幅ヲ x、水深ヲ y トスレバ此 x ト y トヲ如何ナル割合ニスレバ可ナルカラ見出サン。(第 292 圖)

$$r = \frac{A}{x + 2y\sqrt{1+n^2}} \dots\dots\dots (a)$$

$$A = xy + ny^2$$

故ニ $x = \frac{A - ny^2}{y} \dots\dots\dots (216)$

此 x ノ値ヲ (a) 式ニ代入スレバ

$$r = \frac{A \cdot y}{A + y^2(2\sqrt{1+n^2}-n)} \dots\dots\dots (b)$$

然ルニ $r = \frac{A}{p}$ ニシテ A ハ常數ナレバ p ヲ最小ナラシムルニハ r ヲ最大ナラムシルヲ要ス。

(b) 式中ニテ分母ノ活弧中ノ項ハ常數ナルヲ以テ之ヲ C ニテ表ハシ y = 就テ微分シテ之ヲ 0 ト置ケバ

$$\frac{dr}{dy} = \frac{A(A + Cy^2) - A \cdot y \cdot 2Cy}{A^2 + 2A \cdot Cy^2 + C^2y^4} = 0$$

故ニ $A(A + Cy^2) - 2A \cdot C \cdot y^2 = 0$

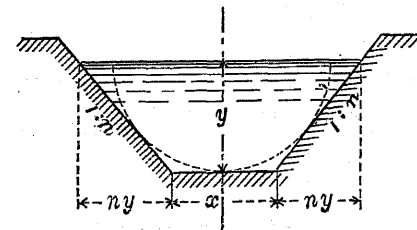
故ニ $A = (2\sqrt{1+n^2}-n)y^2$

即チ $y = \sqrt{\frac{A}{2\sqrt{1+n^2}-n}} \dots\dots\dots (217)$

(b) 式ニ A ノ値 $(2\sqrt{1+n^2}-n)y^2$ ヲ代入スレバ

$$r = \frac{y}{2}$$

第 292 圖



即チ此場合ニ於テモ動水平均深ハ水深ノ半分ナリトス。第 292 圖ノ如ク水面ノ中央ニ圓心ヲ有スル半圓ガ各邊ニ

正切セルトキ此條件ガ滿サル、コト明カナリ。

例題 水路側面ノ勾配一割五分ニシテ斷面積 100 平方呎ナル

トキハ底幅ト水深トヲ幾何ニスベキカ。

$$(217) \text{式} = \text{ヨリ} \quad y = \sqrt{\frac{100}{2\sqrt{1+1.5^2}-1.5}} = 6.9 \text{ 呎}$$

次 = (216) 式中 = y ノ値ヲ代入スレハ

$$x = \frac{100 - 1.5 \times 6.9^2}{6.9} = 4.14 \text{ 呎}$$

故 = 水深 6.9 呎、底幅 4.14 呎ナルモノガ最有効ナル断面ニシテ流量最大ナリトス。

水面勾配ヲ急ニシテ流速ヲ大ナラシムレバ如何程ニモ断面積ヲ小サクスルコトヲ得ベキモ水路内ノ流速ニハ水路ノ種類ニヨリテ自カラ制限アリ。上水工事ノ導水渠ノ如キハ流速カ 5 呎毎秒以上ナレバ渠底ニ摩滅ヲ起スベク。又 1 乃至 2 呎毎秒以下ナレバ土中掘鑿ノマヽニテ装工ヲ施サズトモ渠底ノ侵蝕サルヽコトナシ。然シナガラ流速緩ナルトキハ苔藻ノ繁茂ヲ免レサル故ニ流速ハ 2 呎毎秒以上トスベシ。流速 2 呎毎秒以上トナレバ渠内ニ装工ヲ要ス

水路ノ装工ガ煉瓦工又ハ石工ナルトキハ 4 乃至 5 呎毎秒、若シ混凝土工ナレバ 3 呎毎秒ヲ以テ適當ノ流速トス。

又灌溉用水路ニ於テハ途中沈澱ヲ起サズ且ツ苔藻ノ繁茂ヲ防クベキ程度ノ流速ヲ與フルヲ可トス。故ニ 2 乃至 3 呎毎秒ヲ適度トス。但シ岩中ニ掘鑿

セル水路又ハ堅固ナル装工ヲ施シタル水路内ノ流速ハ 7 呎毎秒トスルコトアリ。

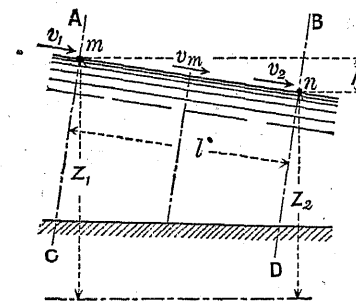
158. 不等断面ノ水路 水ガ不等断面ヲ有スル水路ヲ流下スルトキハ各断面ニ於テ其流速ハ變ズルモノナリ。然レドモ水流ガ定流ナルトキハ各断面ニ於ケル流量ハ一定不變ナリ。即チ

$$Q = a_1 v_1 = a_2 v_2 = a_3 v_3 \dots \dots \dots$$

而シテ不等流速ヲ起ス場合ニアリ。(1) 水ガ流下スルニ從テ流速ガ次第ニ増加スル場合。(2) 水ガ流下スルニ從テ流速ガ次第ニ減少スル場合是ナリ。

第一ノ場合、水位ノ差著シキニ水面アリ之ヲ短キ水路ニテ連結スレバ此水路内ノ水流ハ流レ下ルニ從テ益々其流速ヲ増加シ同時ニ断面積ハ次第ニ減少スベキナリ。

第 293 圖



第 293 圖ハ此種ノ水路ノ一部分ヲ示セルモノニシテ AC 断面中ノ m 點ノ流速ヲ v_1 トシ、BD 断面中ノ n 點ノ流速ヲ v_2 トシ、此二點間ノ落差ヲ h トス。

今 m, n ノ二點ニベるぬいり氏ノ定理ヲ適用ス

レバ

$$\frac{v_1^2}{2g} + \frac{p_a}{w} + Z_1 = \frac{v_2^2}{2g} + \frac{p_a}{w} + Z_2 + \text{損失水頭}$$

圖ニヨリテ $Z_1 - Z_2 = h$ ナル故ニ上式ヲ變ズレバ次ノ如シ

$$\text{損失水頭} = h + \frac{v_1^2}{2g} - \frac{v_2^2}{2g} \dots\dots\dots(218)$$

(213)式ニヨリテ $s = \frac{v^2}{C^2 r}$

圖ニヨリテ $s = \frac{h}{l}$

故ニ $h = \frac{l \cdot v^2}{C^2 r} \dots\dots\dots(219)$

(219)式中ノ h ハ定流ガ均等流速 v ヲ以テ均等断面ノ水路ヲ流下スルニ起ル所ノ損失水頭ナリ然ルニ此場合ニ於テハ各断面ニ於テ v モ r モ共ニ變スル故ニ h ハ直ニ此水路内ノ損失水頭ヲ表ハスモノニアラズ。今中央ノ断面ニ於ケル流速ヲ v_m トシ其動水平均深ヲ r_m トシ假ニ流速 v_m ノ水ガ此断面ヲ以テ均等断面トセシ水路ヲ流下スル際起ル所ノ損失水頭ヲ h' トスレバ

$$h' = \frac{l v_m^2}{C^2 r_m}$$

今此 h' ヲ此不等断面ノ水路ヲ流下スル場合ノ損

失水頭ト見做セバ(218)式ニヨリテ

$$\frac{v_1^2}{2g} + h = \frac{v_2^2}{2g} + \frac{l v_m^2}{C^2 r_m} \dots\dots\dots(220)$$

今 AC ノ断面積ヲ A_1 トシ. BD ノ断面積ヲ A_2 トシ. 其中間ノ平均断面積ヲ A_m トスレバ

$$A_m v_m = A_1 v_1$$

$$v_m = \frac{A_1 v_1}{A_m}$$

然ルニ

$$A_1 = \frac{v_2}{v_1} A_2$$

故ニ $v_m = \frac{\frac{v_2}{v_1} A_2 v_1}{\frac{A_1 + A_2}{2}} = \frac{2 \frac{v_2}{v_1} A_2 v_1}{v_1 A_2 + A_2} = \frac{2 v_1 v_2}{v_2 + v_1}$

若シ AC 断面ノ潤邊ヲ p_1 , BD 断面ノ潤邊ヲ p_2 トシ. 此中間ニアル平均断面ノ潤邊ヲ p_m トスレバ

$$p_m = \frac{p_1 + p_2}{2}$$

此平均断面 A_m ノ動水平均深ヲ r_m トスレバ

$$r_m = \frac{A_m}{p_m} = \frac{A_1 + A_2}{p_1 + p_2}$$

又 $A_1 v_1 = A_2 v_2 = Q$ ナルガ故ニ

$$v_1 = \frac{Q}{A_1}, \quad v_2 = \frac{Q}{A_2}$$

v_1, v_2, r_m 及 v_m ノ値ヲ夫々(220)式中ニ代入スレバ

$$\left(\frac{Q}{A_1}\right)^2 + h = \left(\frac{Q}{A_2}\right)^2 + \frac{l\left(\frac{2v_1v_2}{v_1+v_2}\right)^2}{C^2 \frac{A_1+A_2}{p_1+p_2}}$$

$$2gh = \left(\frac{Q}{A_2}\right)^2 - \left(\frac{Q}{A_1}\right)^2 + \frac{(p_1+p_2)v_1^2v_2^2 \cdot 8gl}{(A_1+A_2)(v_1^2+2v_1v_2+v_2^2)C^2}$$

$$= \left(\frac{Q}{A_2}\right)^2 - \left(\frac{Q}{A_1}\right)^2 + \frac{8gl(p_1+p_2)\left(\frac{Q}{A_1}\right)^2\left(\frac{Q}{A_2}\right)^2}{C^2(A_1+A_2)\left(\frac{Q}{A_1^2} + 2\frac{Q^2}{A_1A_2} + \frac{Q^2}{A_2^2}\right)}$$

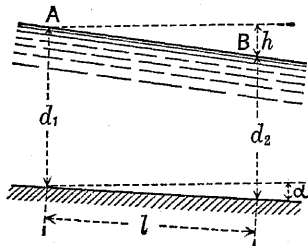
故 =

$$Q = \frac{\sqrt{2gh}}{\sqrt{\left(\frac{1}{A_2}\right)^2 - \left(\frac{1}{A_1}\right)^2 + \frac{8gl}{C^2} \left(\frac{p_1+p_2}{(A_1A_2)^2 \left(\frac{1}{A_1} + \frac{1}{A_2}\right)^2 (A_1+A_2)}\right)}}$$

.....(221)

此式 = ヨリテ流量ヲ計算スルコトヲ得.

第 294 圖



第 294 圖 = 於ケル如ク A
ノ断面 = 於ケル深ヲ d_1 , B
ノ断面 = 於ケル深ヲ d_2 ト
シテ此二断面ノ水面ノ落
差ヲ h トシ水底ノ傾斜角
ヲ α = テ示セバ

$$h = d_1 + l \sin \alpha - d_2$$

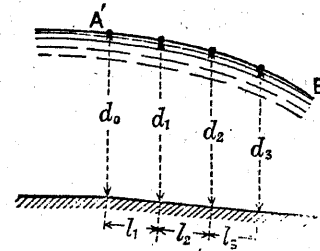
h ノ値ヲ (221) 式 = 代入スレバ

$$Q = \frac{\sqrt{2g(d_1 + l \sin \alpha - d_2)}}{\sqrt{\left(\frac{1}{A_2}\right)^2 - \left(\frac{1}{A_1}\right)^2 + \frac{8gl}{C^2} \left(\frac{p_1+p_2}{(A_1A_2)^2 \left(\frac{1}{A_1} + \frac{1}{A_2}\right)^2 (A_1+A_2)}\right)}}$$

即チ $l = \frac{(d_1 - d_2) - \left\{ \frac{1}{A_2^2} - \frac{1}{A_1^2} \right\} \frac{Q^2}{2g}}{\left(\frac{p_1+p_2}{(A_1A_2)^2 \left(\frac{1}{A_1} + \frac{1}{A_2}\right)^2 (A_1+A_2)} \right) \frac{4Q^2}{C^2} - \sin \alpha} \dots (222)$

若シ此場合 = 於テ水路ノ幅、水底ノ勾配及流量ガ
與ヘラル、トキハ (222) 式 = ヨリテ水面ノ形ヲ知ル

第 295 圖

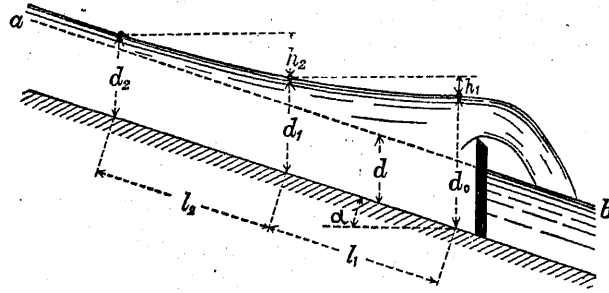


コトヲ得即チ二ノ水面ノ
水位ハ既知ナレバ高水位
ノ水深モ從テ既知ニシテ
之ヲ d_0 トシ之ニ接近セル
下流ノ水深ヲ d_1 ト假定シ
 $(d_0 - d_1)$ = 相當スル l_1 ヲ算

出シ次 = $(d_1 - d_2)(d_2 - d_3)$ 等 = 對シテ夫々相當スル l_2 ,
 l_3 等ヲ算出シ得ベシ而シテ $(d_0 - d_1)(d_1 - d_2)$ 等ノ値ヲ小
ニスル程 l_1, l_2 等ノ値ヲ小ニスルヲ得ベシ此ノ如ク
シテ第 295 圖 = 示ス如ク水面曲線 A'B' ヲ畫クコト
ヲ得ベシ.

第二ノ場合. 茲 = 或水路アリテ之ヲ堰ニテ締切
ルトキハ水ハ此堰ノ爲メニ停滯シ遂ニ堰ヲ越ヘテ

第 296 圖



落下スベシ此場合ニ於テ水路ノ斷面積ハ下流ニ至ルニ從ヒテ増加シ同時ニ流速ハ次第ニ減少スベシ。

第 296 圖ニ於テ堰ニ接近シタル所ノ水深ヲ d_0 トシ此ヨリ l_1 ノ上流ニ於ケル水深ヲ d_1 トシ此ヨリ更ニ l_2 丈上流ノ水深ヲ d_2 トシ l_1 ノ距離ノ間ノ水面落差ヲ h_1 トシ又 l_2 ノ間ノ落差ヲ h_2 トスレバ

$$h_1 = d_1 + l_1 \sin \alpha - d_0 = -(d_0 - d_1) + l_1 \sin \alpha$$

$$h_2 = d_2 + l_2 \sin \alpha - d_1 = -(d_1 - d_2) + l_2 \sin \alpha$$

(221) 式ニヨリ

$$Q = \frac{\sqrt{2g(-d_0 + d_1 + l_1 \sin \alpha)}}{\sqrt{\left(\frac{1}{A_1}\right)^2 - \left(\frac{1}{A_0}\right)^2 + \frac{8gl_1}{C_2} \left[\frac{p_0 + p_1}{(A_0 A_1)^2 \left(\frac{1}{A_0} + \frac{1}{A_1}\right)^2 (A_0 + A_1)} \right]}}$$

$$\text{即チ } l_1 = \frac{(d_0 - d_1) - \left(\frac{1}{A_1^2} - \frac{1}{A_0^2}\right) \frac{Q^2}{2g}}{\sin \alpha - \left[\frac{p_0 + p_1}{(A_0 A_1)^2 \left(\frac{1}{A_0} + \frac{1}{A_1}\right)^2 (A_0 + A_1)} \right] \frac{4Q^2}{C^2}} \dots (223)$$

又同様ニ

$$l_2 = \frac{(d_1 - d_2) - \left(\frac{1}{A_2^2} - \frac{1}{A_1^2}\right) \frac{Q^2}{2g}}{\sin \alpha - \left[\frac{p_1 + p_2}{(A_1 A_2)^2 \left(\frac{1}{A_1} + \frac{1}{A_2}\right)^2 (A_1 + A_2)} \right] \frac{4Q^2}{C^2}} \dots (224)$$

(223) 式及 (224) 式ニ於テ $(d_0 - d_1)$ 及 $(d_1 - d_2)$ ノ極メテ小サク刻ミテ l_1, l_2, l_3 等ヲ算出シテ水面ノ形狀ヲ知ルヲ得ベシ此ノ如クシテ得タル水面ノ形ハ一種ノ曲線ニシテ之ヲ堰水曲線 (Backwater Curve) ト云フ $(d_0 - d_1), (d_1 - d_2)$ 等ノ値ヲ小ニスル程 l_1, l_2 等モ小トナル故ニ滑カナル曲線ヲ畫クコトヲ得ベシ。

159. 天然水路内ノ流量 河川ノ如キ天然水路ノ流量ヲ測定スルニハ其流量少ナキ場合ハ堰ヲ以テ其流ヲ締切リ其堰ノ一部ニ缺口ヲ作り第 139 節ヨリらんしす氏ノ公式ヲ適用シテ其流量ヲ測定シ得ベシ大河ノ場合ニハ其流量大ニシテ之ヲ締切ルコト能ハザル故ニ次ノ方法ヲ用フベシ。

第 297 圖



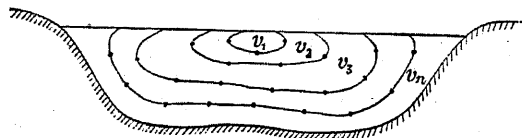
先ヅ河川ノ水路ガ直線ニシテ其斷面形ノ規則正シキ部分ヲ撰ミ其部分ノ横斷面ヲ取り第 297 圖ノ如ク

此横断面ヲ多數ノ小断面ニ分テ各小断面ノ面積ヲ
 圖上ニテ測リ之ヲ $a_1, a_2, a_3, \dots, a_n$ トシ各断面ノ平
 均流速ヲ浮子又ハ流速計ニテ測リ之ヲ v_1, v_2, \dots, v_n
 トスレバ全流量ハ次ノ如シ

$$Q = a_1v_1 + a_2v_2 + a_3v_3 + \dots + a_nv_n \dots \dots \dots (225)$$

又河川ノ横断面ヲ取リテ其面上ニアル數多ノ點
 ニ於ケル流速ヲ流速計ニテ測リ然ル後其流速ノ等

第 298 圖



シキ點ヲ連結シテ多クノ等速線ヲ作り(第298圖)此
 等ノ等速線間ニ圍マレタル面積ヲ各 $a_1, a_2, a_3, \dots, a_n$
 トシ其流速ヲ夫々 $v_1, v_2, v_3, \dots, v_n$ トスレバ其断面ニ
 於ケル全流量ハ次ノ如シ

$$Q = a_1v_1 + a_2v_2 + a_3v_3 + \dots + a_nv_n \dots \dots \dots (225_a)$$

又大河ニ於ケル洪水ノ場合ノ如ク其断面ニ於ケ
 ル各點ノ流速ヲ測定スルコト能ハザル場合ニ於テ
 ハ第146節(213)式ヲ適用シテ其流量ヲ測定スルコ
 トヲ得ベシ此ノ如キ場合ノ流量ノ算出法ハ唯概算
 ニ止マルモノト知ルベシ。

第十一章 射水及流水ノ作用

160. 射水ノ反力 射水ガ孔口ヨリ迸出スル際極
 短時間 Δt ノ間ニ質量 ΔM ノ水ガ其速度ヲ 0 カラ v
 マデ變化シタリトスレバ其際ノ加速度 α ハ

$$\alpha = \frac{v-0}{\Delta t}$$

此加速度ヲ起スカハ

$$P = \Delta M \cdot \alpha = \Delta M \frac{v}{\Delta t} \dots \dots \dots (a)$$

今 W ヲ一秒時間ニ孔口ヨリ流出スル水ノ重量ト
 スレバ

$$\frac{W}{g} \Delta t = \Delta M$$

$$(a) \text{式ヨリ} \quad P = \frac{W}{g} \Delta t \frac{v}{\Delta t} = \frac{W}{g} v \dots \dots \dots (226)$$

面積 a ヲ有スル孔口ヨリ迸出スル水ノ速度ヲ v ト
 スレバ

$$W = w \cdot a \cdot v$$

$$\text{故ニ} \quad P = \frac{w \cdot a \cdot v^2}{g} = 2w \cdot a \frac{v^2}{2g} = 2w \cdot a \cdot h \dots \dots \dots (227)$$

即チ孔口ノ射水ニ v ナル速度ヲ與フベキ力ハ其
 孔口ニ於ケル水ノ静水壓 $w \cdot a \cdot h$ ノ二倍ニ等シ併ナ

ガラ是レ理論的ノモノニシテ實際ハ標準孔口ニ於テハ縮流係數ハ 0.62 ニシテ流速係數ハ 0.98 ナリ依テ

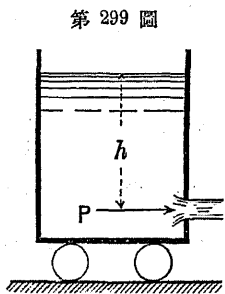
縮流斷面 $a' = 0.62a$

實際流速 $v' = 0.98\sqrt{2gh}$

即チ $\frac{v'^2}{2g} = (0.98)^2 h$

(227) 式ヨリ $P = 2 \times w \times 0.62a \times (0.98)^2 h = 1.19awh \dots (228)$

孔口ノ射水ノ實際ノ働ハ其孔口ニ於ケル水ノ靜水壓ヨリ大ナルコト壹割九分ナリ。



第 299 圖

第 299 圖ノ如ク底ニ車輪ヲ附シタル容器ノ側壁ニ穿テル斷面積 a ナル孔口アリテ水ハ此孔口ヨリ迸出スルトスレバ其孔口ヨリ水ヲ迸出スル爲メニ働ク壓力 P ハ

$P = 2awh$

此反力ニヨリテ容器ハ水ガ迸出スル方向ト反對ノ方向ニ動クベシ。

又 (226) 式ハ動量ノ變化ヲ考ヘテ導キ出スコトヲ得。即チ孔口ヨリ毎秒 W ノ水ガ迸出シ其孔口ヲ離ル、トキハ水ノ流速ハ 0 ヨリ v マデ變化シタル故

ニ其動量ノ變化ハ $\frac{W}{g}(v-0)$ ニシテ之ニヨリテ其水ニ働ケル力ヲ表ハスヲ得ベシ故ニ

$P = \frac{W}{g}(v-0) = \frac{W}{g}v$

上式ハ (226) 式ニ同ジキヲ知ルベシ

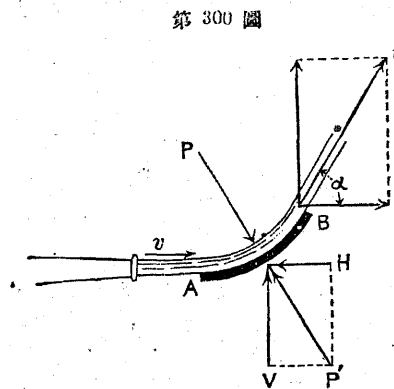
161. 固定シタル面上ニ於ケル射水ノ作用 射水ノ動勢ヲ K トスレバ

$K = \frac{1}{2} \frac{W}{g} v^2 \dots (229)$

W = 毎秒迸出スル射水ノ重量

v = 射水ノ速度

射水ハ此ノ如キ動勢ヲ有スルニヨリ固定シタル面上ニ射水ガ衝突スレバ茲ニ或作用ヲ起スベシ



第 300 圖

第 300 圖ノ如ク速度 v ヲ以テ迸出スル射水ガ固定セル曲面 AB = 當リテ其方向ヲ α 角ダケ轉換シタリトス。然ルニ曲面ハ極メテ平滑ニシテ少シモ摩擦ナキモノト

假定スレバ射水ガ此曲面ヲ離ル、際ニ尙流速 v ヲ

保ツベシ。今此面上ニ働ク射水ノカヲ P トスレバ P ハ射水ガ水嘴ヲ離ル、トキノ方向ト曲面ヲ離ル、トキノ方向トガ爲セル角ノ平分線ニ沿ヒテ働クベシ。而シテ此曲面ニハ P ト反對ノ方向ニ反力 P' ガ生ズベシ。即チ

$$P = P'$$

水嘴ヨリ毎秒重量 W ノ水ガ迸出スルトスレバ此射水ノ水平方向ニ於ケル動量ノ變化ハ $\frac{W}{g}(v - v \cos \alpha)$ ニシテ此變化ヲ起セル原因ハ反力 P' ノ水平分力 H ナリ故ニ

$$H = \frac{W}{g} v (1 - \cos \alpha) \dots \dots \dots (230)$$

又鉛直ニ於ケル動量ノ變化ハ 0 ヨリ $\frac{W}{g} v \sin \alpha$ まで増加シ之ガ原因トナルモノハ反力 P' ノ鉛直分力ニシテ

$$V = \frac{W}{g} v \sin \alpha \dots \dots \dots (231)$$

依テ
$$P = P' = \sqrt{V^2 + H^2} = \frac{W}{g} v \sqrt{2(1 - \cos \alpha)} \dots \dots \dots (232)$$

(1) 若シ射水ガ平面板ニ垂直ニ衝突スルトキ此平面板ニ當ルカヲ P ニテ表ハセバ此平面板ノ反力 P' ハ射水ニ逆ツテ働キ速度 v ヲ以テ迸出セル射水ヲ止メテ水平ノ方向ニハ全ク其速度ヲ失ハシメタル

ニヨリ其動量ノ變化ハ $M(v - 0)$ ニシテ此變化ヲ起セル

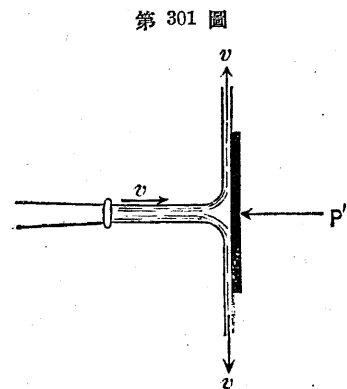
ルハ反力 P' ノ働ナリ。

故ニ

$$P = P' = Mv = \frac{W}{g} v \dots \dots \dots (233)$$

或ハ (230) 式ヨリ

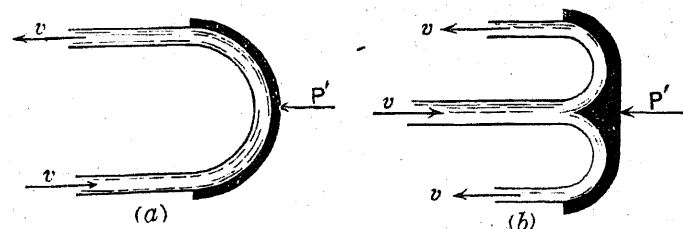
$$P' = H = \frac{W}{g} v (1 - \cos 90^\circ) = \frac{W}{g} v$$



第 301 圖

(2) 若シ射水ガ曲面板ニヨリテ射水ノ方向ト正反對ニ反射セラル、場合ヲ考フレバ

第 302 圖



前ノ場合ノ如ク先ヅ動量ノ變化ニヨリテ考フレバ

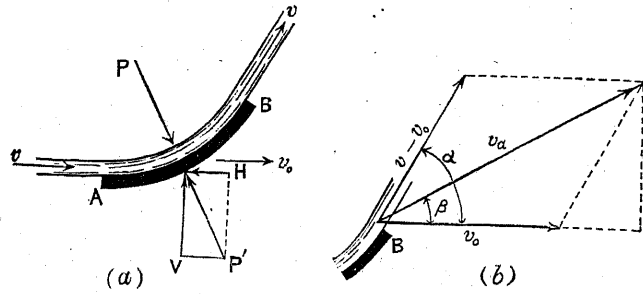
$$P = P' = Mv - M(-v) = 2 \frac{W}{g} v \dots \dots \dots (234)$$

或ハ (230) 式ヨリ

$$P' = H = \frac{W}{g} v (1 - \cos 180^\circ) = \frac{W}{g} v (1 + 1) = 2 \frac{W}{g} v$$

(3)若シ射水カ動ケル曲面板上ニ働ケバ射水ハ此

第 303 圖



曲面板ニ如何ナル力ヲ加フルカヲ考ヘン。

速度 v_0 ヲ以テ働ケル曲面板ニ射水カ速度 v ヲ以テ衝突スルトキ此曲面上ニ於ケル射水ノ作用ヲ見出サンニ $v > v_0$ ナラザルベカラズ依テ射水ト曲面板トノ比速度ハ $(v - v_0)$ ナリ。故ニ此射水ノ作用ハ固定シタル曲面板ニ $(v - v_0)$ ナル速度ヲ有スル射水ノ作用ト等シキモノト見做スヲ得ベシ。從テ單位時間ニ曲面板ニ當ル水ノ重量ハ (2) ノ場合ノ重量 W ヨリ小ナラザルベカラズ之ヲ W' トスレバ $W' = (v - v_0) a \cdot w$ ナリ。又射水ガ B ニ於ケル切線ノ方向ニ曲面板ヨリ離レントスル速度ハ $(v - v_0)$ ナリ。而シテ曲面板ハ速度 v_0 ヲ以テ動キ射水モ亦之ニ連レテ射水ノ原ノ方向ニ v_0 ノ速度ヲ有スル故ニ此射水ノ眞ノ速度ハ

$(v - v_0)$ ト v_0 トノ合成速度 v_a ニシテ射水ノ原ノ方向ト β 角ヲナセリ。依テ射水ノ方向ニ於ケル射水ノ速度ノ變化ハ v ヨリ $v_a \cos \beta$ ニシテ其動量ノ變化ハ $M'(v - v_a \cos \beta)$ ナリ而シテ此動量ノ變化ヲ起セルカハ反力 P' ノ水平分力 H ナリ即チ

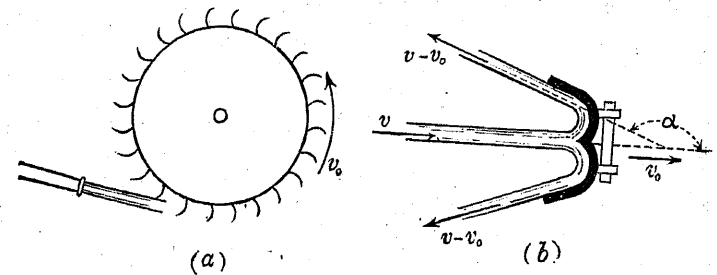
$$\begin{aligned}
 H &= M'(v - v_a \cos \beta) \\
 &= M' \{ v - [v_0 + (v - v_0) \cos \alpha] \} \\
 &= \frac{W'}{g} (v - v_0) (1 - \cos \alpha) \dots \dots \dots (235)
 \end{aligned}$$

又反力 P' ノ鉛直分力ヲ V トスレバ

$$\begin{aligned}
 V &= M' \{ (v - v_0) \sin \alpha - 0 \} \\
 &= \frac{W'}{g} (v - v_0) \sin \alpha \dots \dots \dots (236)
 \end{aligned}$$

162. 水車ニ於ケル射水ノ作用 べるとん水車ニ於テハ射水カ車翼ニ當リテ之ニ動勢ヲ傳フ若シ只一個ノ車翼ニ就テ考フレバ車翼ハ一時ニ射水ヲ受

第 304 圖



クルコト能ハザルモ車翼ハ前後相接近シテ配列セラル、故ニ射水ハ常ニ何レカノ車翼ニ當ルヲ以テ(235)式ニヨリテ考ヘラル、力ニ對スル射水ノ動勢ハ全部水車ニ傳ハルベシ。第304(b)圖ハ水車ノ車翼ヲ表ハスモノニシテ α 角ガ 180° ノトキハ車翼ニ加ハル射水ノ力ガ最大ナルハ(234)式ニヨリテ明カナリ。然レドモ α 角ガ 180° ナラバ反射シタル水ハ其後ニ續ケル車翼ニ衝突シテ水車ノ働カヲ減ズルヲ以テ α 角ハ反射水ガ後續ノ車翼ニ觸レザル程度ニ於テ可成大ニスベシ然ルトキハ車翼ニ働ク射水ノ力ハ(235)式ニヨリ

$$H = \frac{W'}{g}(v - v_0)(1 - \cos\alpha)$$

今射水ガ車翼ノ上ニ一秒時間ニ爲セル働ヲ K トスレバ

$$K = H v_0 = \frac{W'}{g}(v - v_0)(1 - \cos\alpha)v_0 \dots \dots \dots (237)$$

上式ニヨリ射水ガ車翼上ニ爲スベキ働ハ車翼ノ速度如何ニヨリテ定マルモノナリ然ラバ v_0 ガ幾何ナルトキニ射水ガ爲スベキ働ガ最大ナルカラ見出スニハ之ヲ微分シテ其微分係數ヲ0ト置ケバ

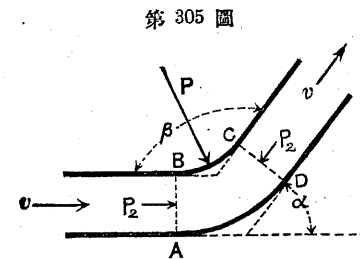
$$\frac{dK}{dv_0} = \frac{W'}{g}(1 - \cos\alpha)(v - 2v_0) = 0$$

即チ $v_0 = \frac{1}{2}v$

車翼ノ速度ガ射水ノ速度ノ二分ノ一ナルトキニ射水ノ爲セル働ハ最大ナリ即チ

$$K_{max} = \frac{W'v^2}{4g}(1 - \cos\alpha) \dots \dots \dots (238)$$

163. 曲管内ノ流水ノ動水壓 第305圖ノ如クABCDナル曲管アリ。此管内ヲ水ガ流速 v ヲ以テ流レ



其管内ノ水壓度ヲ p トシ、管ノ斷面積ヲ A トスレバ此曲管内ノ水ハ $P_2 = Ap$ ナル靜水壓ヲAB及CDノ斷面ニ受ケ此二壓力ノ合力ニヨリ曲

管ハ動カサレントスル傾向アリ。之ニ加フルニ動水壓 P ガ β 角ノ平分線ニ沿ヒテ働キ先ノ靜水壓ト相合シテ益々曲管部ヲ動カサントスル傾向アリ。故ニ實地工事ノ場合此曲管部ニハ此等ノ力ニ抵抗スベキ相當ノ設備ヲナスコト必要ナリ。

此動水壓 P ハ(232)式ニヨリテ直ニ見出スヲ得ベシ即チ

$$P = \frac{W}{g}v\sqrt{2(1 - \cos\alpha)}$$

例題 送水管ノ中途ニ曲管アリ其偏倚角 45° ニシテ其直徑4呎

ナリ而シテ其曲管部ノ壓水頭ハ100呎ニシテ管内ノ流速ハ7呎毎秒ナルトキ其曲管部ヲ水カ動カサントスル力ハ幾何ナリヤ。AB又ハCD斷面上ノ靜水壓ヲ P_2 トスレバ

$$P_2 = A \cdot p$$

$$A = \frac{\pi}{4} d^2 = \frac{3.14}{4} \times 4^2 = 12.56 \text{ 平方呎}$$

$$p = 100 \times 62.5 = 6,250 \text{ 呎}$$

故 = $P_2 = 12.56 \times 6,250 = 78,490 \text{ 呎}$

第305圖ニ於ケル如ク P_2 ハABトCDノ二斷面ニ働ク靜水壓ナル故ニ此二力ノ合力Rハ此曲管ヲ動カサントス。而シテ偏倚角 α ハ 45° ナルヲ以テ

$$R = P_2 \sqrt{\sin^2 45^\circ + (1 - \cos 45^\circ)^2} = 78,490 \sqrt{0.7^2 + (1 - 0.7)^2} = 59,652.4 \text{ 呎}$$

又(232)式ニヨリテ

$$\text{動水壓 } P = \frac{W}{g} v \sqrt{2(1 - \cos \alpha)}$$

$$W = A \times v \times 62.5 = 12.56 \times 7 \times 62.5$$

$$v = 7$$

$$\alpha = 45^\circ$$

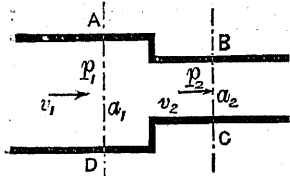
故 = $P = \frac{12.56 \times 7 \times 62.5}{32.2} \times 7 \times \sqrt{2(1 - 0.7)} = 919 \text{ 呎}$

$$R + P = 59,652.4 + 919 = 60,571.4 \text{ 呎}$$

ハ求ムル所ノ曲管ヲ動カサントスル力ナリ。

164. 管徑ノ急ナル縮小ニヨリテ起ル動水壓 第

第306圖



306圖ニ於ケル如ク管ABCD

ナル部分ニ於テADノ斷面

ハ a_1 ナルガ之ガ急ニ縮小シ

BC斷面ニテハ a_2 トナレリ。

然ルニ a_1 及 a_2 ニ於ケル流量

ハ相等シキ故ニADニ於ケル流速 v_1 ヨリBCニ於ケル流速 v_2 ハ大ナラザルベカラズ。依テ流水カAD斷面ヨリBC斷面ニ至ル間ノ動量ノ變化ハ $M(v_2 - v_1)$ ナリ。而シテ此變化ヲ起スニハ流水ノ方向ニ或力ガ働カザルベカラズ。而シテ其力ノ量ハ亦 $M(v_2 - v_1)$ ニテ表ハスコトヲ得ベシ。然ルニ水體ABCDニ働ケル外力ハAD斷面ニ働ク水壓 $a_1 p_1$ 、BC斷面ニ働ク $a_2 p_2$ 及管徑急縮ノ爲メニ流水ノ方向ニ反對ニ働ク或力Pナリトス。此三力ノ合力ガ流水ノ動量ニ變化ヲ與ヘシモノニシテ其力量ハ $M(v_2 - v_1)$ ナリ。即チ

$$M(v_2 - v_1) = a_1 p_1 - a_2 p_2 - P$$

今管内ノ流量ヲQトスレバ

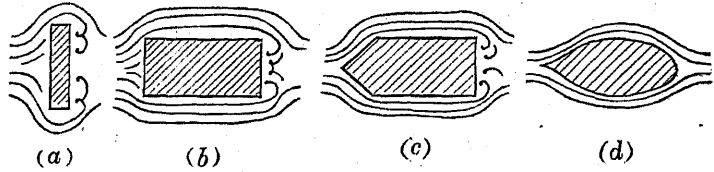
$$\frac{wQ}{g}(v_2 - v_1) = Q \frac{p_1}{v_1} - Q \frac{p_2}{v_2} - P$$

依テ $P = Q \left(\frac{p_1}{v_1} - \frac{p_2}{v_2} - w \left(\frac{v_2 - v_1}{g} \right) \right) \dots \dots \dots (239)$

Pハ管ノ急縮セル部分ガ流水ニ抵抗スル力ニシテ流水ガ急縮部ニ働ク動水壓ト等シカルベシ。

165. 水中ノ物體ニ於ケル流水ノ動水壓 或物體ガ流水中ニ立テルトキ又ハ靜水中ニ或物體ヲ動かストキ此物體面上ニ動水壓ガ加ハルベシ。而シテ此動水壓ハ物體ノ流水ニ向ヘル面ト等シキ斷面積ヲ有スル流水ノ撞撃力ニ比例スベシ。今流速ヲ v ト

第 307 圖



シ、流水ノ斷面積ヲ a トスレバ (227) 式ニヨリ流水ノ
 撞撃力ハ $2wa \frac{v^2}{2g}$ ニシテ流水ノ動水壓ハ之ニ正比例
 スルモノナリ。即チ次ノ式ニヨリテ之ヲ表ハスヲ
 得ベシ。

$$P = m.w.a. \frac{v^2}{2g} \dots \dots \dots (240)$$

m ハ係數ニシテ實驗ニヨレバ物體ガ只一個ノ平
 面ナレバ (第 307 (a) 圖) m ノ値ハ約 1.4 乃至 1.5 ナリ。又
 m ノ値ハ平面積ガ大ナル程大ナルモノナリ。

一般ニ流水ノ動水壓ハ之ト同ジ面積ヲ有スル射
 水ノ撞撃力ヨリ小ナリ。是レ流水ノ流線ガ物體ノ側
 縁ニ偏シテ集マル傾向アルガ故ナリ。又 m ハ物體
 ノ流水ニ向ヘル面及ビ下流面ノ形狀ニヨリテ異ナ
 ルモノニシテ第 307 (d) 圖ノ如キ形ナレバ流水ハ上
 流ノ尖端ニヨリテ分タレ下流ノ端ニ於テ靜カニ相
 合シテ物體ニ殆ンド動水壓ヲ加ヘズ。故ニ m ノ値ハ
 極メテ小ナルベシ。

(上 卷 終)